

2016年度（平成28年度）
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書



日 野 市

「第1回 浅川アユまつり」を開催いたしました。(表紙の写真)

8月14日(日)に浅川ふれあい橋付近にて「第1回浅川アユまつり」を開催いたしました。

日野市には市域の北側を多摩川、中央には浅川が流れ、これらを水源とする用水路が今でも総延長11.6kmを越えて残るなど、古くから人々の暮らしに「水」が大きくかかわってきました。

このイベントは、この良好で身近な環境を次世代に引き継ぐため参加者が日野市の豊かな水辺に親しむことで、水辺環境や生物多様性の恵みについて考える機会とし、より多くの人々が日野市の水辺の魅力に気づき、川に親しんでいただくことを目的として、東京都内水面環境活用施設整備事業補助金を活用して実施いたしました。

また、「自然環境の保全」という大きな方向性を共有する日野市と多摩川漁業協同組合日野支部が連携して、本事業を実施することにより、あらたな主体間の協働を生み出すことができました。

はじめに

日野市は 27.55 平方キロメートルの市域の中に、多摩川・浅川を代表とする河川が流れ、これらの流れによって作られた肥沃な沖積低地や、多摩丘陵、市役所や多くの企業が立地する日野台地が広がるなど、日本の地形をコンパクトに凝縮した中に私たちの歴史と暮らしがあります。



日野市では、古くから市民活動と行政とが協働して、用水路や湧水地などの水辺の保全・再生、緑地の保全活動など、私たちの暮らしと身近で恵まれた自然環境との共生を目指すまちづくりが様々な形で展開されてきました。

私たちはこの身近で良好な環境を大切にする暮らしを次世代につなぐため、市民一人ひとりの力を合わせて行動していきたいと考えております。

平成 28 年度の環境白書では、より分かりやすい白書を目指し、「みどり」、「水」、「ごみ」、「地球温暖化」、「生活環境」の分野ごとに点検、評価の表記方法を見直すなどの工夫をして、私たちの身近な環境の変化等について記述しています。これらの中には、都市が抱える厳しい現実を目の当たりにするデータもあり、私たちの暮らしの見直しや、目指すべきまちづくりのコンセンサスを得るための広範な市民の方々との議論と実践がますます重要であると感じるところであります。

地球規模で顕在化してきた温暖化や気候変動も、私たちの暮らしの在り様の一つ一つの積み重ねによって、その変化の大きさやスピードを大きく変えることへとつながります。本白書を通じて、ご覧になっていただいている皆様の目線で、私たちの暮らしと日野市の環境の変化について再確認いただき、一人ひとりが次世代のために持続可能なまちづくりを考え、一步一步着実に行動されることを切にお願いいたします。

日 野 市 長

大 坪 冬 彦

日野市環境基本条例と 2016 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りのない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成しています。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年度の事業に反映させたところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。このほか、市民団体・各学校・事業者等の環境への取組状況等も掲載しています。

望ましい環境像

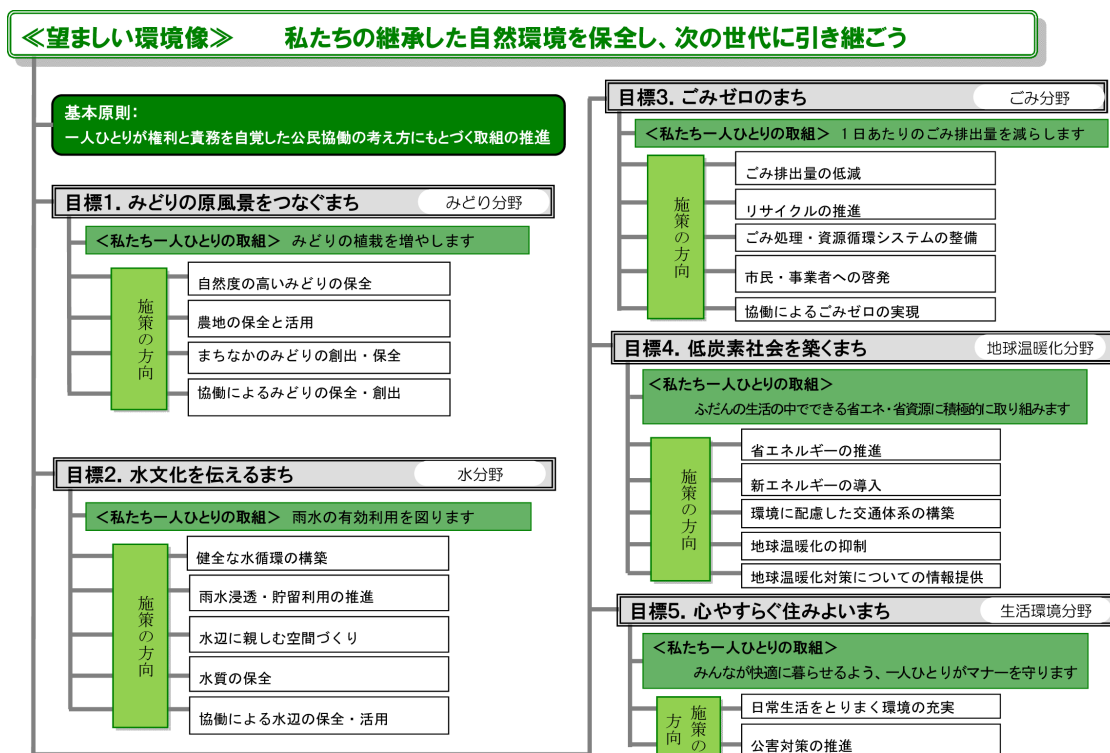
日野市環境基本計画とは

「市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で、必要とする良好な環境を確保するための方向性を示すもの」で、望ましい環境像は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り生かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

2016 年度（平成 28 年度）日野市環境白書

— 目 次 —

- ・ 日野市環境基本条例と 2016 年度日野市環境白書作成の経緯
- ・ 望ましい環境像

1. 2016 年度の日野市における環境への取組のトピックス	1
(1) 「第 1 回 浅川アユまつり」を開催いたしました！	1
(2) 日野用水開削 450 周年事業	2
2. 環境基本計画目標達成状況	3
(1) 環境の現状	5
(2) 市の取組状況	5
(3) 分野別目標達成状況	5
3. 環境の現状と取組状況の評価	8
みどり分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	9
水分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	17
ごみ分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	31
地球温暖化分野(環境の現状/市の取組状況/市民コメント)	41
生活環境分野(環境の現状/市の取組状況)	48
4. 環境への取組状況	57
(1) 市民および市民・行政の協働による環境への取組状況	57
(2) 行政による環境への取組状況	84
(3) 学校等による環境への取組状況	90
(4) 大学による環境への取組状況	96
(5) 事業者による環境への取組状況	97
5. 環境関連決算額	105
6. 市役所の環境配慮の状況	107
7. 環境基本計画の推進体制	109
(1) 環境基本計画の推進	109
(2) 日野市環境情報センターの活動状況	110
8. 環境審議会の意見等	113
9. 省エネ法に関する措置	115
 付表 1 指標・参考データ出典一覧	 116
付表 2 指標・参考データの見直しとその理由	117



1. 2016 年度の日野市における環境への取組のトピックス

2016 年度に実施された環境問題に対する取り組みの中から、つぎの 2 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) 「第 1 回 浅川アユまつり」を開催いたしました！

2016（平成 28）年 8 月 14 日（日）に浅川ふれあい橋付近にて「第 1 回浅川アユまつり」を開催いたしました。

日野市には市域の北側を多摩川、中央には浅川が流れ、これらを水源とする用水路が総延長 116 km を越えて伸び、古くから人々の暮らしに「水」が大きくかかわってきました。

このイベントは、参加者が、日野市の豊かな水辺に親しむことで、水辺環境や生物多様性の恵みについて考える機会とし、より多くの人々が日野市の水辺の魅力に気付き、川に親しんでいただくことを目的として、東京都内水面環境活用施設整備事業補助金を活用して実施いたしました。



また、「自然環境の保全」という大きな方向性を共有する日野市と多摩川漁業協同組合日野支部が連携して、事業を展開することで環境保全の推進と漁協の振興を図ることもねらいとしております。

イベントの内容については、多摩川漁業協同組合日野支部の協力のもと、ピストン釣りやつかみ捕り、伝統漁法体験やアユ等の伝統料理の試食会を行いました。

また、浅川潤徳水辺の楽校推進協議会や日野市国際交流協会、日野市商工会、日野市観光協会等にもご協力をいただき中、当日は、天候にも恵まれ、大きな事故や怪我等もなく、無事にアユまつりを終えることができました。

参加人数につきましては、当初の目標である 3000 人の予想を大きく上回る、約 6000 人と多くの方にご来場いただき、大盛況となりました。

今回のアユまつりは、第 1 回目ということから、今後に向けた課題検討事項もございますが、参加した方のご意見の大方は、今後釣りなどの川遊びをしてみたい、アユが美味しかったのでまた川魚を食べたい、日野の水辺の豊かさを知ることができた等、このアユまつりが水辺の環境や川魚に親しむきっかけとなっていることがうかがえました。



日野の豊かな水辺環境を存分に活用し、PR することができるこのアユまつりは、「水の郷」と呼ぶにふさわしい日野市ならではのイベントであり、今後も実施していきたいと考えております。

(2) 日野用水開削 450 周年事業

日野用水は永禄 10(1567)年に開削され、平成 29(2017)年には、開削 450 年の節目を迎えます。

江戸時代には、日野領一帯が「多摩の米蔵」と呼ばれるほどの水田を生み出し、また多くの精穀用の水車も設置されていました。ところが、昭和の高度成長期以降、その田園風景は、開発の波に洗われます。急激に市街地として姿を変える中、日野市では区画整理に合わせて水田と水路保全の措置を講じます。

こうした中、平成 7(1995)年に国土交通省は、都心の近郊ながら、地域固有の水をめぐる歴史・文化や優れた水環境の保持・保全、水と人との密接なつながりを形成し、水を活かしたまちづくりに優れた効果をあげているとして「水の郷百選」の一つに日野市を選定しました。

このような「水の郷 日野」を維持・継承するため、市では日野用水開削 450 年を契機に記念事業を計画、平成 27 年度に準備会を設け、28 年度に市長から委嘱を受けた日野用水土地改良区 2 名、市民 7 名、市職員 8 名により「日野用水開削 450 周年記念事業推進委員会」を設置しました。

① まち歩きイベントの実施

☆平成 28 年 6 月 11 日…探ろう！歩こう！日野用水

☆平成 28 年 9 月 3 日…日野の地形と水環境・歩こう！豊田用水

☆平成 29 年 2 月 11 日…知ろう！歩こう！向島用水

② 記念冊子の作成

☆記念冊子 1「日野の用水」小学校 3.4 年生向け

☆記念冊子 2「昨日と今日、そして明日へ」

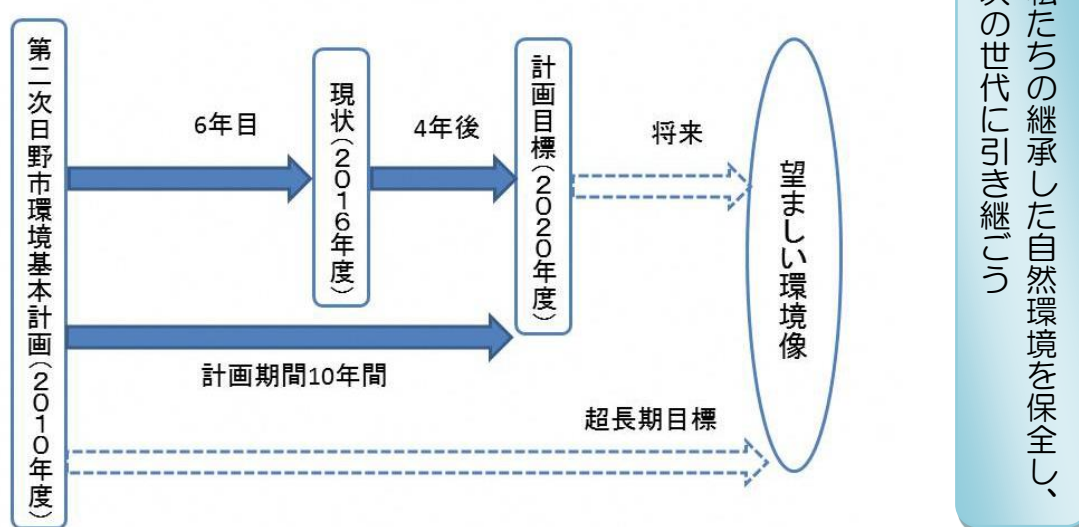


日野用水のまち歩き風景

2. 環境基本計画目標達成状況

2011年3月に策定された「第二次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。そして、“望ましい環境像”の実現に向けて、各分野(みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境)別に、10年後に目指す環境の姿(目標)と、目標を達成するための市の取り組み(施策)が掲げられています。

これらの“望ましい環境像”の指標(環境の現状を評価する指標)および市の取組状況(施策の実施状況)が、環境基本計画の目標を達成しているかどうかの指標となっています。本白書に掲載している指標は全体で52項目です。



環境基本計画の計画期間と目標

ここでは、「環境の現状」「市の取組状況」「分野別目標達成状況」の順に、第3章で詳述している内容について目標達成状況の概況をとりまとめています。各指標の評価基準は以下の通りです。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状(望ましい環境像)の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらとも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

2. 環境基本計画目標達成状況

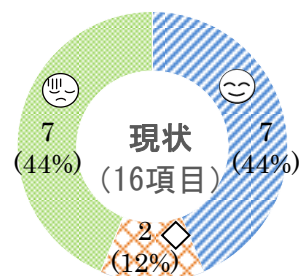
表1 本白書掲載の指標・データと目標達成状況

分野	施策の方向		施策	指標・参考データ		達成状況	掲載頁
みどり	環境の現状（望ましい環境像）の指標			指標1	土地利用現況調査「森林」の割合	×	9
				指標2	緑被率	×	9
				指標3	農地面積	×	10
				(参考)	生産緑地面積	-	10
				指標4	市民一人当たり都市公園面積	×	11
				(参考)	多摩地区の一人当たり都市公園面積	-	11
	自然度の高いみどり	民有緑地の公有地化等の推進		指標5	市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	○	13
		緑地管理協定等による保全の推進		指標6	緑地信託面積	△	13
		市民緑地活動の積極的支援		指標7	緑のトラストへの寄付件数	×	13
		ボランティアによる里山の管理と活用		指標8	雑木林ボランティア講座修了者数	○	14
	農地の保全と活用	市民農園等の拡充		指標9	市民農園の面積	○	14
		援農ボランティア制度の拡充		指標10	援農人数	○	14
		地元野菜にふれる機会の充実		指標11	「市」の開催日数	○	15
				指標12	学校給食における地元野菜等利用率	○	15
指標13				給食野菜納品農業者数	○	15	
まちのなかのみどりの創出・保全	生け垣緑化の推進		指標14	生け垣の助成件数	△	16	
水	環境の現状（望ましい環境像）の指標			指標15	浅川の水位	×	17
				指標16	湧水確認地点数・湧水量	△	18
				(参考)	湧水地点の状況	-	18
				指標17	用水の水質の状況	○	20
				指標18	河川・用水・湧水の水生生物確認状況	○	21
				(参考)	水生生物による水質の生物学的判定	-	22
				指標19	水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合	×	24
	湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	指標20	地下水揚水量	○	26	
	雨水浸透・貯留利用の推進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	指標21	雨水浸透ます設置個数	○	26	
	(参考)	透水性舗装整備状況	-	27			
	水質の保全	生活排水および汚水処理の施設整備	指標22	下水道普及率	○	28	
	協働による水辺の保全・活用	水辺に親しむ活動の推進	指標23	水辺イベントの開催数	○	28	
			(参考)	「ビオトープづくり」の取組件数	-	29	
		水辺の保全・管理活動の推進	指標24	「用水守」の登録団体数	○	29	
ごみ	環境の現状（望ましい環境像）の指標			指標25	1人1日当たりのごみ排出量	○	31
				(参考)	ごみの行方	-	32
				指標26	資源化率	△	32
				(参考)	ごみ量内訳	-	33
	ごみ排出量の低減	レジ袋無料配布中止の拡大 容器包装お返し大作戦の展開	指標27	マイバック持参率・レジ袋辞退率	○	35	
			指標28	ペットボトル、発砲トレーの行政回収率	○	35	
	リサイクルの推進	分別ルールの徹底 生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	指標29	焼却ごみの組成（乾ベース）	○	36	
			(参考)	焼却ごみの組成（湿ベース）	-	36	
			指標30	生ごみ処理機補助の件数	○	37	
	市民・事業者への啓発	情報提供ツールの充実	指標31	生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	×	38	
			指標32	環境学習出前講座の実施回数	×	38	
			指標33	ごみ相談窓口への相談件数	○	39	
	協働によるごみゼロの実現	新聞紙の民間回収への移行	指標34	クリーンセンター見学者数	×	39	
			指標35	新聞紙の行政回収量	○	39	
地球温暖化	環境の現状（望ましい環境像）の指標			指標36	日野市二酸化炭素排出量	×	41
				(参考)	エネルギー消費量	-	42
				指標37	公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率	○	43
				指標38	公共交通機関（ミニバス・バス）の利用人数	○	43
				指標39	「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量	○	43
	省エネルギーの推進	CO2の見える化の推進	指標40	ワットチェッカー等貸出状況	△	45	
	新エネルギーの導入	省エネ診断の支援	指標41	省エネ診断の参加事業者数	×	45	
		太陽光発電等導入補助の実施	指標42	太陽光発電等の導入補助件数	○	46	
		太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	指標43	公共施設の新エネルギー導入状況	○	46	
	環境に配慮した交通体系の構築	渋滞の解消	指標44	都市計画道路の整備率	○	47	
生活環境	環境の現状（望ましい環境像）の指標			指標45	心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合	○	48
				(参考)	苦情受付件数	-	48
	日常生活をとりまく環境の充実	PRの実施	指標46	マナーアップのための啓発活動状況	○	50	
	公害対策の推進	大気汚染物質の監視	指標47	浮遊粒子状物質（SPM）年平均値	○	50	
			指標48	二酸化窒素の年平均濃度	○	51	
			指標49	二酸化窒素24時間測定結果	○	52	
			指標50	雨の酸性度	△	52	
			(参考)	富士山ウォッチング	-	53	
		道路交通騒音の測定および対策の実施	指標51	道路交通騒音	△	54	
	航空機騒音についての対策	指標52	横田飛行場に係る航空機騒音	○	55		
放射線測定		(参考)	市内空間放射線量測定	-	56		
		(参考)	災害廃棄物、焼却灰及び排ガスの放射線量	-	56		
		○：達成　×：未達成　△：どちらともいえない　－：評価対象外（参考データ）					

○：達成 ×：未達成 △：どちらともいえない -：評価対象外（参考データ）

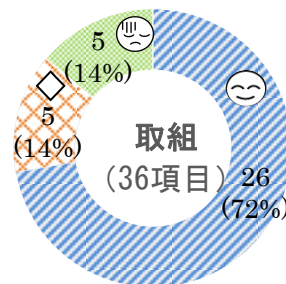
(1) 環境の現状

環境の現状（望ましい環境像）を評価する指標は52指標中16指標あります。目標達成状況は前出の表1と右の円グラフに示す通りで、16の指標のうち7指標で「達成」と評価されています。「未達成」の7指標の内訳は、「土地利用現況調査「森林」の割合」、「緑被率」、「農地面積」、「市民一人当たり都市公園面積」、「浅川の水位」、「水辺に親しみを覚える市民の割合」、「日野市二酸化炭素排出量」です。みどり分野と水分野において、現状が厳しいことがうかがえます。



(2) 市の取組状況

市の取組状況を評価する指標（「環境の現状」の指標以外）は52指標中36指標です。目標達成状況は前出の表1と右の円グラフに示す通りで、36指標のうち26指標（72%）で「達成」と評価されています。「未達成」は5指標（14%）と少なく、行政や市民の努力が伺えます。

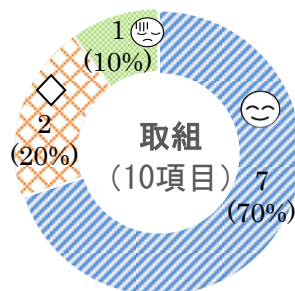
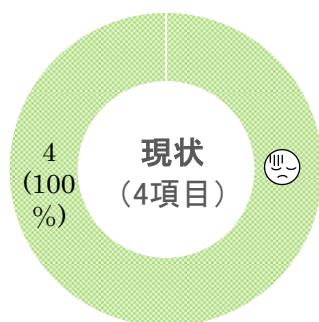


(3) 分野別目標達成状況

達成 (達成) 未達成 (未達成) どちらともいえない (どちらともいえない)

○みどり分野

みどり分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中全てが目標を未達成と評価されており、厳しい状況と言えます。一方で、取組では10指標中7指標で目標を達成しており、行政や市民の努力は評価できます。取り組みにより現状が改善されない点が課題と言えます。



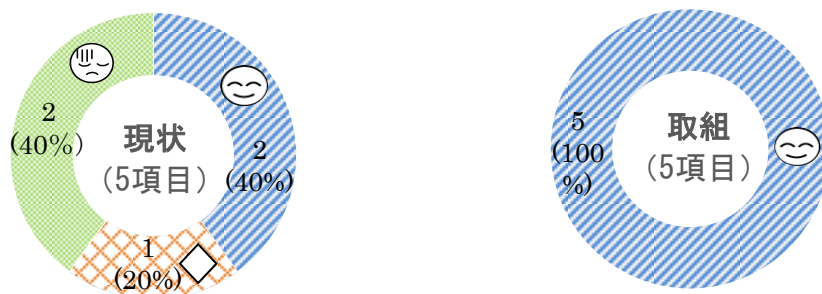
ここがポイント！

- 森林の割合、緑被率、農地面積のいずれも減少。緑の減少に歯止めがかかりません。
- 「雑木林ボランティア講座」「農の学校(援農ボランティア育成講座)」については着々と修了者数が増加。修了者のボランティア活動への参加を期待します。
- 「緑のトラスト」への寄付件数は少ないものの、トラスト運動の発端となった真堂が谷戸の緑地公有地化に向けて手続きが進んでいます。

2. 環境基本計画目標達成状況

○水分野

水分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、5指標中2指標で「達成」、1指標が「どちらともいえない」、2指標が「未達成」でした。数字で見れば良くも悪くもないということですが、「未達成」指標の「浅川の水位」については、流域全体の問題であり、大きな課題と言えます。取組では5指標すべてが目標を達成しており、行政や市民の努力が評価できます。



ここがポイント！

- 浅川の流量(水位)は目標値を未達成の状況が続いています。水辺の景観や河川生態系への影響が心配です。
- 下水道普及率は高い水準を保ちながら微増し、河川や用水の水質は良好です。
- 市による湧水量調査や水生生物調査の実施、水辺に親しむ活動が例年通りの規模で開催されるなど、水環境保全のための取り組みが行われています。

○ごみ分野

ごみ分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、2指標中1指標で「達成」、1指標が「どちらともいえない」で、悪くない状況です。取組でも9指標中6指標で「達成」と評価されており、行政や市民の意識の高さがうかがえます。

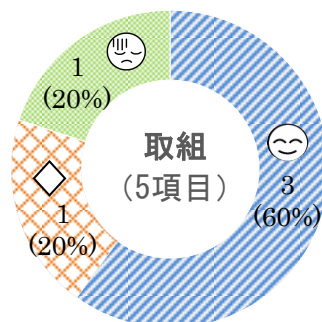
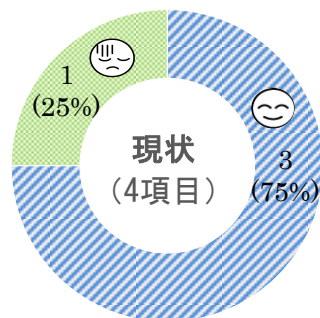


ここがポイント！

- 1人1日当たりのごみ排出量は年々減少し、目標値に近づいています。
- 容器包装お返し大作戦や生ごみの家庭内循環(生ごみ処理機補助件数)については一定の成果が見られ、市民のごみ問題への関心の高さがうかがえます。
- 子供たちへの環境教育である環境学習出前講座やクリーンセンター見学者数がここ数年減少傾向にあり、将来の市民意識に影響がでないかが気になります。

○地球温暖化分野

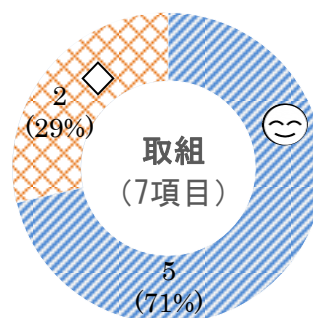
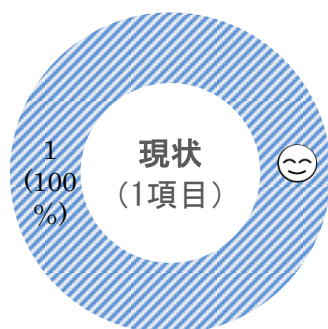
地球温暖化分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状は、4指標中3指標で「達成」で、数字だけ見れば悪くない状況ですが、「未達成」の1指標が最も重要と言える「日野市二酸化炭素排出量」というところが厄介です。取組では5指標中3指標で「達成」となっており、「未達成」は1指標のみで、行政や市民の努力はある程度評価できそうです。

**ここがポイント！**

- 二酸化炭素排出量は2年続けて減少したものの、短期目標(2015(平成27)年度に設定)を達成できていません。排出量の総量で評価するため、人口の増加について考慮する必要があるかもしれません。
- 「ふだん着でCO₂をへらそう宣言」や「環境家計簿」といった、市民一人一人の取り組みについては目標値を大きく上回っており、市民の意識の高さは評価できます。

○生活環境分野

生活環境分野の現状（環境の現状）と取組（市の取組状況）の目標達成状況は以下に示す通りです。現状を評価する指標は1つだけで「達成」と評価されています。取組の指標は7指標ありますが、このうち6指標は大気質や騒音の現況を評価するものです。「未達成」の指標はなく、生活環境については良好な状況が保たれていると言えます。

**ここがポイント！**

- 「未達成」の指標は1つもなく、良好な生活環境が維持されていると言えます。
- 「雨の酸性度」や「空間放射線量測定」といった、市民の関心が高いデータも掲載しています。

3. 環境の現状と取組状況の評価

ここでは、「日野市環境基本計画」における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

評価の凡例と基準は第2章に記載していますが、以下に再掲します。

凡例	評価	評価の基準	
		環境の現状（望ましい環境像）の指標	市の取組状況の指標
☺	達成	計画目標を達成もしくは良くなる傾向	過去の実績を踏まえて良くなる傾向
☹	未達成	計画目標を未達成もしくは悪くなる傾向	過去の実績を踏まえて悪くなる傾向
◇	どちらも言えない、判断できない(定量的な比較が困難なもの等)		

(1) 環境の現状

「日野市環境基本計画」では、分野ごとに現在の環境（環境の現状）を評価する「望ましい環境像」の指標と目標値が設定されています。これらの指標の目標年次は、計画策定時から10年後の2020年度（平成32年度）としており、当白書で年度ごとに各数値を確認することにより、「将来の望ましい環境像」に近づいているかを把握することができます。ここでは、各指標ごとに現在までの推移をグラフや表にまとめています。

なお、ごみ分野については「第3次日野市ごみゼロプラン(平成29(2017)年3月)」で定められた目標年度と目標値を2016年度以降適用していきます。

(2) 市の取組状況

環境基本計画で施策として位置付けられた取り組みについて表にまとめました。また、指標ごとに、施策の実施状況や、進捗状況、効果等を確認するため、現在までの推移をグラフや表にまとめています。指標が定められていない施策については、実施状況を記載しました。ただし、全ての施策について掲載すると膨大な量となるため、定数的な評価が可能な施策を中心に抽出しています。

なお、2016年度は、市の取り組みに対して単年度の目標値が設定されていないため、2020年度の計画目標が設定されている指標については掲載し、評価の参考としました。また、ごみ分野に関しては、「第3次日野市ごみゼロプラン(平成29(2017)年3月)」で目標値が定められているものについてはその値を掲載しています。

(3) 市民コメント

2001年度以降、白書には環境基本計画作成に携わった方々による分科会ごとのコメントを掲載してきました。引き続き今回も環境基本計画推進会議に参加する市民のコメントを掲載しました。

みどりの分野

< 目 標 >

みどりの原風景をつなぐまち

1. <環境の現状>

1. -1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

森林の割合
目標値: 7.4%

緑被率
目標値: 32.7%
(2020(平成32)年度)

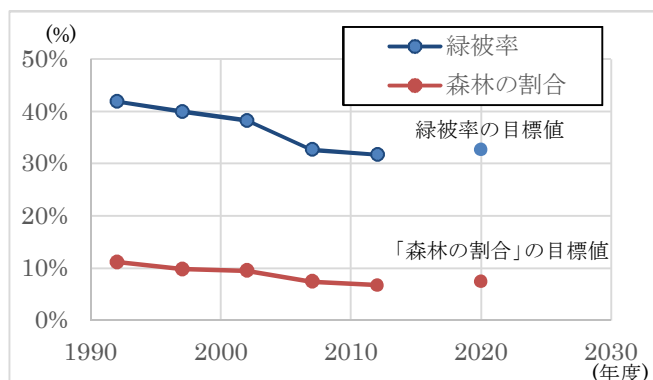
☹ 指標 1: 土地利用現況調査「森林」の割合[5 年毎調査]

☹ 指標 2: 緑被率 [5 年毎調査]

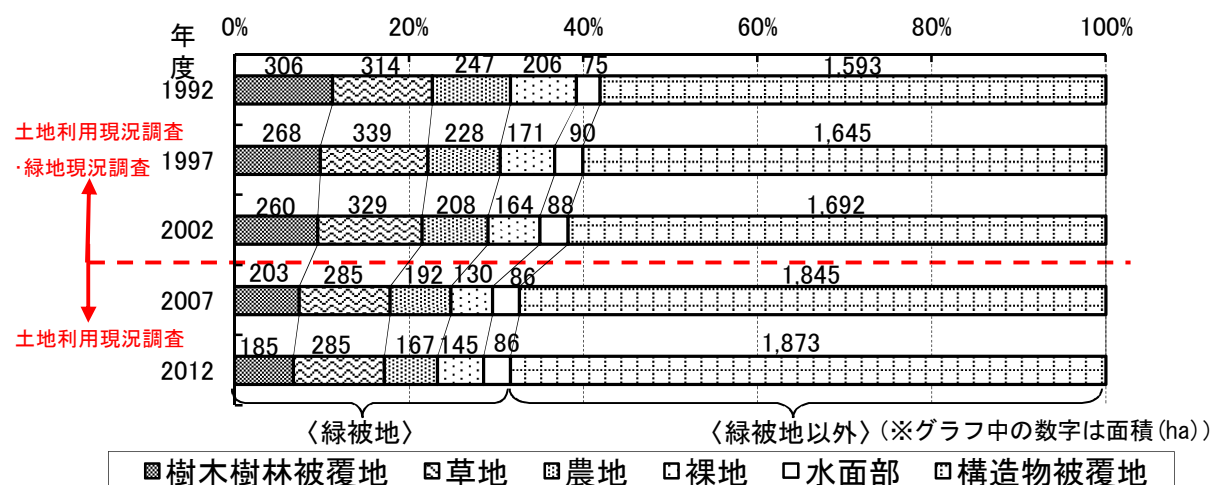
環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、その中でも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については、2007 年度数値の維持を目標として掲げています。

調査は 5 年ごとに実施しており、本白書では直近の 2012 年のデータを再掲しています。

下記に示すように 2007 年以降の調査内容が異なることに注意しながら現状をみても、減少傾向であることに変わりはないと思われます。2012 年度の「森林」の割合は 6.7%で、2007 年度に比べ 0.7 ポイント減少しました。また、緑被率も 31.7%と 1.0 ポイント減少しています。



緑の構成比[5 年毎調査]



※1992～2002 年度調査は土地利用現況調査と同時に進行する緑地現況調査の成果報告値。
2007 年度以降の調査は東京都が行っており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

3. 環境の状況と取組状況の評価

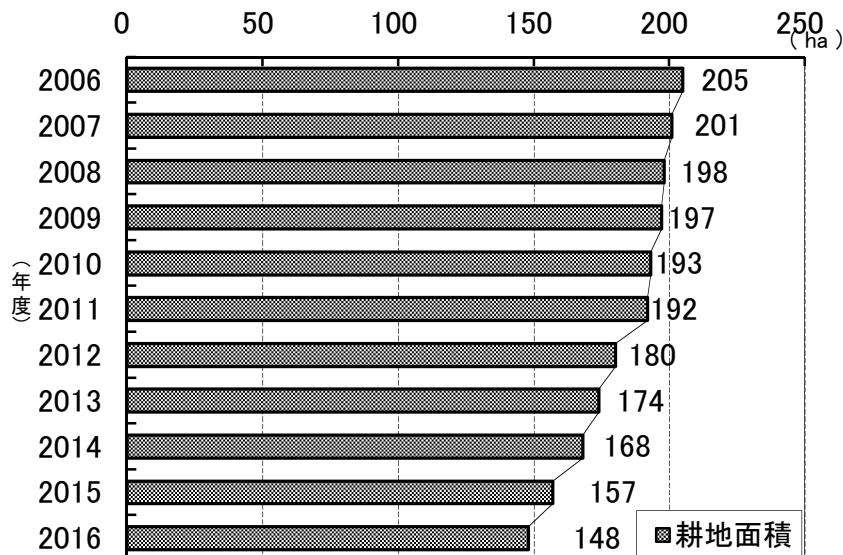
1.-2 農地面積



指標 3：農地面積

目標値: 160ha

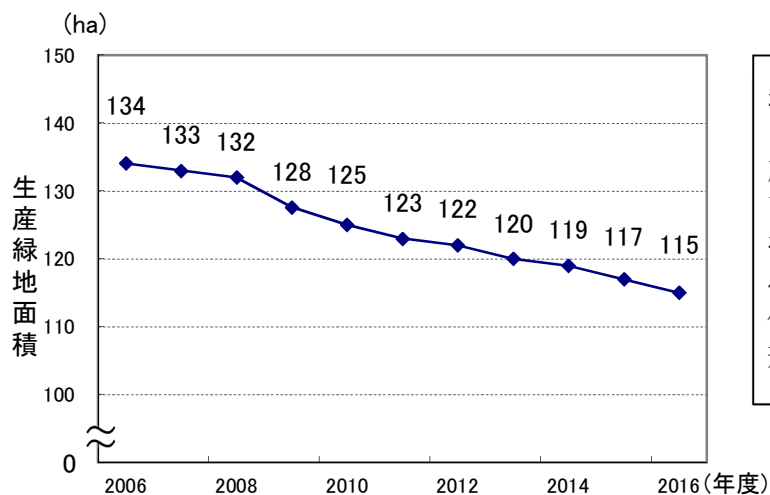
(2020(平成 32)年度)



農林水産省発表の耕地面積の数値を使用しています。

農地は年々減少し、2015年度には157ha と目標値を割り込んでしまいました。2016年度はさらに減少し148ha となり、農地の減少に歯止めがかかりません。今後の推移を注視していく必要があります。

(参考) 生産緑地面積



生産緑地地区とは

市街化区域内にある農地等の農業生産活動に裏付けられた緑地機能に着目して、農業が営まれている等の一定の要件を満たす一団の農地について、「保全する農地」として計画的に保全し、税制上の優遇措置などにより良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度。

生産緑地は2002年度から他市に先がけて追加指定を行っています。2016年度は2015年度に比べ、2ha減少の115haでした。10年前と面積を比較すると約19haの減少となり、年間約2haの生産緑地が減少しています。生産緑地の面積減少の要因には、相続や後継者難等が考えられます。

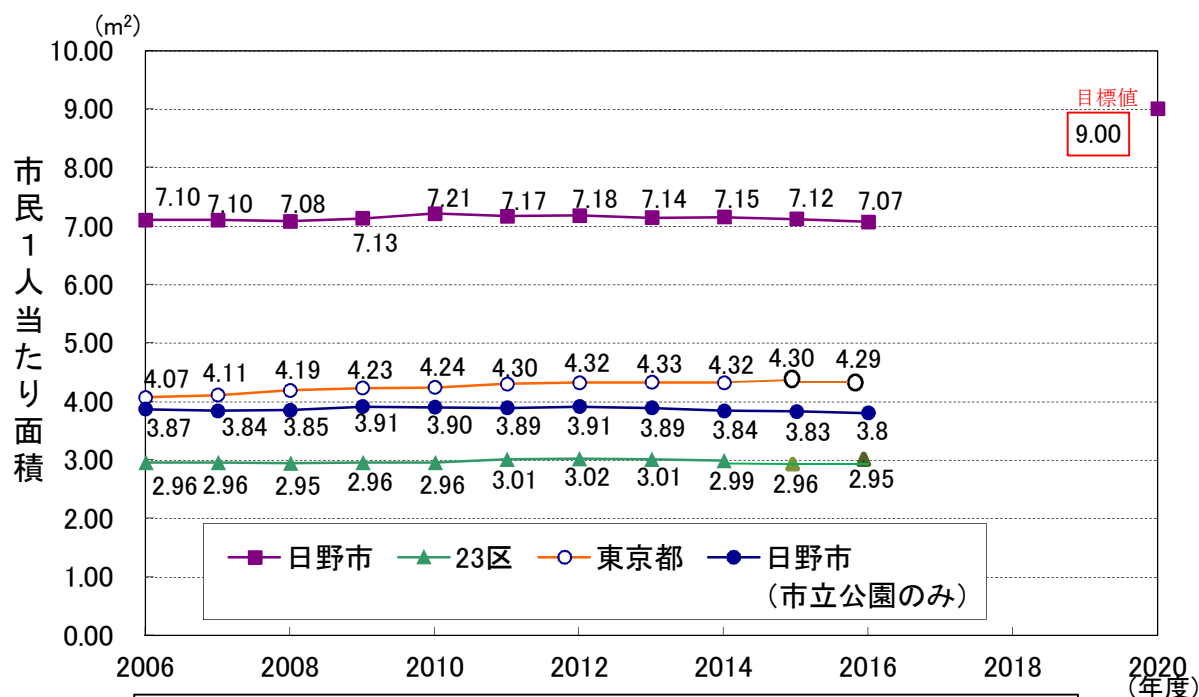
1. -3 市民一人当たり都市公園面積

目標値: 9.00 m²/人

(2020(平成32)年度)

指標4：一人当たり都市公園面積

一人当たり都市公園面積は2006年以降ほぼ横ばいで、2020年度に目標値の9.00 m²/人を達成するのは困難な状況です。日野市の総人口が増加傾向にあることも一因と考えられます。



都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

(参考)：多摩地区の一人当たり都市公園面積

(2016年4月1日現在)

10 m ² 以上	7 m ² 以上	4 m ² 以上	4 m ² 未満
瑞穂町(36.38)	昭島市(9.73)	日野市(6.97) ※	あきる野市(3.70)
武蔵村山市(17.22)	町田市(9.66)	府中市(6.85)	日の出町(3.21)
多摩市(15.96)	立川市(9.48)	福生市(6.85)	三鷹市(3.10)
八王子市(11.71)	東大和市(8.14)	小金井市(6.39)	小平市(2.69)
稲城市(11.07)		羽村市(6.10)	東久留米市(2.09)
		調布市(5.35)	国立市(1.88)
		東村山市(5.15)	国分寺市(1.76)
		青梅市(4.40)	狛江市(1.30)
		武蔵野市(4.17)	西東京市(1.22)
			清瀬市(0.68)

※指標4とは用いる人口が異なるため、数値が異なります。

市部の平均が7.26 m²となり、日野市は、ほぼ平均面積となっています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

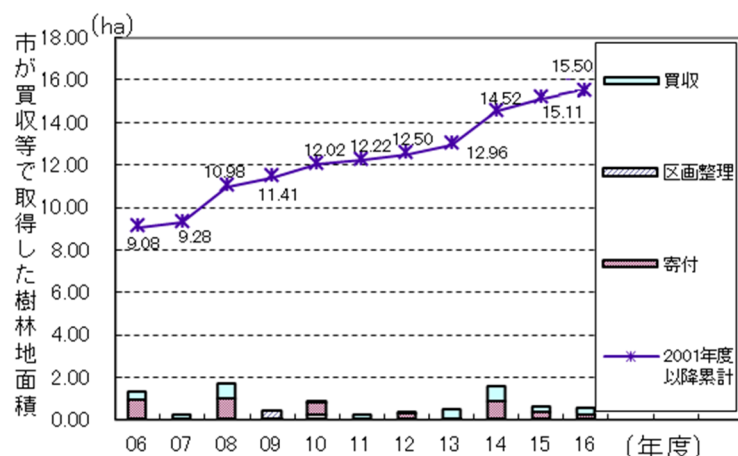
目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
緑の原風景をつなぐまち	自然度の高いみどり	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化等の推進	国費、都費を導入し、約 3,740 m ² の用地買収を行った。 (緑と清流課) →指標 5(P.13)
			緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託制度など、緑地所有者との管理・利活用に関する協定による緑地の保全を図る。 →指標 6(P.13)
			市民緑地活動の積極的支援	ひの緑のトラストなど、市民の緑地保全活動の普及・啓発を積極的に支援するとともに、市民とともに有効的な方法について検討し、緑地の保全を図る。 →指標 7(P.13)
			「残したいみどり」の選定	2014 年度末に「残したいみどりの選定」の成果まとめを報告。今後生き物マップの作成という施策と一緒に進めていく。 (緑と清流課)
		里山文化の継承を兼ねた管理体制	ボランティアによる里山の管理と活用	第 12 期の雑木林ボランティア講座を年間を通して 5 月から翌 3 月まで実施し、里山の維持管理について学んでもらった。その結果、例年より多めの修了生がボランティア団体に加入し 2017 年から各団体において活動することになった。 (緑と清流課) →指標 8(P.14)
	農地の保全と活用	構築農のある風景の保全	市民農園等の拡充	・市営市民農園は 11 農園(664 区画) ・民営(NPO 法人めぐみ)による市民農園 3 園 ・農家経営による農業体験農園は 3 園(81 区画)と前年度と変わらず。 (都市農業振興課) →指標 9(P.14)
			援農ボランティア制度の拡充	2005 年 1 月に「農の学校」を開校し、現在まで、12 期 212 名の市民援農ボランティアを輩出した。卒業生は NPO 法人日野人・援農の会でボランティア活動を行っている。また、NPO 法人日野人・援農の会により土・日等の休日に援農が出来る方を対象に 1 年単位で実習を行い、終了後に援農ボランティアとして活動する「野菜栽培塾」を開催。 ・2016 年度は 90 名が 45 農家で援農。 ・現在 13 期生 19 名が 2017 年 12 月まで受講。 (都市農業振興課) →指標 10(P.14)
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	・学校給食供給農家は、現在 42 農家が供給。 ・市役所本庁舎 1 階ロビーにて、毎月第 2、第 4 木曜日にファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチを提供。 ・「ひの恵み焼きカレーパン」への素材提供(ジャガイモなど)。 (都市農業振興課) →指標 11(P.15)
	まちのなかのみどりの創出・保全	民有地等の緑化	生け垣緑化の推進	生け垣設置補助利用により、3 件 39m の生け垣が設置できた。年度当初に多くの問い合わせがあったが、申請をキャンセルするケースもあった。より市民が使いやすい制度にするため 2016 年度この制度の見直しを検討した。 (緑と清流課) →指標 14(P.16)
		協働によるみどりの保全・創出	みどり・生き物マップの作成	残したいみどりの上に生き物の現状を載せることや整理の仕方など今後も引き続き検討する予定。 (緑と清流課)

2. -1 自然度の高いみどり

(1) 丘陵地・斜面緑地等の保全

民有緑地の公有地化等の推進

☺ 指標 5：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

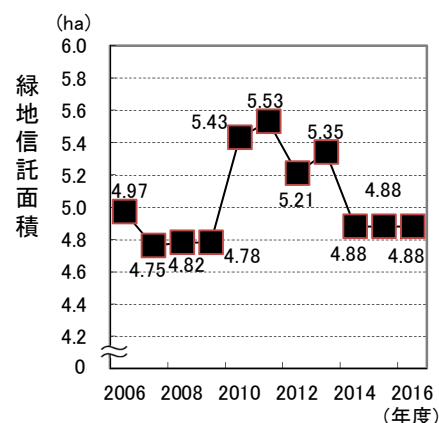


2016 年度に市が取得した樹林地面積は、林間公園用地の買収が約 0.37ha 寄付が約 0.02ha、合わせて約 0.39ha が増加しました。

緑地信託面積では、公有化を図るべく先行取得により解除を行ったため2014年度は2013年度から約0.46ha 減少しましたが、2014年度以降は総面積 約4.88ha に変化は見られません。

緑地管理協定等による保全の推進

◇ 指標 6：緑地信託面積



緑地信託制度とは

良好な緑地、里山等について、所有者と市が信託契約を結び、市が緑地を管理する制度のことです。市がサポートすることで、安定した緑地維持ができる措置を図っています。

市民緑地活動の積極的支援

☺ 指標 7：緑のトラストへの寄付件数

年度	寄付件数(件)
2009	32
2010	85
2011	248
2012	592
2013	281
2014	279
2015	85
2016	13
累計	1,615

2015 年度目標値：累計 3,500 件

2016年度は13件の寄付があり累計では1,615件となりました。累計での寄付件数は昨年度の目標値にも遠く及ばないものの、トラスト運動の発端となった真堂が谷戸の緑地について、公有地化に向けた手続きが進んでいます。

なお、2011年度以降は街頭募金の件数も計上されています。

ひの緑のトラストとは

貴重な里山の保全を市民自らの力で支援するために2009年12月に設立されました。市内の市民団体が主体となって、市の公有地化を進めるための取得費として募金活動を実施しています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

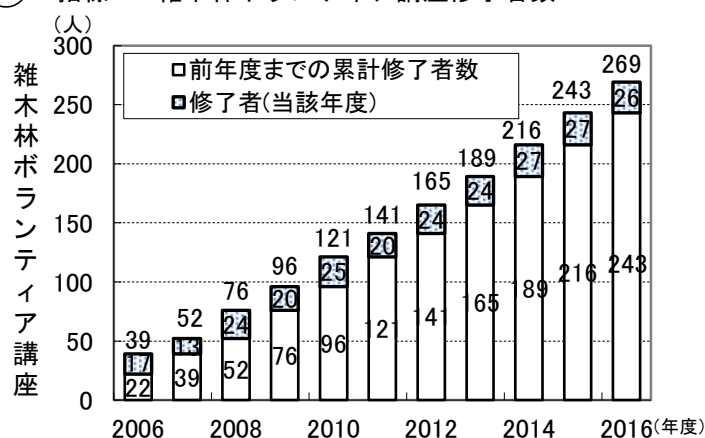
(2) 里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築

ボランティアによる里山の管理と活用



指標 8：雑木林ボランティア講座修了者数

2020 年度目標値：累計 339 名



雑木林ボランティア講座は、2016 年度で 12 年となりました。修了者は、2005 年度の 22 人から延べ 269 人に達しました。修了者は順調に増加しています。

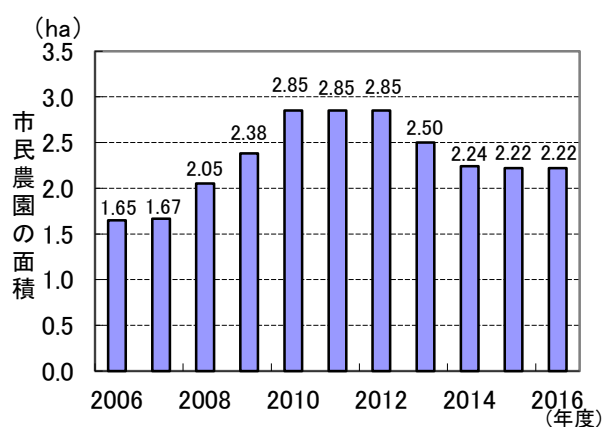
2-2 農地の保全と活用

(1) 農のある風景の保全

市民農園等の拡充



指標 9：市民農園の面積



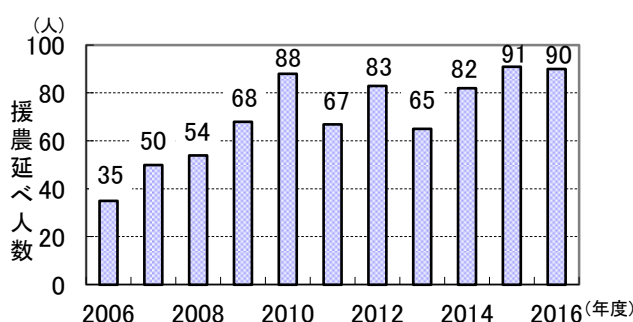
市民農園の面積は、市が開設した市民農園（11 園）の面積と農業体験農園（3 園）の合計です。面積の内訳は、市民農園 11 園 16,611 m²、農業体験農園 3 園 5,518 m²（岸野農園 1,080 m²、石坂ファームハウス 1,616 m²、コバサン農園 2,822 m²）です。

市では民営による市民農園の支援を進めており、民営による市民農園は 2016 年度は 1 か所増えて 3 園となり、市民農園の数は 14 農園となりました。

援農ボランティア制度の拡充



指標 10：援農人数



市民農園が農地保全になっている理由

日野市の市民農園では、宅地化農地（生産緑地ではない）を農家から借用しています。様々な理由で、自分で耕作することが困難な農地を市民農園として活用することで、農家の負担軽減・農地の保全・市民が土に親しむ場の提供を行なっています。

なお、市民農園に借用する農地は、固定資産税が免除されます。

(2) 地産地消による生産流通システムの確立

地元野菜に触れる機会の充実

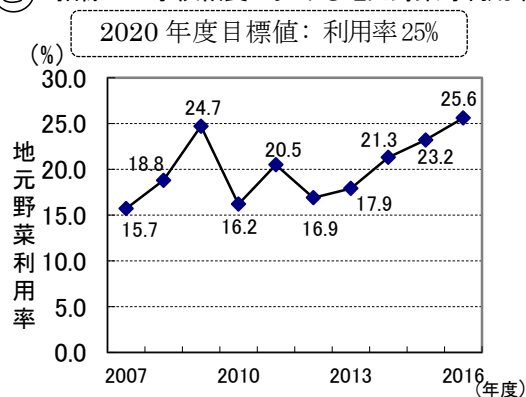
2020 年度目標値:共同直売所:3 か所
定期即売会:3 か所
イベント会場での即売実施

指標 11: 2016 年度に実施した「市」の開催日数

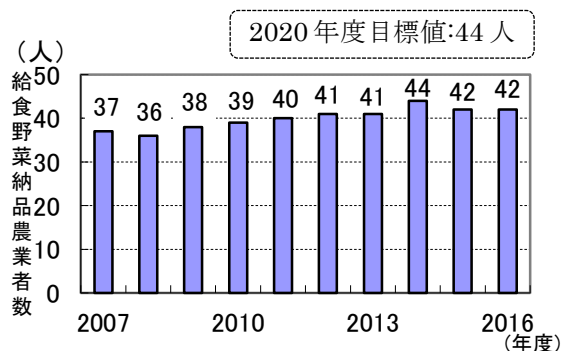
「市」の開催場所(2016 年度)	区分	開催時期	開催日数
日野農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
マルシェひらやま(平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	304
JA 七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野市立七ッ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	357
ひののやっちゃ場	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平の森 ユリの木集会所	定期即売会	通年、月～土曜	140
日野市役所(NPO 法人めぐみ)	定期即売会	月 2 回、第 2 木曜・第 4 木曜	24
春の野菜苗即売会(1 か所)	定期即売会	4 月下旬	1
ひのよさこい祭	イベント即売	7 月 31 日(日)	1
産業まつり	イベント即売	11 月 12 日(土)・13 日(日)	2
暮れの野菜即売会	定期即売会	12 月下旬	5
都市農業シンポジウム	イベント即売	12 月 10 日(土)	1
合計			2,027

2016 年度の「市」は、共同直売所 5 ヶ所、定期即売会 6 か所、イベント即売 3 回で開催されました。開催数は 2027 回で、2013 年度以降同様の開催数を維持しています。

指標 12: 学校給食における地元野菜等利用率



指標 13: 給食野菜納品農業者数



※学校給食における地元野菜等利用率は、学校給食に使用する野菜等のうちの金額ベースの、地元野菜等の使用比率。

学校給食における 2016 年度の地元野菜等利用率は、前年度の 23.2%と比較して 2.4 ポイント増加して 25.6%となりました。

2016 年度の給食野菜納品農業者数は、前年度と同じ 42 人でした。

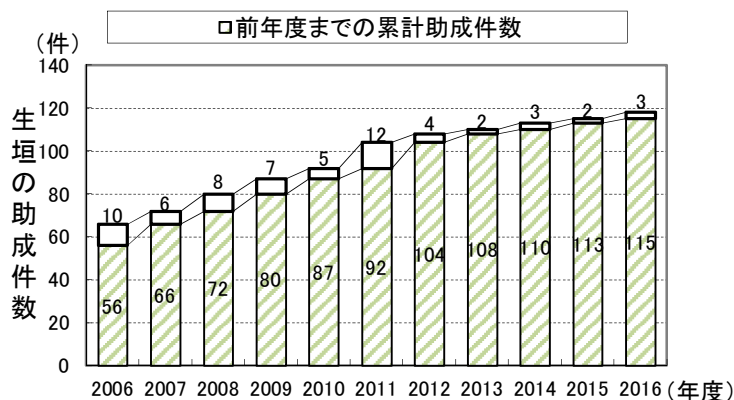
3. 環境の状況と取組状況の評価

2. -3 まちなかのみどりの創出・保全

(1) 民有地等の緑化



指標 14: 生垣の助成件数



生け垣緑化の促進

日野市では、住宅地を安全、快適で緑豊かな生活環境にする目的で、2000年から生垣設置とブロック塀撤去に、それぞれ1mあたり5,000円と3,000円の費用を補助しています。2012年度から補助予算を大幅に削減したため助成件数は減少傾向となっています。2016年度は3件でした。

3.<市民コメント>

第2次環境基本計画が策定されて、年が経過し、その間にみどりグループと市の主管課は、「残したいみどり」のアンケート活動や環境セミナー等の活動を通じて、みどりに関する様々な背景や実態を学ぶことができました。その経過を踏まえて改めて目標値や指標をみると、見直すべき部分があると感じます。たとえば、森林の割合が目標値に掲げられており、「自然度が高い「森林」となっていますが、日野市で「森林」とはアズマネザサの繁茂した雑木林、寺社林、また、河原に成立しているハリエンジュやニワウルシの樹林であったりします。寺社林は比較的自然度の高い「森林」と言っていますが、雑木林や外来種の樹林はそうとは言えません。また、昨今、森林の重要性もさることながら、生物多様性からみた草地や河川等の裸地などの重要性が認識されるようになっていきます。日本の気象条件であれば、人が何も手を加えなければ必ず森林が成立します。今後は、森林だけが重要なのか、また、森林の質についても再検討したうえで、指標とすべき項目を考える必要があります。

農地の減少については、私有地である農地を残すことの難しさを学ぶことができました。その根本にある現状の法制度や社会的背景が続く限り、農地は減ることはあっても増加させることはまず困難です。このような根本にある問題に切り込み指摘していくことも環境白書の評価・分析として必要だと思えます。

取組の指標のうち「雑木林ボランティア講座終了者数」があります。これまでの市との議論のなかで、講座受講者から実際の保全活動団体の発起まで及んでいないという実態を知りました。これは冒頭の雑木林の質の問題にも関連しますが、講座受講者の累計人数での評価が本質的な課題に対応しているのか、解決につながるのかという疑問が出て、やはり指標の再考が必要と考えます。取組状況が現状の改善に反映されていないということと無関係ではないと考えます。次期の計画の策定時には、この「学び」を活かして、みどりの課題を適切に評価し、課題解決に結びつくものにしていく必要があります。

水分野

< 目 標 > 水文化を伝えるまち

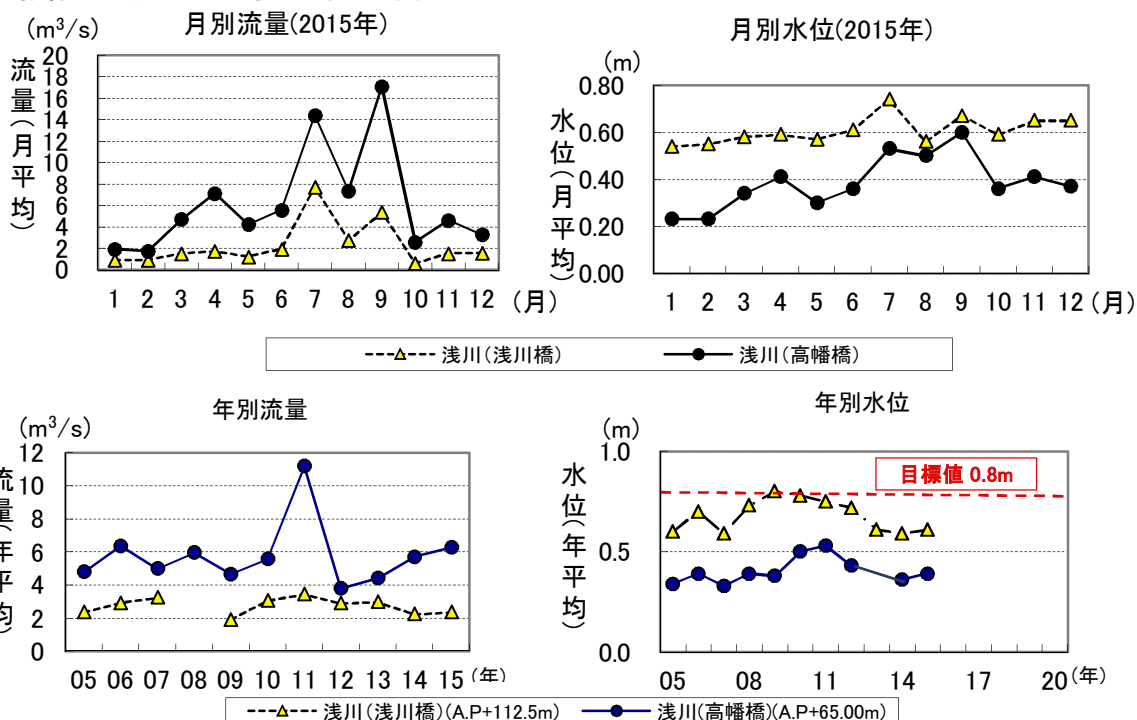
1. <環境の現状>

1.-1 浅川の水位

目標値: 年平均 0.8m
(2020(平成 32)年度)



指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位



浅川橋の 2015 年の月平均流量は、7 月に最大値(7.71m³/s)、10 月に最小値(0.63m³/s)、年平均流量は 2.34m³/s となりました。月平均水位は、0.54m(1 月)から 0.74m(7 月)の間で変動し、年平均は 0.61m となりました。

高幡橋の 2015 年の月平均流量は、9 月に最大値(17.1 m³/s)、2 月に最小値(1.78m³/s)が観測され、年平均流量は 6.25m³/s となりました。月平均水位は 0.23m(1 月, 2 月)から 0.60m(9 月)の間で変動し、年平均は 0.39m となりました。

気象庁八王子観測地点での年降水量は 2014 年 1798mm、2015 年 1740mm と大きな差はありませんでしたが、両地点における年平均の流量、水位ともに 2014 年よりやや大きくなりました。

2015 年は 9 月 9 日から 11 日にかけて関東地方及び東北地方に豪雨があり、災害が発生しました。八王子観測地点における 9 月の降水量は 374mm に達しました。そのため下流の高幡橋では 9 月に流量、水位ともに最大値が観測されました。また 7 月の降水量は 411mm と多く、上流の浅川橋では流量、水位ともに最大となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

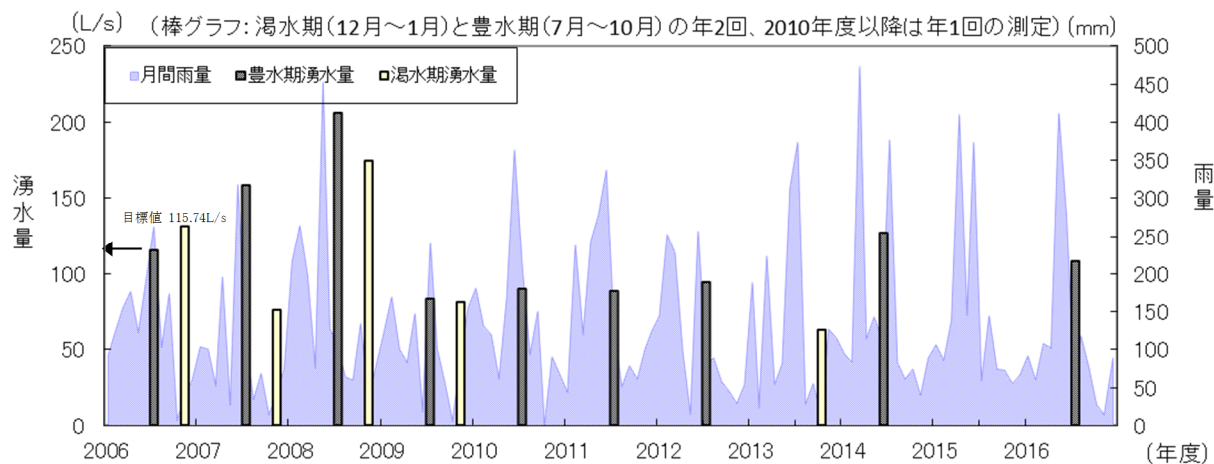
1.-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179 箇所

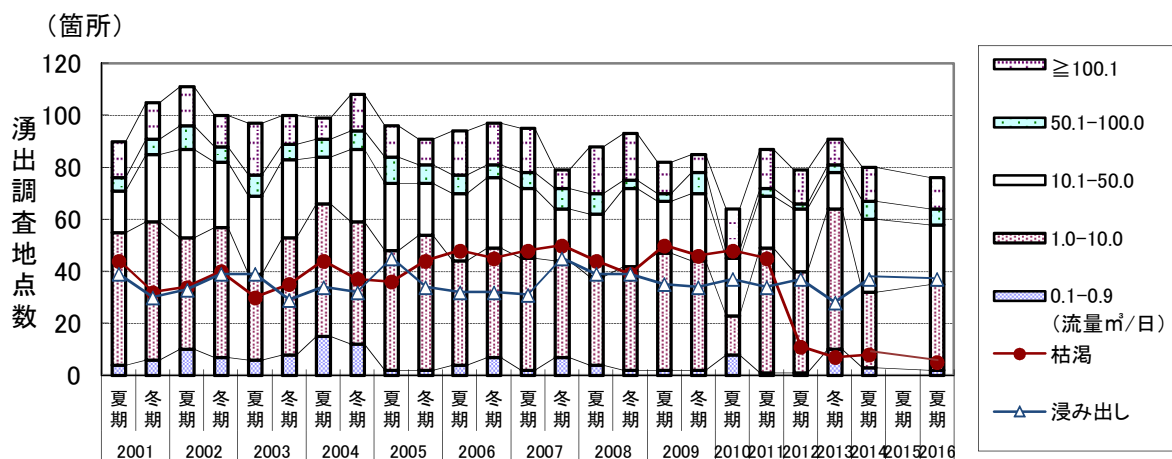
【湧水量】10,000t/日 (115.74L/s)

(2020 (平成 32) 年度)

◇ 指標 16 : 月別雨量と調査地点の総湧水量



(参考) : 湧水地点の状況



2016 年度の日野市内全域の総湧水量調査(湧水現況調査)は 2016 年 10 月 21 日～11 月 2 日に実施されました。湧水量を調査した地点数は 127 地点で総湧水量は 9,340 m³/日 (108.1L/秒)となりました。この値は湧水量調査報告書(平成 29 年 4 月)の中から七生中学校と第二小学校(現在豊田小学校)の自噴水や用水とみられる地点を除外したものです。前回の総湧水量調査は 2014 年 9 月～11 月に実施され、総湧水量は 10,999 m³/日 (127.3L/秒)であり、今回の結果は前回より少なくなりました。

調査した 127 地点のなかで湧水量を測定できた地点は 76 地点で、「浸みだし・溜り」や「枯渇」などの地点は 51 地点となりました。

2016 年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は 1,422mmであり、2015 年度の 1,733mm より少なく、湧水量は降水量の影響を受けていると考えられます。

総湧水量の 2011 年以降の経年変化を表1に示します。各年度で調査時期が異なりますが、2014 年度に最も多く(10,399 m³/日)、2013 年度に最も少なくなりました(5,430 m³/日)(表1)。湧水量に関連する

降水量は、2012 年度は 2011 年度に比べ少なくなっていますが、総湧水量はやや増加しています。その理由として調査時期の違いや調査地点の変化などが考えられます。2015 年度は 30 地点のみで調査されたため、総湧水量を算出することができませんでした。

表 1 総湧水量の経年変化（2011 年度～2016 年度）

調査年月日	総湧水量（ $\text{m}^3/\text{日}$ ）	年度降水量(mm)
2011 年 7 月から 8 月	7690	1799
2012 年 7 月から 9 月	8165	1344
2013 年 12 月から 2014 年 2 月	5430	1595
2014 年 9 月から 11 月	10399	1745
2015 年 2 月	算出できず	1733
2016 年 10 月から 11 月	9340	1422

湧水の状況を湧水量ごとに分け整理すると次のようになります(表2)。

2016 年度の湧水量が $100.1 \text{ m}^3/\text{日}$ 以上($1.16\text{L}/\text{秒}$ 以上)の地点数は 12 地点で全体の 9.5%、 1.0 から $10 \text{ m}^3/\text{日}$ (0.01 から $0.12\text{L}/\text{秒}$)の地点数は最も多く、33 地点で全体の 26%になりました。

表 2 湧水量ごとの地点数

総湧水量（ $\text{m}^3/\text{日}$ ）		地点数	割合 (%)
($\text{m}^3/\text{日}$)	($\text{L}/\text{秒}$)		
100.1 以上	1.16 以上	12	9.45
50.1～100	0.58～1.15	6	4.72
10.1～50	0.12～0.57	23	18.11
1.0～10	0.01～0.12	33	25.98
0.1～0.9	0.001～0.01	2	1.57
測定可能地点		76	59.84
浸み出し・溜り		37	29.13
枯渇		5	3.94
その他（測定不能）		9	7.09
測定不可能地点		51	40.16
調査地点総計		127	100.00

湧水の状況を地域別に分けて整理すると次のようになります(表3)。

黒川清流公園など日野台地上位面(100m 崖線)からの湧水地点数は 20 地点で全体の 26.3%ですが、湧水量は全体の 78.3%を占めていました。中央図書館下など日野台地下位面(80m 崖線)からの湧水地点数は 7 地点で全体の 0.2%、湧水量は全体の 15.1%になりました。一方、小沢緑地など多摩丘陵からの湧水地点数は 49 地点と最も多く、全体の 64.5%に達しましたが、湧水量は全体の 6.7%に過ぎませんでした。また多摩丘陵で調査が不可能な地点数は 32 地点で全体の 63%になりました。多摩丘陵は開発などに伴い、湧水量に影響を受けやすい地域であると考えられます。

3. 環境の状況と取組状況の評価

表3 地域別に分けた湧水量測定可能な地点数と湧水量

	日野台地上位面（100m 崖線）からの湧水	日野台地下位面（800m 崖線）からの湧水	多摩丘陵か らの湧水	日野市全域 からの湧水
湧水量（m ³ /日）	7309	1408	623	9340
湧水量（L/s）	84.59	16.30	7.21	108.10
湧水量（%）	78.25	15.08	6.67	100
湧水地点数（箇所）	20	7	49	76
湧水地点数（%）	26.32	9.21	64.47	100

環境基本計画の目標値は湧水地点数 179 か所、湧水量 10,000 m³/日であり、2016 年度は目標値を下回る結果となりました。2020 年度に目標値を達成するためには湧水地域の環境を保全することが重要です。湧水量は降水量や季節により変化しますが、湧水地域の宅地化など土地利用の変化により、減少したり、枯渇することが考えられます。今後もさらに長期的な推移を見ながら湧水の保全を考える必要があります。

1.-3 用水の水質



指標 17：各用水路の水質分析結果

目標値:生活環境の保全に
関する環境基準 B 類型に適合

(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)

(2020 (平成 32) 年度)

市内の河川・用水(調査対象)はすべて「B 類型」に分類され、生物化学的酸素要求量(BOD)の環境基準値は 3mg/L です。2016 年度は、2015 年度の結果とほぼ同程度の値で、すべての地点で 3mg/L 以下となり、環境基準を達成していました。

調査地点名		BOD (mg/L)		
		2014年度	2015年度	2016年度
多摩川(多摩川総合グランド付近)		0.8	2.4	1.4
浅川(クリーンセンター付近)		<0.5	1.6	1.0
用水路	日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	0.7	1.0	1.1
	日野用水上堰(よそう森堀)	0.7	0.9	0.5
	豊田用水(取水口)	0.9	1.1	0.5
	豊田用水(堀之内緑道)	0.8	1.0	0.8
	黒川水路(黒川清流公園)	0.7	1.3	0.9
	上田用水(延命寺・日枝神社付近)	0.8	1.5	0.7
	新井用水(新井用水親水路)	0.8	1.4	1.0
	平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	0.6	0.9	0.8
	落川用水(落川公園)	0.6	1.3	2.1
	向島用水(向島用水親水路)	0.6	1.2	1.1
流入河川	谷地川(多摩川合流点前)	0.8	1.0	0.9
	根川(クリーンセンター付近)	3.5	1.7	2.1
	程久保川(程久保川ワンド)	0.7	1.8	0.8

多摩川・浅川は年1回(8月)の測定値

その他の用水路等は年4回(5月、8月、11月、2月)の平均値

2016年度の上田用水は5月、8月の2回の平均値

1.-4 河川・用水・湧水の水生生物

☺ 指標 18 : 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況

目標値:底生生物:90 種

魚類:15 種

付着藻類:42 種

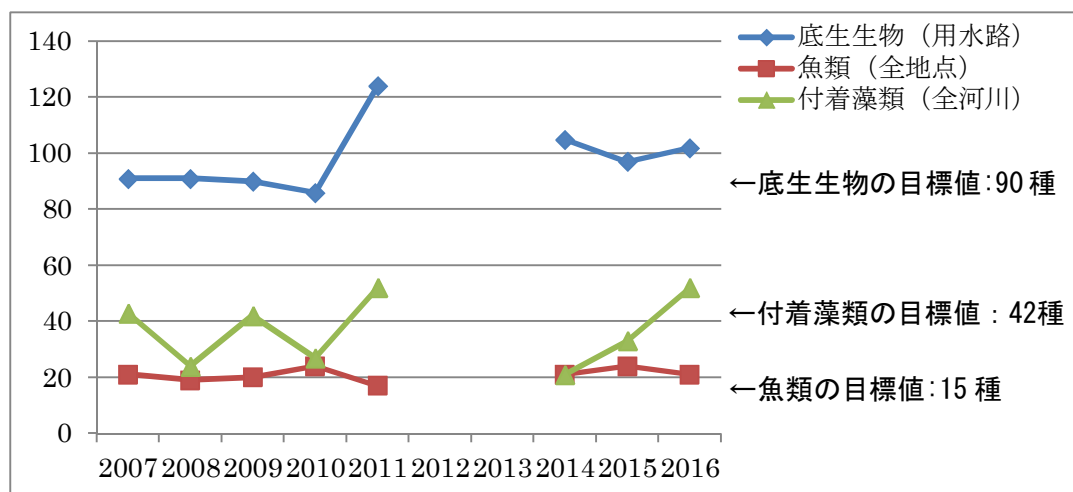
(2020(平成 32)年度)

2016 年度の調査は 2015 年度と同様に 8 月に実施されました。確認された底生生物の種数は河川で 42 種(多摩川:31 種、浅川:34 種)、用水路で 102 種、流入河川で 52 種となりました。2015 年度に比べ河川でやや減少しましたが、用水路では増加しました。魚類の種数は、河川で 12 種、用水路で 14 種、流入河川で 18 種、全調査地点で 21 種となり、2015 年度より若干減少しました。確認された付着藻類の種数は 52 種であり、多摩川で 35 種、浅川で 37 種となり、2015 年度に比べかなり増加しました。とくに浅川では過去最多となりました。その中でケイ藻類が最も多く確認されました。確認された水草の種数は用水路で 18 種、流入河川で 15 種となりました。

底生生物、魚類、付着藻類の種数の経年変化をみると、いずれも目標値に近い水準で推移しているといえます。

水生生物の確認種数

調査年度	2015年度					2016年度				
調査地点	底生生物	魚類	付着藻類	水草		底生生物	魚類	付着藻類	水草	
多摩川	33	45	26	-	33	31	11	35	-	52
浅川	32		24			34	6	37		
用水路(10地点)	97	18	-	17		102	14	-	18	
流入河川(3地点)	51	12	-	10		52	18	-	15	
全調査地点	-	24	33	20		-	21	52	23	



本調査で確認された重要種は、底生生物調査で 2 種、魚類調査では 10 種、水草調査では 4 種の合計 16 種となりました。底生生物調査で確認された重要種はマメシジミ属の一種(用水路 4 地点)とホンサナエ(用水路 1 地点)の 2 種が確認されました。魚類の重要種についてみると、「環境省レッドリスト 2015 年」で絶滅危惧 I B に指定されているムサシノジュズカケハゼが程久保川ワンドで確認されました。その他に「東京都レッドリスト 2013 年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、シマドジョウ、ニゴイなどが多摩川で 4 種、浅川で 2 種、用水路で 4 種、流入河川(谷地川)で 4 種、合計 7 種が確認されました。東京都レッドリストで留意種に指定されているスジエビが程久保川ワンドで、サワガニが黒川水路で確認されました。水草の重要種として用水路でセキショ

3. 環境の状況と取組状況の評価

ウモ、ササバモ、マコモ、ミクリの4種が、程久保川ワンドでマコモが確認されました。

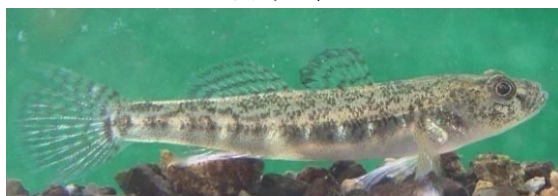
確認された外来種は、底生生物調査で7種、魚類調査で3種、水草調査で5種の合計15種でした。底生生物調査および魚類調査では、特定外来生物に指定されているオオクチバスが多摩川および流入河川2地点で、また生態系被害防止外来種リストに指定されているフロリダマミズヨコエビが用水路と流入河川で、カワリヌマエビ属の一種が全地点(15地点)でそれぞれ確認されました。近年、多摩川水系ではコクチバスの分布域が拡大しており、注目して監視する必要があります。水草では特定外来種であるオオフサモおよびオオカワジシャが流入河川1地点と程久保川ワンドでともに確認されました。これらの種は近年、多摩川水系で分布を広げており、とくにオオカワジシャは本調査で2014年度に初めて確認され、本年度まで毎年確認されています。



アブラハヤ



カマツカ



ジュズカケハゼ



シマドジョウ

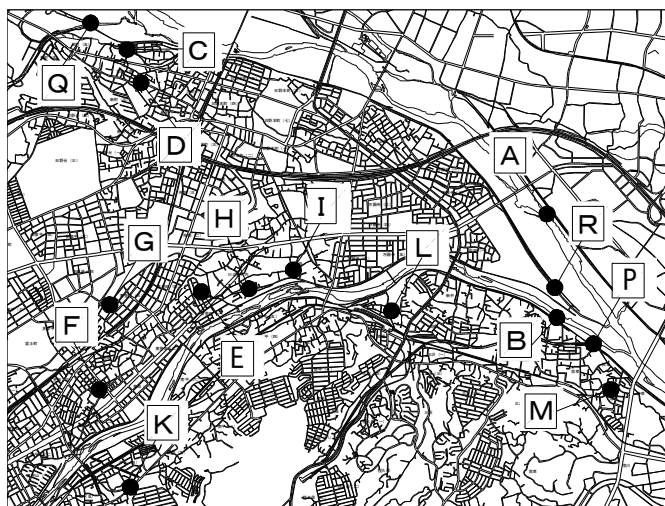
(参考) 水生生物による水質の生物学的判定

(1) 調査の概要

調査期間: 2016年8月1日から3日

調査地点: 河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む15地点(図AからP参照)

調査内容: 底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、水草(用水路、流入河川のみ)、BOD、BOD負荷量(用水、流入河川のみ)、DO(溶存酸素)、pH



(2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な様相を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

・底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域～わりあいきれいな水域」と判定されましたが、用水路2地点、流入河川2地点で「汚れている水域」と判定されました。

・魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路ではほとんどの地点（8 地点）で「きれいな水域」～「わりあいきれいな水域」と判定されました。流入河川の 2 地点では「きれいな水域」と 1 地点で「汚れている水域」と判定されました。

今回の水生生物調査では全般的に多くの地点で水質は良好と判定されました。

(3) 理化学的水質と生物学的水質判定結果の比較

調査地点の BOD 値は、1.2～2.8mg/L であり、全 15 地点のうち 14 地点では「きれいな水域」と判定されましたが、流入河川 1 地点（根川）では「汚れている水域」と判定されました。生物学的水質判定による水辺の評価についても多くの地点で「わりあいきれいな水域」以上であると判定されました。BOD による理化学的水質判定結果と生物学的水質判定結果を比較すると、両者の結果は概ね一致しますが、上田用水と向島用水では生物学的水質判定とに差が見られました。両地点では水の流れが遅く、きれいな水域の指標種である水生昆虫類の生息に適していない環境と考えられます。

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な様相を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

・底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域～わりあいきれいな水域」と判定されましたが、用水路 2 地点、流入河川 2 地点で「汚れている水域」と判定されました。

・魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路ではほとんどの地点（8 地点）で「きれいな水域」～「わりあいきれいな水域」と判定されました。流入河川の 2 地点では「きれいな水域」と 1 地点で「汚れている水域」と判定されました。

今回の水生生物調査では全般的に多くの地点で水質は良好と判定されました。

水生生物による水質判定

分類	調査地点		2015年度			2016年度		
			底生生物	魚類	BOD (mg/L)	底生生物	魚類	BOD (mg/L)
河川	A	多摩川（日野市多摩川総合グラウンド付近）	A～B	A	2.4	A～B	A	1.4
	B	浅川（クリーンセンター付近）	A～B	A	1.6	A～B	A	1.0
用水路等	用水路							
	C	日野用水上堰（東光寺市営住宅前水路）	A～B	B	1.4	A～B	B	0.6
	D	日野用水上堰（よそう森堀）	A～B	B	1.2	A～B	B	0.5
	F	豊田用水（取付口）	B～C	B	1.2	B～C	B	1.0
	E	豊田用水（堀之内縁道）	A～B	A	1.5	B～C	A	0.7
	G	黒川水路（黒川清流公園）	A～B	A	2.1	A～B	A	0.9
	H	上田用水（延命寺・日枝神社付近）	B～C	B	2.2	A～B	C	1.4
	I	新井用水（新井用水水親水路）	C	A	2.1	A～B	A	0.9
	K	平山用水（平山東公園・ふれあい水辺）	B～C	B	1.4	A～B	A	2.0
	M	落川用水（落川公園）	C	B	2.3	C	A	1.0
	L	向島用水（向島用水親水路）	C	A	2.1	B	B	1.3
	流入河川							
	Q	谷地川（多摩川合流点前）	B～C	A	1.3	A～B	A	1.1
	R	根川（クリーンセンター付近）	B～C	C	2.8	B～C	C	2.5
	P	程久保川（程久保川ワンド）	C	A	2.7	B～C	A	1.3

水質階級:その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域(O_5) B=わりあいきれいな水域(βm)

C=汚れている水域(αm) D=とても汚れている水域(P_5)

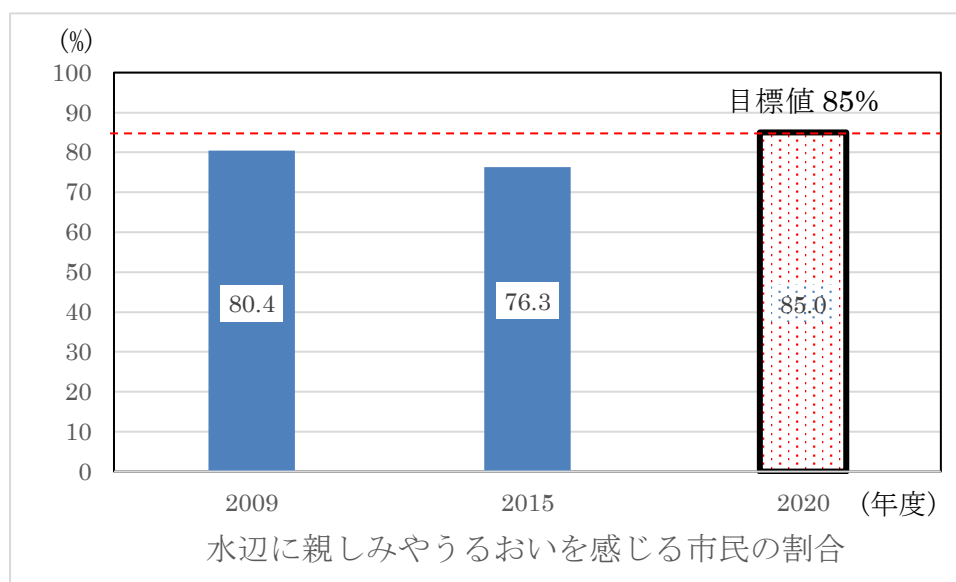
3. 環境の状況と取組状況の評価

1.-5 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

☺ 指標 19：水辺に親しみやうるおいを感じる
市民の割合

目標値:85.0%
(2020(平成 32)年度)

2015(平成 27)年度の意識調査で「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」という回答率は 76.3%で 2009(平成 21)年度より 4.1 ポイント減少し、2020(平成 32)年度目標値 85.0%に達成するのは厳しい状況です。



2.<市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	実施状況
水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討		市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。	湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。（緑と清流課） → 指標 16(P.18) 浅川の水量減少・水位低下の課題に対処するため、2016 年 1 月にプロジェクトチームを立ち上げ、2 月より水量の測定を開始した。（環境共生部）
		用水の保全・活用	（仮）用水路改修・補修計画の策定	用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。	東京都補助金も取り入れた五ヶ年計画の用水カルテを作成し改修をすすめている。（緑と清流課）
		湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。	揚水量の報告を受け、急激な揚水量の増加がないことを確認した。（環境保全課） → 指標 20(P.26)
	雨水浸透・貯留利用の推進	雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。	新築・増改築の雨水処理方法の相談時に丁寧に水循環や雨水涵養の大切さ、雨水浸透指導を行った。（緑と清流課） → 指標 21(P.26)
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施	用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。	身近な水辺の一斉調査を実施。（緑と清流課） 用水等の水質調査、水生生物調査を実施。（環境保全課） → 指標 17,18(P.20～23)
		水質汚濁の防止	生活排水及び污水处理の施設整備	污水管の整備や下水道接続の促進（戸別指導、工事費用融資あっせん）、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。	供用開始後の公共下水道未切替え世帯に対し、水洗化を要請した結果 53 件の切替えが行われた。これに伴う利子補給の融資あっせん者はなし。（下水道課） → 指標 22(P.28)
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進		流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。	八王子市との連携により、小学生を対象とした多摩川の干潟見学会を実施した。（緑と清流課）
		水辺に親しむ活動の推進		用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さなどを伝えることのできる指導者の確保に努める。	水辺の楽校の活動に協力した。（緑と清流課） → 指標 23(P.28)
		水辺の保全・管理活動の推進		用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行う。	用水守により、無理のない範囲で事故なく、継続した清掃活動が実施された。（緑と清流課） → 指標 24(P.29) 多摩川・浅川クリーン作戦など、市民参加の河川清掃イベントを実施した。（緑と清流課） → 4. 環境への取組状況 (P.86)

3. 環境の状況と取組状況の評価

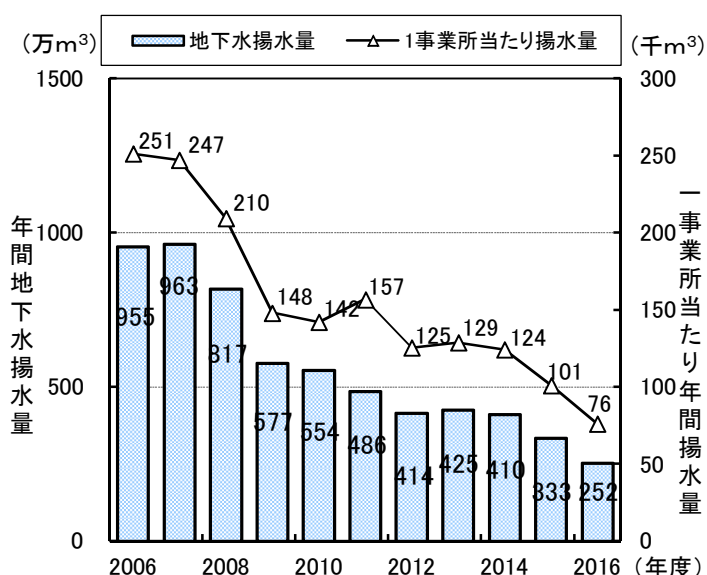
2-1 健全な水循環の構築

(1) 湧水・地下水の保全

地下水揚水量の把握



指標 20：地下水揚水量



揚水量とは

ここでいう揚水量とは、出力が300ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量のことです。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりはみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため1960年代より工業用水法やビル用水法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起きないように、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

2016年度の年間地下水揚水量は252万m³となり、2015年度より81万m³の減少がみられました。一事業者当たり年間揚水量約7.6万m³となり3.5万m³の減少がみられました。

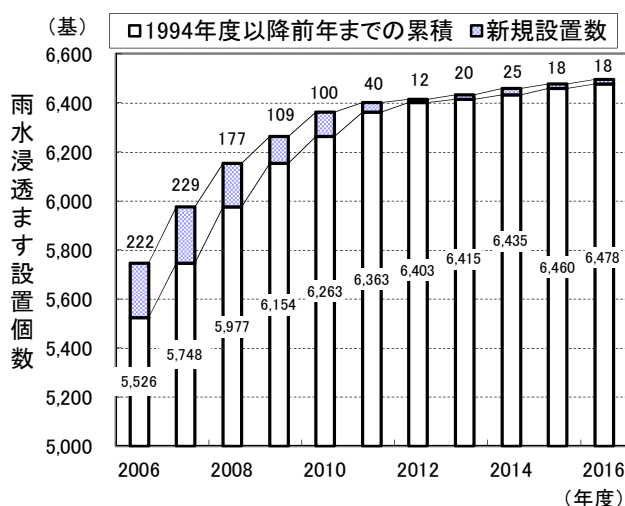
2-2 雨水浸透・貯留利用の推進

(1) 雨水浸透・貯留施設の設置促進

家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進



指標 21：雨水浸透ます設置個数

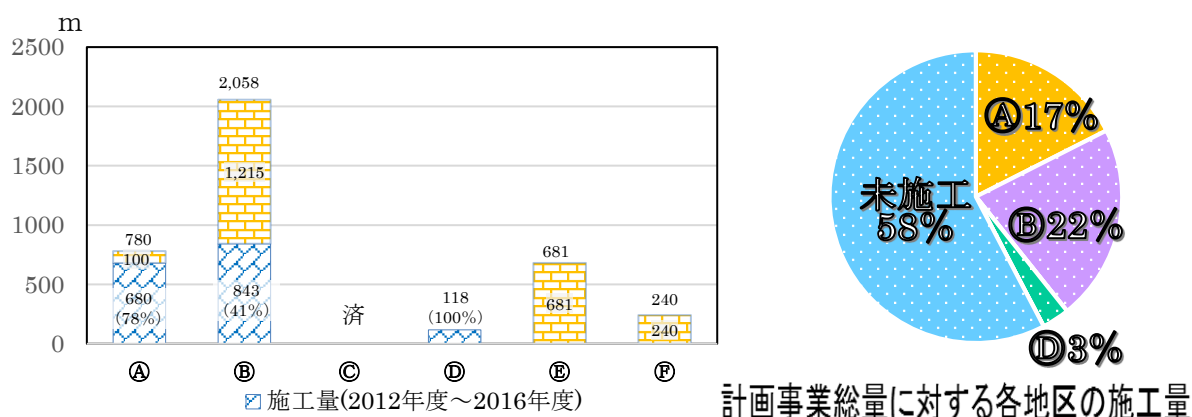


2016年度も昨年度と同数の18基が新規に設置されました。

雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、かん養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

(参考) 第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況



透水性舗装とは、舗装体を通して雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。

本項では、第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

グラフ凡例: 地区名 (施工量/地区計画事業総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	期間、または実施年度
①: 日野駅周辺 (680/780)	幹線市道Ⅰ-20号線	100m	0m	2017年度
	幹線市道Ⅰ-13号線	100m	100m	2014年度
	幹線市道Ⅰ-14号線	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅰ-9号線	108m	108m	2013年度～2016年度
	幹線市道Ⅰ-10号線	—	0m	未定
	市道B33号線	—	0m	未定
	都道169号線	472m	472m	2013年度
	都道169号線	—	0m	未定
②: 豊田駅周辺 (843/2,058)	都道41号稻城日野線(川崎街道)	—	施工済	整備済
	幹線市道Ⅱ-44号線	173m	173m	2014年度
	市道E103号線	295m	295m	2014年度
	幹線市道Ⅰ-12号線	295m	295m	2014年度
	幹線市道Ⅰ-12号線	80m	80m	2014年度
	市管理道路	—	施工済	整備済
	駅前ロータリー (区画整理事業で整備予定)	130m	0m	2014年度～2017年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	310m	0m	2016年度～2018年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	185m	0m	2016年度～2018年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	260m	0m	2014年度～2017年度
③: 高幡不動駅周辺 (0/0)	日野都市計画道路3・4・15号線	180m	0m	2018年度～2020年度
	日野都市計画道路3・4・19号線	150m	0m	2014年度～2017年度
④: 百草園駅周辺 (118/118)	幹線市道Ⅱ-8号線	—	施工済	整備済
	河川管理用通路(両側)	118m	118m	2012年度
	幹線市道Ⅱ-62号線	—	0m	未定
⑤: 南平駅周辺 (0/681)	幹線市道Ⅱ-5号線	—	施工済	整備済
	都道173号線(北野街道)	—	0m	未定～2020年度
	都道173号線(北野街道)	390m	0m	2012年度～2020年度
	都道174号線(北野街道)	291m	0m	事業中～2017年度
⑥: 平山城址公園駅周辺 (0/240)	都道155号線町田・平山・八王子線 (立体交差部・交差点接続部)	88m	0m	2017年度
	都道155号線町田・平山・八王子線	152m	0m	2017年度
総 量		3877m	1641m	

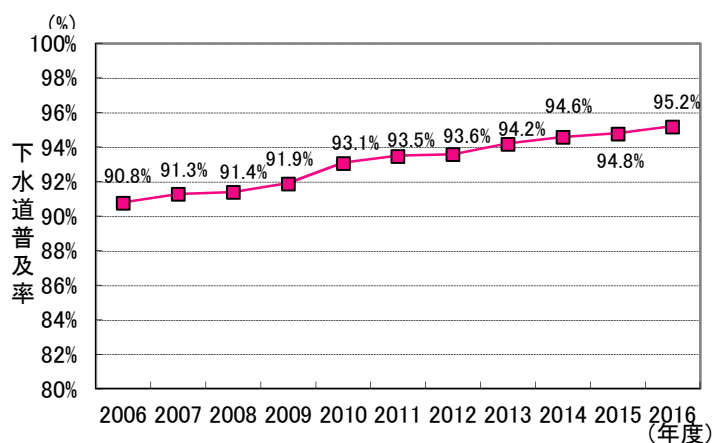
3. 環境の状況と取組状況の評価

2-3 水質の保全

(1) 水質汚濁の防止

生活排水及び污水处理の施設整備

😊 指標 22：下水道普及率



下水道普及率は、2016 年度で 95% を超えました。

近年の傾向として、公共下水道の未普及地域は、土地区画整理事業の街路未整備地域と重なります。

下水道普及率とは

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

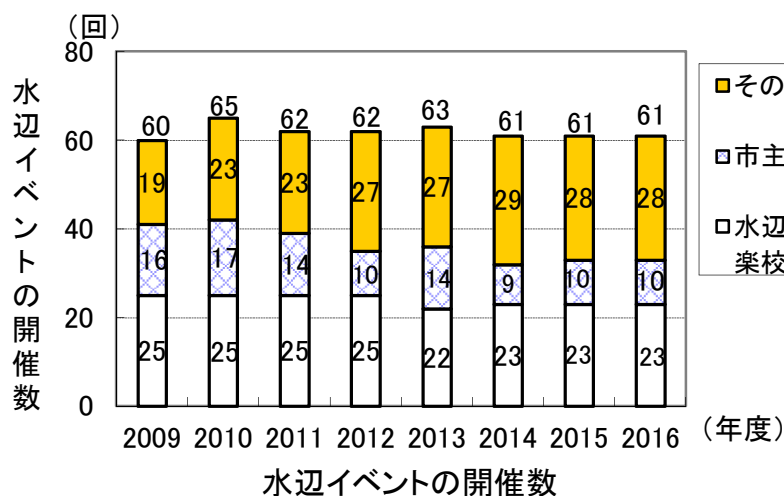
2-4 協働による水辺の保全・活用

(1) 水辺に親しむ活動の推進

😊 指標 23：水辺イベントの開催数

2020 年度目標:

- ・水辺の楽校による水辺での活動実施校 3 校
- ・水辺の環境教育・学習の実施回数 100 回



水辺のイベントに関しては、浅川潤徳と滝合両水辺の楽校の活動をはじめ、昨年度と同数の開催でした。

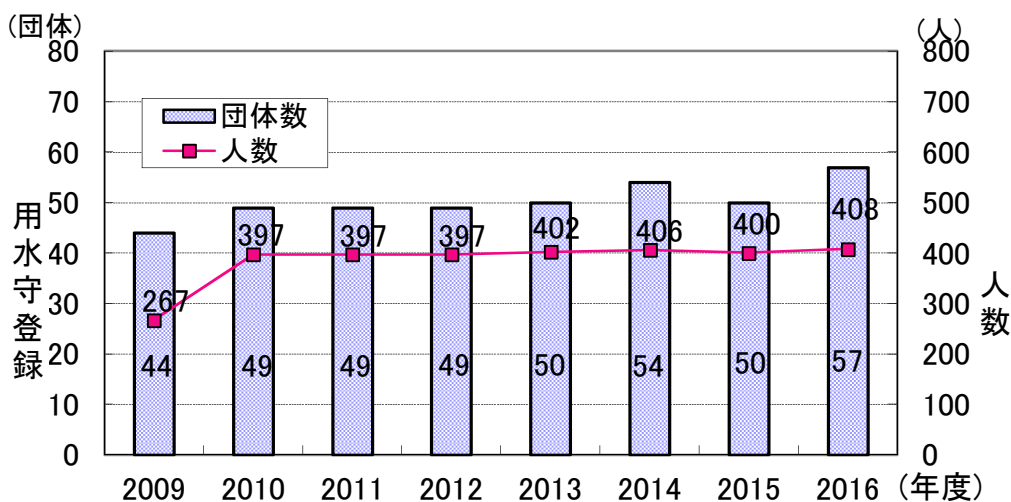
(参考) : 「ビオトープづくり」の取組件数

年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001 以前	4	七生中、潤徳小、滝合小、日野三小
2002	4	
2003	6	仲田小、日野一小
2004	9	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	10	日野六小
2006	11	多摩平保育園
2007	12	平山小
2008	13	日野四小
2009	13	
2010	13	
2011	13	多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設
2012	13	
2013	13	
2014	13	
2015	13	
2016	13	

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(2) 水辺の保全・管理活動の推進

😊 指標 24 : 「用水守」の登録団体数



用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

2016 年度の登録団体数は 57 団体、人数は 408 名で、2015 年度より若干の増加となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

3.<市民コメント>

1.<環境の現状>

湧水確認地点数・湧水量

データ収集(計測)があまりに惰性的(計測の目的、信頼性を考慮されず)かつ予算に縛られ行われているように思われます。

指標、目標値、データ(計測回数、次期、計測方法)を総合的に再検討・見直す必要があると考えます。

2.<市の取組状況>

実施状況に具体的な取組での内容からずれた実施項目があげられているものがあります。

施策 (仮)用水路改修・補修計画の策定

施策 水辺の保全・管理活動の推進

従来<市の取組状況>については環境情報センターで市民ヒヤリングを行って所掌課報告のチェック、確認を行っていました。

推進会議水グループ会議での重点施策管理票での実施報告への市民意見が残らず、かつ何の考慮もされず、所掌課報告のままだ記録となることが問題でもあります。

ごみ分野

< 目 標 > ごみゼロのまち

1.<環境の現状>

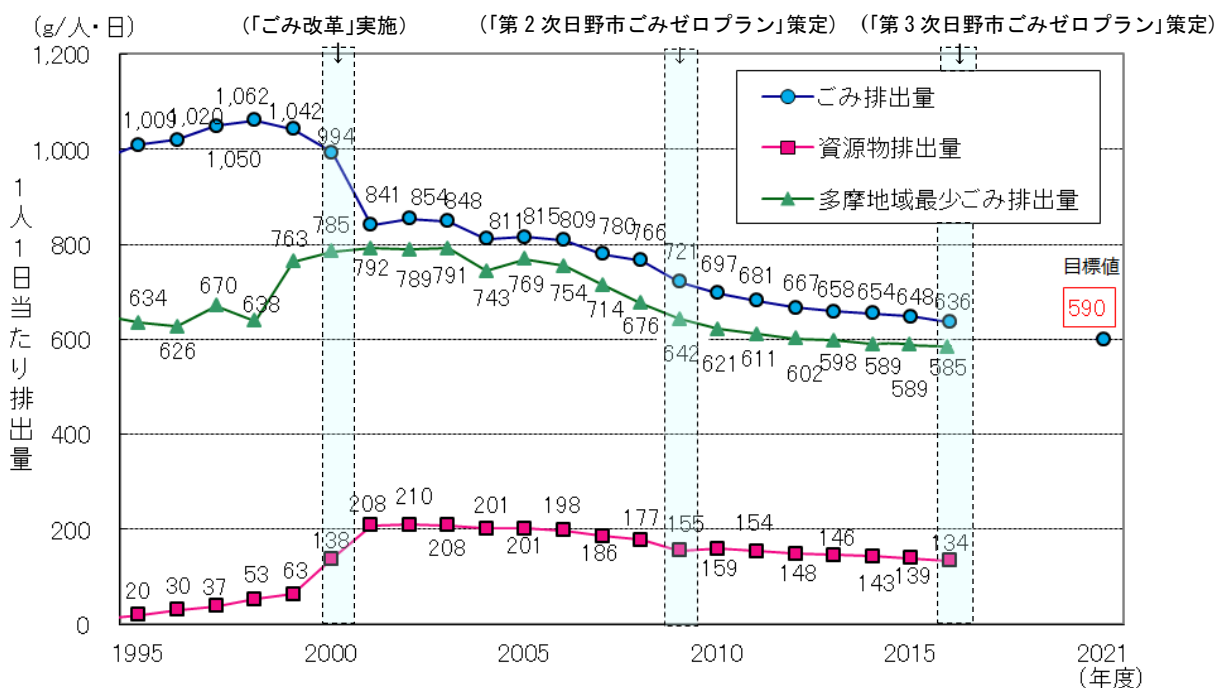
1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 590g

(2021(平成33)年度)



指標 25: ごみ・資源排出原単位



- ① 1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量÷各年10月1日現在人口÷年間日数で算出。
- ② 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
- ③ 資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。

2016年度の1人1日当たりのごみ排出量は前年度より12g減少し、636gとなりました。また、1人1日当たりの資源物排出量が139gから5g減少し、134gとなりました。

ごみ量の減量については、年々減量が行われています。

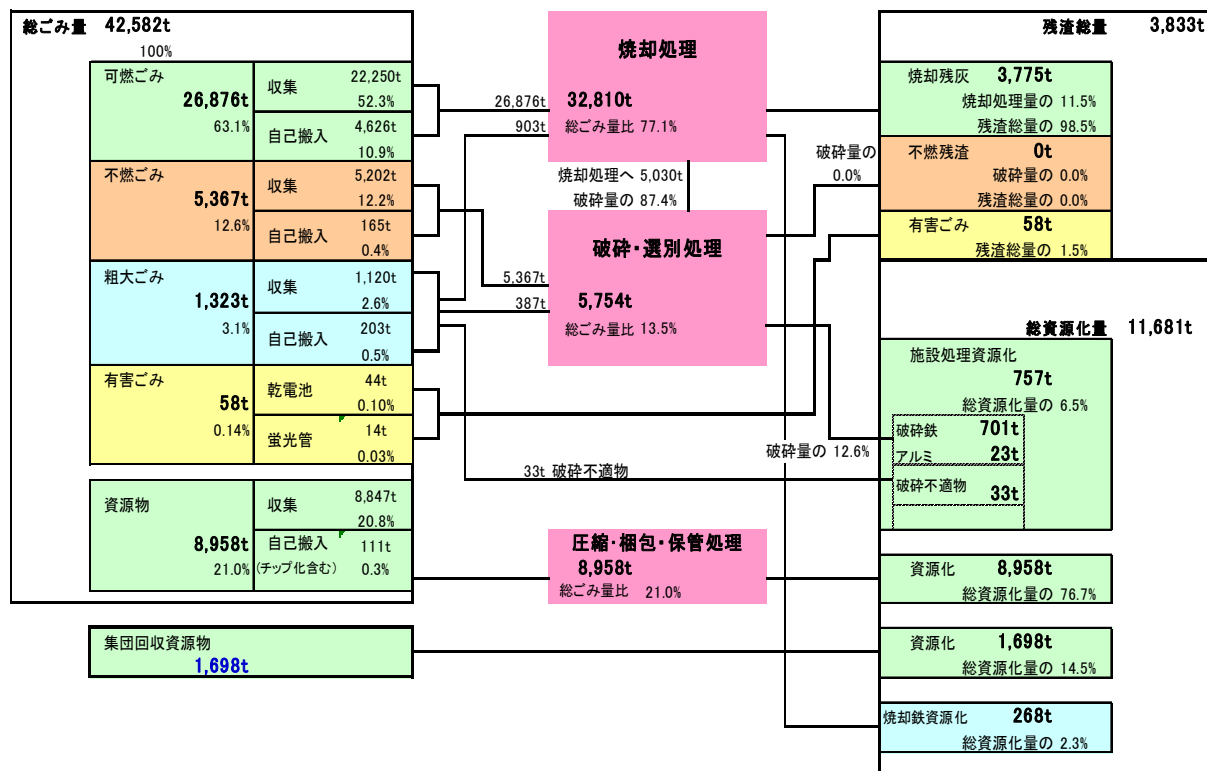
※2005年度以前は、集計方法が異なっていたため、過去掲載分とは値が異なる。

3. 環境の状況と取組状況の評価

(参考)：ごみの行方

平成28年度のごみ量及び処理状況

3月(平成28年度)まで



※剪定枝チップ化は、持ち込み資源に含む。

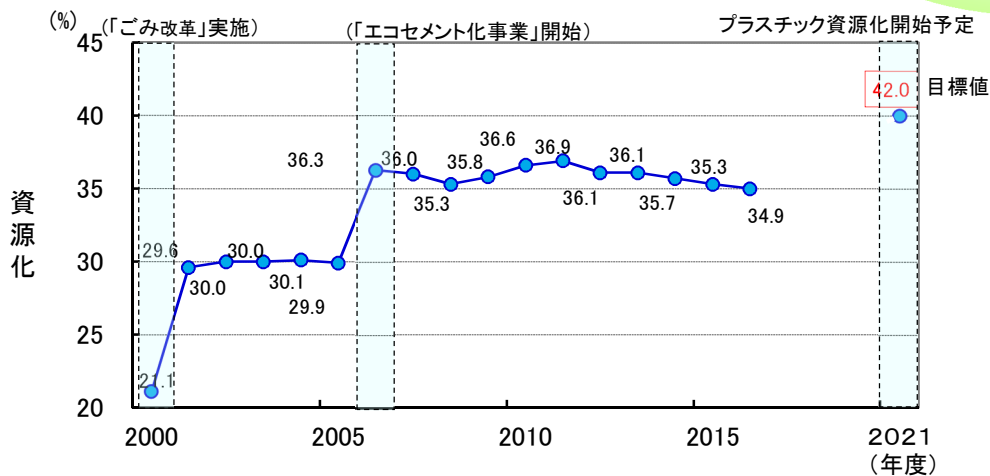
1.-2 資源化率



指標 26：資源化率

目標値: 42%

(2021(平成33)年)



2016年度の資源化率は前年度より0.4ポイント減少し、34.9%でした。2011年度以降、2000年10月のごみ改革及び2006年7月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により資源化率は、13.8%だった第1次環境基本計画の策定時（1999年）に比べ大幅に向上し、2006年度以降は36%前後で推移しています。一方、2011年以降、資源化率は、減少傾向になっています。

このため、紙ごみの資源化を強化し、可燃ごみの減量と資源化率向上に向けた啓発に取り組んでいます。また、2020年度からのプラスチックの資源化実施を決定しました。実施した際にどの程度資源化出来るかが、目標を達成するための大きなポイントとなります。

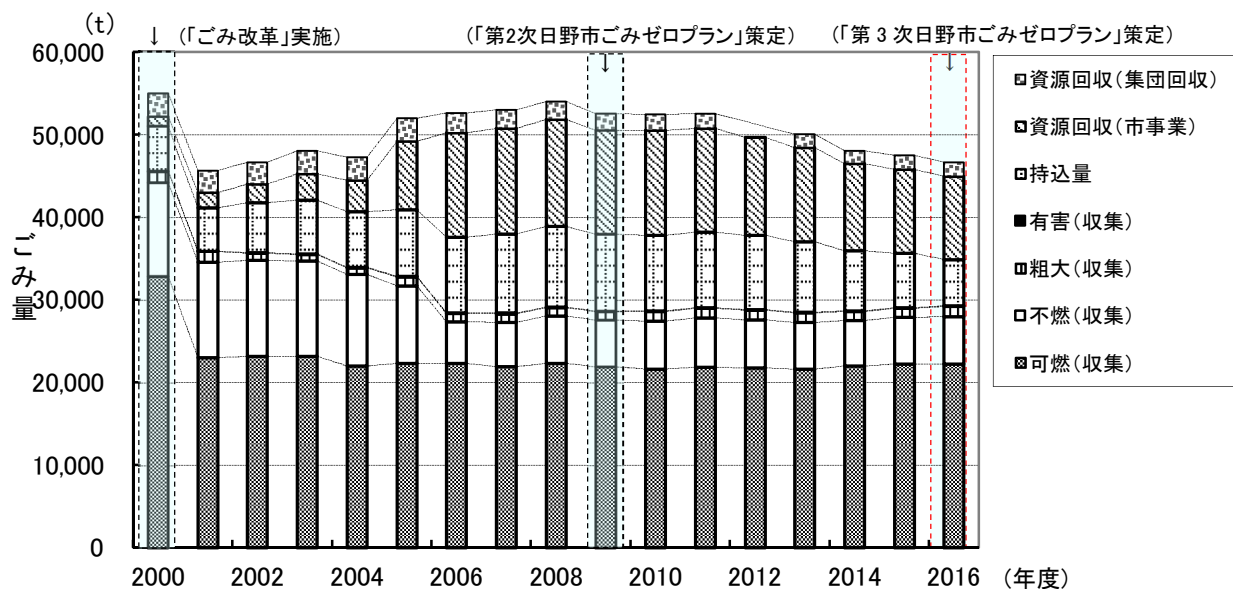
$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

※エコセメントについては、2006年度データより計上しています。

（「第3次ごみゼロプラン策定」）

（参考）：ごみ量内訳

ごみの総量は、年々減少傾向となっています。



3. 環境の状況と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

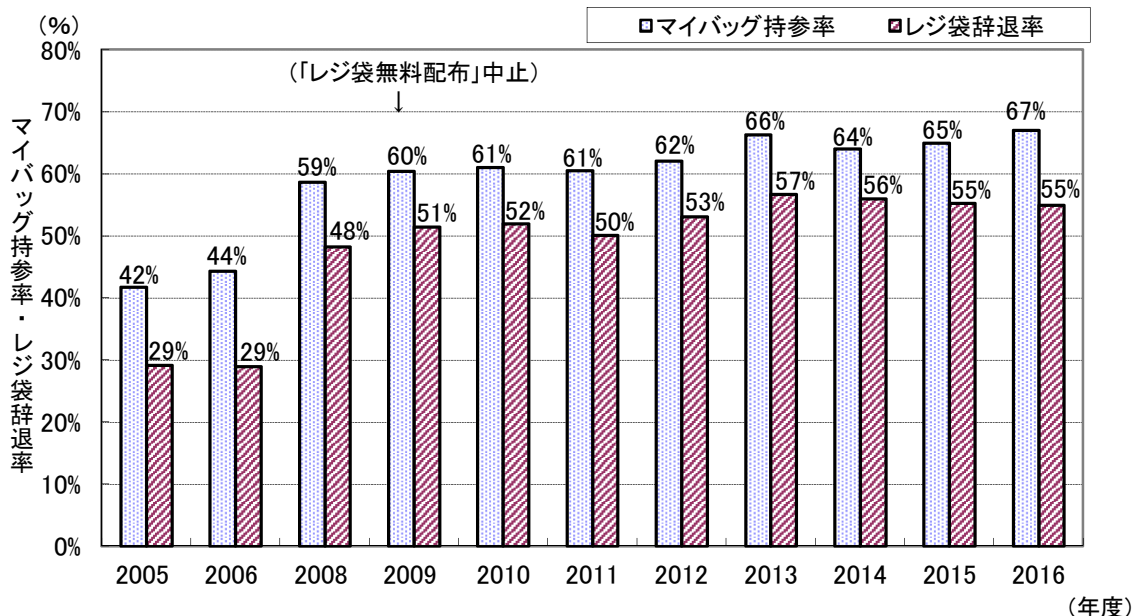
目標	施策 の 方向	施策		具体的な取組	実施状況
「みゼロのまち	ごみ排出量の低減	リフューズ (発生回避) の促進	レジ袋無 料配布中 止の拡大	一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者(市民、事業者、市)によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続して進めていく。	市民・事業者・行政の3者による共同会議を年4回(4/28、7/28、10/27、1/26)開催。市での条例化等の意見も出されたが、オリンピック開催に向けた東京都の動きや国の動向を見守りながら、レジ袋無料配布中止に向けた取り組みを検討していく。 (ごみゼロ推進課) →指標 27(P.35)
		リターン (回収ボックスのある店頭への返却)の促進	容器包装 お返し大 作戦の展 開	容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。	広報・ごみ情報誌(エコ・ごみ分別カレンダー)で定期的に情報を提供。 店頭回収品目拡大に向け、スーパー事業者の回収状況調査を実施した。 (ごみゼロ推進課) →指標 28(P.35)
	リサイクルの推進	資源物回収 の推進	分別ルー ルの徹底	トレイ・ペットボトルや古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。	ごみ情報誌エコ、ごみ分別カレンダー、市広報などを活用し、ごみの分別徹底についての啓発を実施。 ごみ分別アプリを導入し、分別辞典や排出方法などが簡単に検索できるように実施した。 (ごみゼロ推進課) →指標 29(P.36)
		生ごみサイ クルの推進	生ごみや 剪定枝の 地域内循 環の拡大	生ごみや落ち葉、剪定枝を堆肥化して利用する地域内循環を拡大する。	地域内循環を進めていくためには、堆肥化する土地(施設)、回収に協力できる団体等、排出に協力できる地域が一体となって実施していかなければならない。 市民とともに、拡大の検討を行っているが、実施に至らず。 (ごみゼロ推進課)
		生ごみサイ クルの推進	生ごみの 家庭内循 環(自家 処理)の 普及促進	生ごみの減量化と堆肥化を促進するために、コンポスト容器購入補助や生ごみリサイクルステッカーの配布を実施する。	ダンボールコンポストの普及促進のため、ダンボールコンポスト講習会を18回実施した。 参加者数 94名、講習会での申込者数 ダンボールコンポスト 46基、竹パウダー17基生ごみリサイクルステッカー配布 28名 (ごみゼロ推進課) →指標 30,31(P.37,38)
	市民・事業者への啓発	市民の意識 向上・行動 促進	情報提供 ツールの 充実	ごみ回避・発生抑制に重点を置いて、市民がすべきことを広報やHP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。	ごみ情報誌エコやごみ分別カレンダーで市民のページを設け、ごみ減量推進市民会議や生ごみリサイクルサポーターなどと連携し、ごみ分別や資源化についての啓発を行なった。 携帯電話(スマートフォン)やタブレットなどで利用できるごみ分別アプリを導入し、ごみ分別カレンダーやイベント時のチラシ配布などで啓発を行った。 (ごみゼロ推進課) →指標 32~34(P.38,39)
	協働による「みゼロの実現	コミュニティ 単位での取 組	新聞紙の 民間回収 への移行	関係機関との調整のもと、新聞紙の分別収集を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取組のひとつとして位置づける。	回収を行っている販売店に対し、行政回収日と重複した回収を避けていただくように案内を送付した。 (ごみゼロ推進課) →指標 35(P.39)

2. -1 ごみ排出量の低減

(1) リフューズ（発生回避）の促進

レジ袋無料配布中止の拡大

指標 27：マイバッグ持参率・レジ袋辞退率

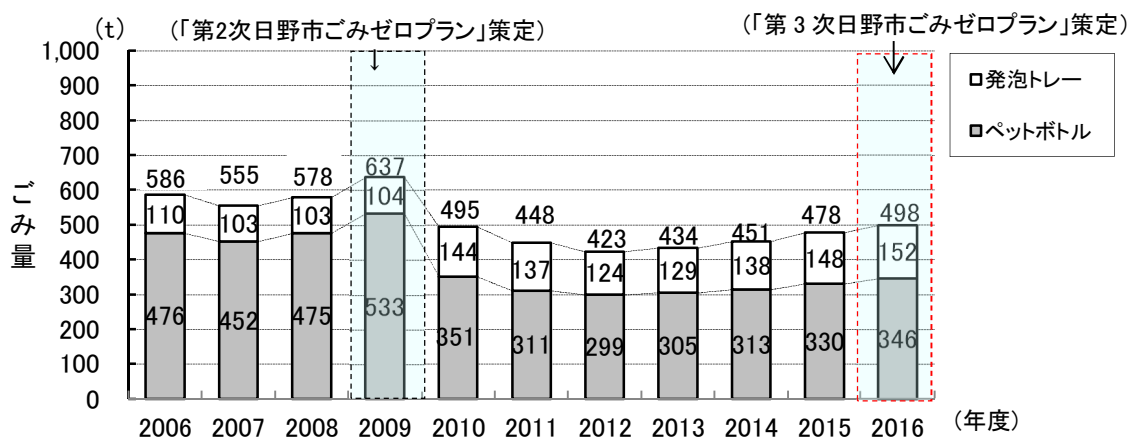


2016年度は、マイバッグ持参率が67%、レジ袋辞退率は55%と、マイバッグ持参率が上昇しました。今後もスーパーと連携し、マイバッグ持参率向上に向けた取り組みと啓発を引き続き進めていきます。

(2) リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進

容器包装お返し大作戦の展開

指標 28：ペットボトル、発泡トレーの行政回収量



容器包装お返し大作戦と銘打った民間回収啓発を促進し、行政回収の減量に取り組んでいます。2016年度の行政回収量は498tとなりました。2012年度以降は、僅かながら増加傾向が見られ、2016年度も20tの増加となりましたが、第2次日野市ごみゼロプラン策定以降は低い水準を保っています。

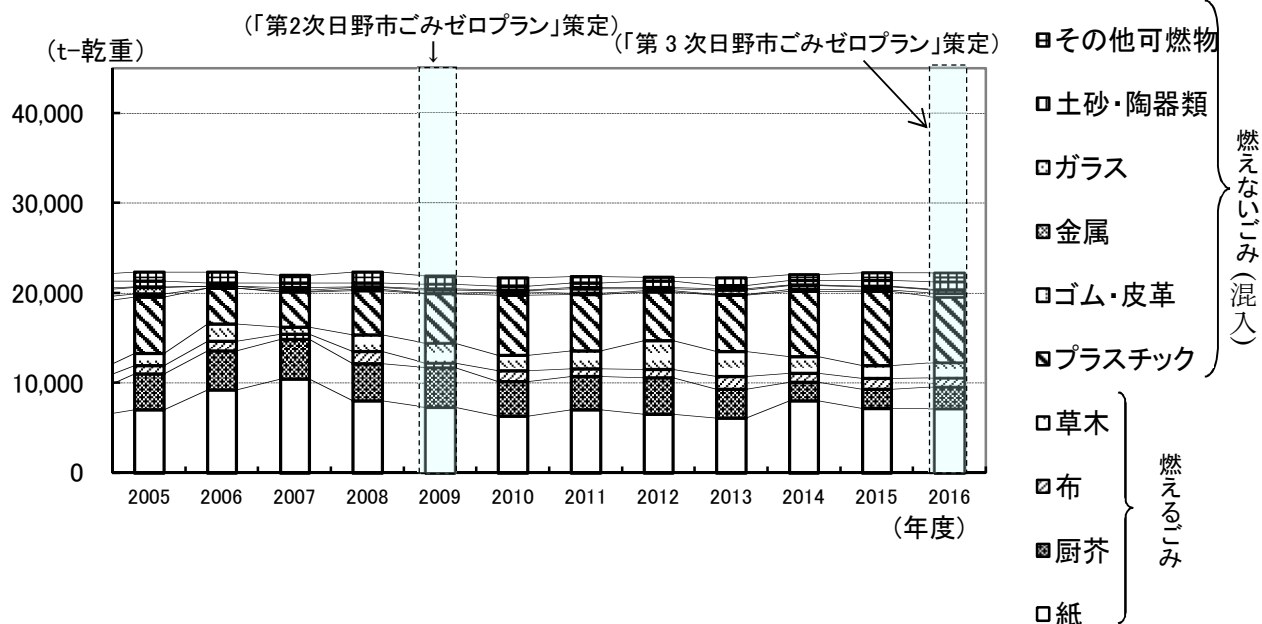
3. 環境の状況と取組状況の評価

2. -2 リサイクルの促進

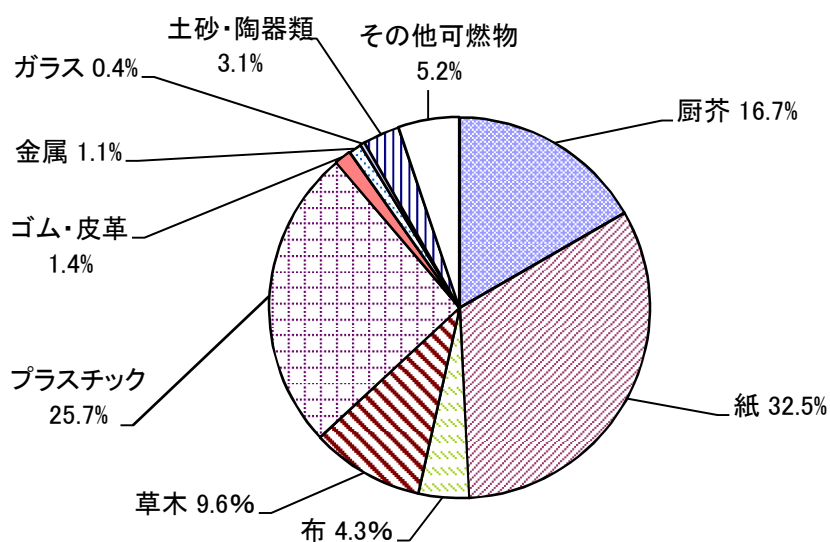
(1) 資源物回収の推進

分別ルール徹底

☺ 指標 29：焼却ごみの組成



(参考)：焼却ごみの組成



指標29は水分の重量を含まない乾燥重量ベース(「乾ベース」)、参考指標は水分を含めた「湿ベース」での組成を表しています。

(2) 生ごみリサイクルの促進

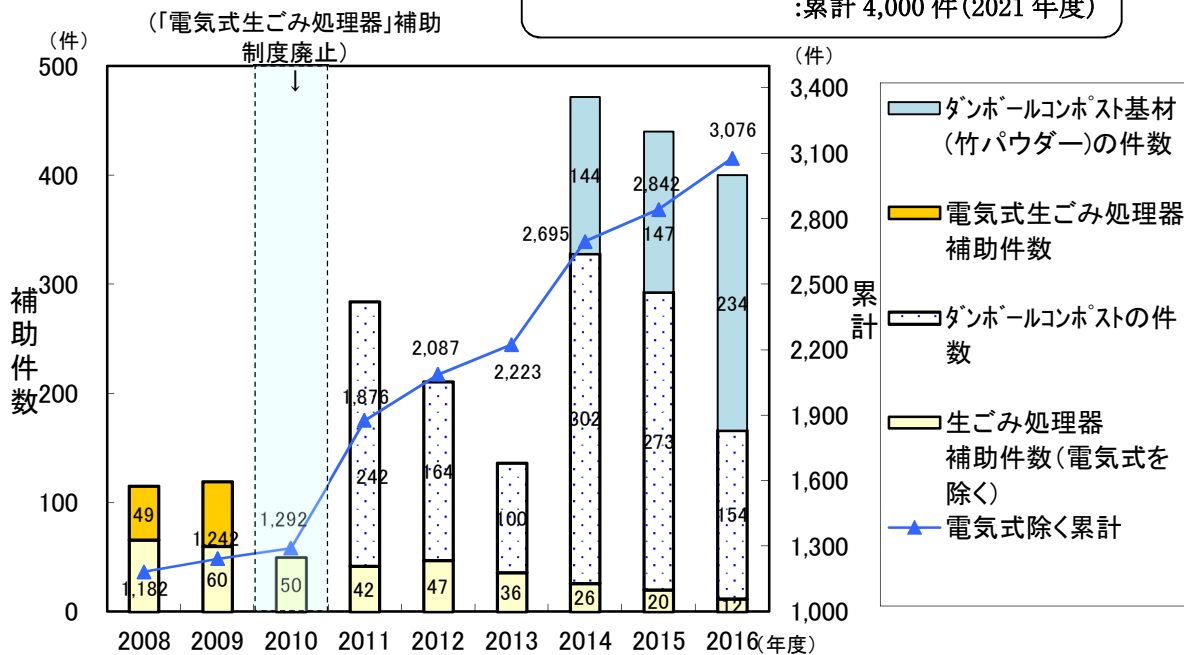
生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進



指標 30：生ごみ処理器補助の件数

目標値：生ごみ処理器補助の件数（電気式除く）

：累計 4,000 件（2021 年度）



2016 年度に制定した第 3 次ごみゼロプランでは、平成 2009 年度まで実施していた電気式生ごみ処理機を除いた生ごみ処理器補助件数を、2021 年までに 4,000 件に、更に 5 年後の 2026 年までに 8,000 件に増やすことを目標にしました。

昨年度までは、電気式も含めた数字で累計を出していましたが、今後は目標達成に向けて電気式生ごみ処理器の補助件数を差し引いた数値で報告管理していきます。

ダンボールコンポストとは

文字どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるようにと、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には竹から作った「竹パウダー」（竹を細かく破碎したもの）を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。



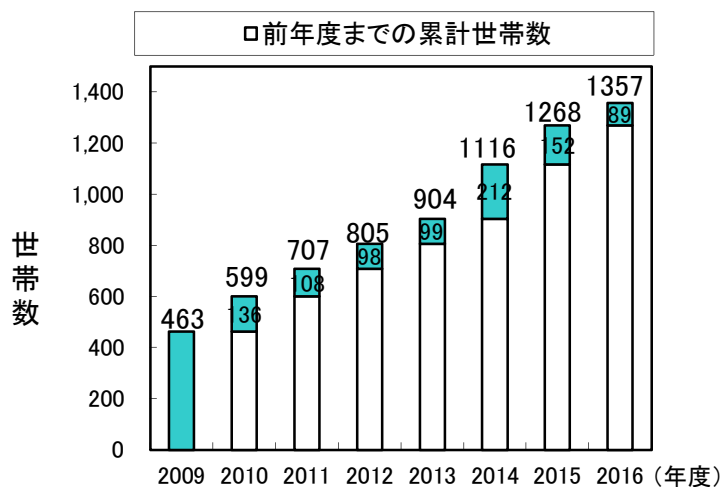
ダンボールコンポスト

3. 環境の状況と取組状況の評価

指標 31：生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

2020 年度目標値累計8,000 件

生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数累計4,580 件



生ごみリサイクルステッカーとは

市では、家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかがわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



生ごみリサイクルステッカーは、2009年度以降毎年増加し、2016年度は2015年度より89世帯増加しました。引き続き、普及啓発に努めます。

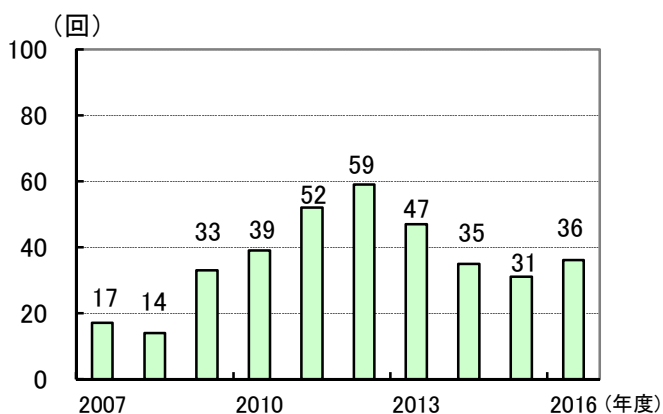
2. -3 市民・事業者への啓発

(1) 市民の意識向上・行動促進

情報提供ツールの充実

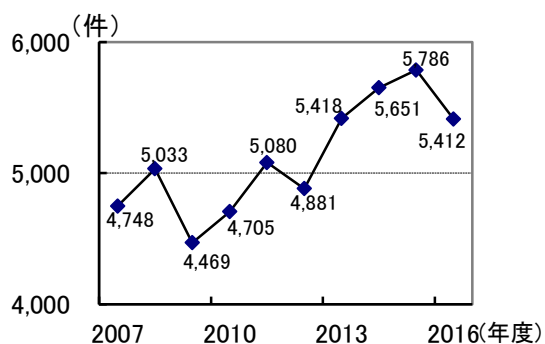
2020 年度目標値:環境学習出前講座の実施回数 60 回

指標 32：環境学習出前講座の実施回数



子どもたちからの啓発などで家族への啓発につながるような環境学習に取り組み、環境学習出前講座を行っています。2016 年度は、2015 年度に比べ 5 回程増加し、回復の傾向が見られました

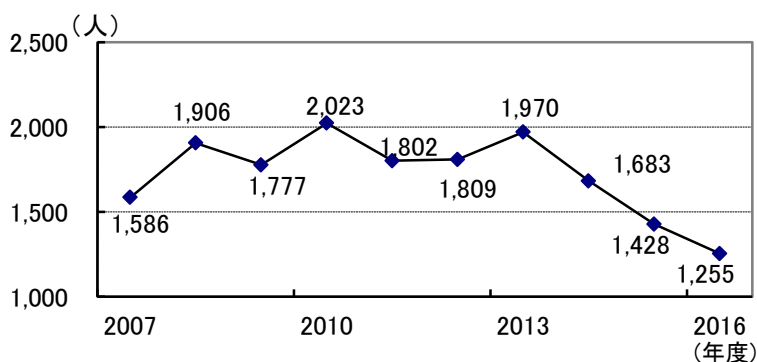
😊 指標 33：ごみ相談窓口への相談件数



ごみ相談窓口は、市役所本庁舎一階に設置しています。ごみ相談窓口への相談件数は、市の人口の増加と共に 2010 年度から 2015 年度までは増加傾向がみられました。2016 年度は前年度より 374 件減少の 5,412 件となりましたが、昨年度の目標値を超える件数でした。多くの市民のごみへの関心や意識の高さがうかがえます。

😊 指標 34：クリーンセンター見学者数

目標値: クリーンセンター見学者数 2,000 人 (2021 年度)



2016 年度のクリーンセンター見学者数は、前年度より 173 人少ない 1,255 人でした。

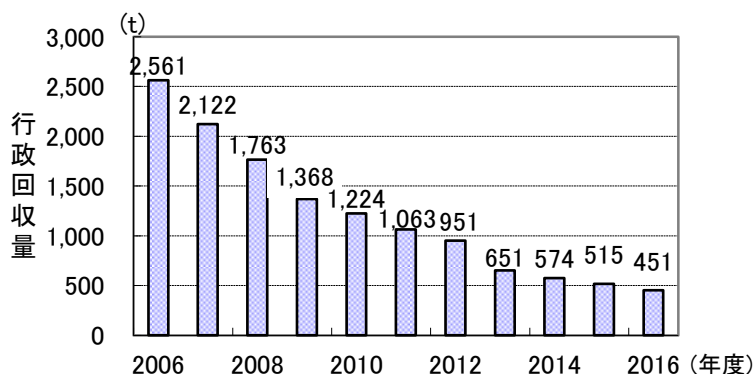
クリーンセンターでは、2020 年度の建て替えまでは、準備や工事の影響で見学者数が減少する見込みです。

2. -4 協働によるごみゼロの実現

(1) コミュニティ単位での取組

新聞紙の民間回収への移行

😊 指標 35：新聞紙の行政回収量



2016 年度の行政回収量は、前年度より 64t 少ない 451t でした。

行政による新聞紙の回収量は、民間回収への移行が順調に進んでいるだけでなく、新聞購読者数の減少から、年々減少傾向となっていると推測されます。

集団回収の推奨、販売店回収への啓発等を行い、今後も減量をすすめていきます。

3. <市民コメント>

ごみ分野では、行政と市民が「ごみ減量推進市民会議」や「ひの・まちの生ごみを考える会」(略称「まち生」)を通して協働し、以下の施策を推進しています。

■レジ袋無料配布中止の拡大

現在市内のスーパー・生協 7 店舗で実施されているレジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催しています。しかし、こうした地域での自主的な取り組みでは実現が難しく、2020 年を目標に都内全域での無料配布中止の実施を目指している東京都の計画に期待しているところです。

■家庭での生ごみ減量・自家処理の推進

『エコー』の「市民のページ」などで、各家庭での生ごみの「3 切り」(水切り、食べ切り、使い切り)や庭への埋立や堆肥化を呼びかけています。

「生ごみリサイクルサポーター連絡会」(「まち生」の別動隊)では、手軽に生ごみの堆肥化を始められる、ダンボールコンポストを普及させるため、講習会や各種イベントでの展示・説明などを実施し、『生ごみ菌ちゃん通信』で PR を行っています。

■生ごみの地域内循環の推進

「まちの生ごみ活かし隊」(「まち生」の別動隊)が、第八小学校区域で約 200 世帯の生ごみを戸別回収し、新井にある「せせらぎ農園」と称している約 1,000 坪の畑や田んぼに直接すき込んで野菜や稲を栽培しています。ここは、新しい都市農業のかたちとして、また、地域の人たちの楽しい居場所や、農体験を通しての食育や環境教育の場として各方面から注目され、市内外からの見学者が絶えません。

このほかに、市内の幼稚園や保育園などでの生ごみを使った土づくり・野菜作りを推進しています。

■販売店への返却の促進

ペットボトルと発泡トレーの行政収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らすことによって販売店への返却を推進してきましたが、このところ行政収集量が増加しており、追加施策として、ペットボトルや容器包装プラスチック(発泡トレーを含む)の収集有料化を検討する必要があります。

やはり行政収集頻度を 2 週に 1 回から 4 週に 1 回に減らした新聞紙の行政収集量は、順調に減り続けており、それを加速するため、新聞販売店が回収している地区については、原則として行政収集を停止する(ただし、新聞販売店の回収に出せなかった家庭のために、小型家電・金属類の収集日に新聞紙も一緒に収集)といった取り組みを、まずモデル地区を設定して始めてみることを提案したい。

■リサイクルの推進

リサイクル率を高め、焼却量を減らすためには、現行のリサイクル対象品目の分別排出を徹底する一方、リサイクル対象品目の拡大が必要です。

①プラスチックの中間処理施設の整備と全量分別収集の実施(2020 年に開始の予定)。

②剪定枝・落ち葉のリサイクル(民間リサイクル施設を活用)の検討。

③生ごみ処理施設による生ごみ処理の検討。

地球温暖化分野

< 目 標 > 低炭素社会を築くまち

1. <環境の現状>

1. -1 日野市二酸化炭素排出量

削減率

短期目標 10% (2015 年度)

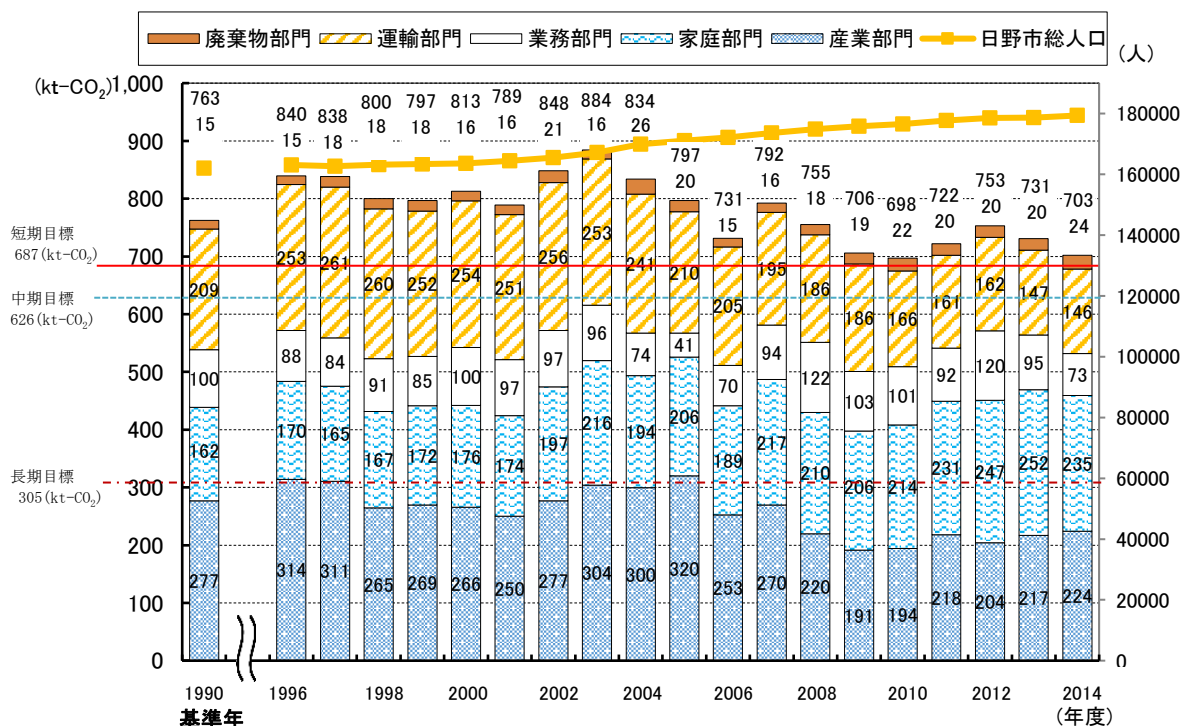
目標値: 中期目標 18% (2020 年度)

長期目標 60% (2050 年度)

(基準年度: 1990 年度)



指標 36 : 二酸化炭素排出量



「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」(以下、第3次実行計画)の策定が2012年3月にされましたが、環境基本計画では目標値が設定されていませんでした。従ってここに掲げる目標値は、第3次実行計画によるものです。

二酸化炭素排出量の削減目標は、国の2050年度までに1990年度比60～80%という目標を踏まえ、設定されています。さらに、目標値は環境基本計画の目標年度に併せ2020年度の中期目標値、

見直し年度である 2015 年度の短期目標値が設定されています。

現況の二酸化炭素排出量は、オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化区市共通版の数値を基準とされています。また、当手法では 2014 年度が最新データとなっています。この数値を使うことにより、東京都における他自治体と同一の算定条件のもとで比較もでき、有用であることから第 3 次実行計画策定以降、採用しています。

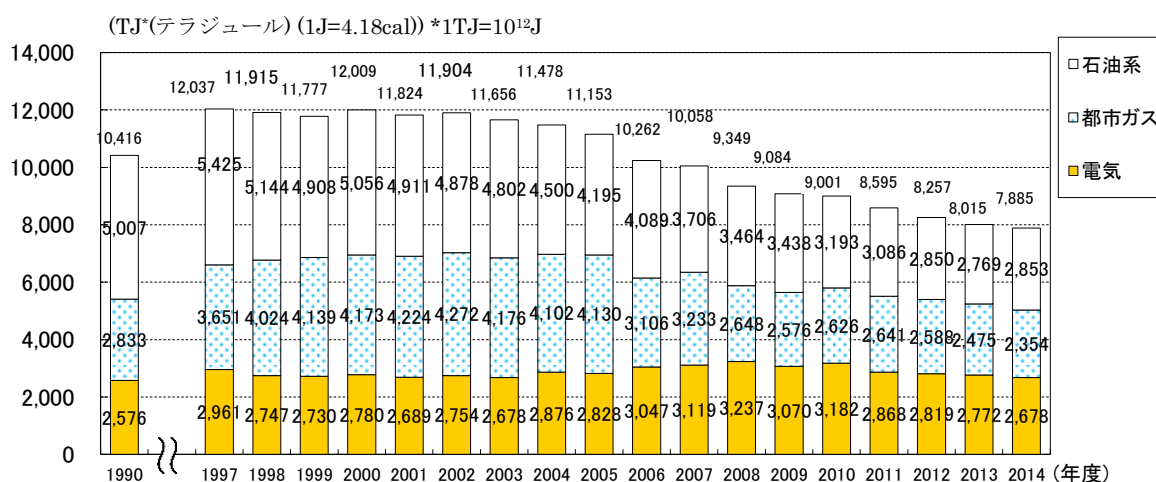
2014 年度における二酸化炭素排出量(703 kt-CO₂)は、前年度と比べるとやや減少し、基準年(1990 年度)と比べて 7.9 ポイント(60.0 kt-CO₂)減少しています。部門別にみえていくと、基準年(1990 年度)と比べ廃棄物部門は 60.0%、家庭部門は 45.1%とそれぞれ増加となりましたが、業務部門は 27.0%、運輸部門は 30.1%、産業部門は 19.1%とそれぞれ減少となりました。

平成 20 年度より、事業者や家庭から排出される CO₂ の削減に向けた取り組み「ふだん着で CO₂ をへらそう事業」を実施しています。

家庭部門から排出される CO₂ は、基準年(1990 年度)から見ると増加傾向が続いています。日野市の総人口が増加を続けていることも一因と考えられますが、総排出量を減らすためには、より多くの市民に省エネに取り組むよう、積極的なはたらきかけが必要です。

1.-2 日野市エネルギー使用量

(参考)：エネルギー消費量



基本計画では目標値が設定されていましたが、第 3 次実行計は二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

エネルギー消費量は 2006 年以降は基準年と比べて減少傾向にあり、特に石油系の消費量が大幅に減少しています。

1.-3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

😊 指標 37: 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%
(2020(平成 32)年度)

年度	公共交通機関の整備率
2008	77.7%
2009	78.2%
2010	79.0%
2011	79.0%
2012	79.2%
2013	79.6%
2014	79.6%
2015	80.1%
2016	80.1%

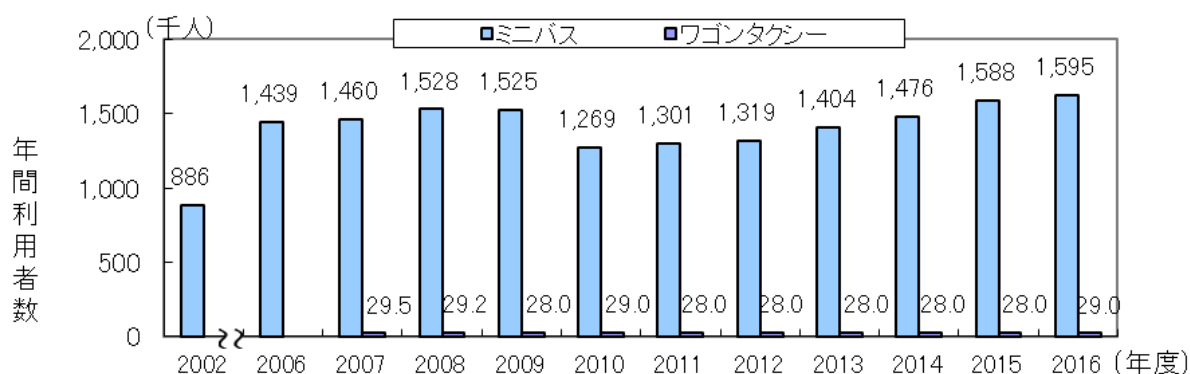
公共交通の整備率は、ミニバスやワゴンタクシーを含めた、市内にある全ての停留所から半径 200m、駅から半径 500m 以内にある面積が市全域の面積に占める割合です。

2016 年度の整備率は、2015 年度と同じ 80.1%となりました。2020 年度目標の 80.0%を達成しており、今後の整備率上昇が期待されます。

1.-4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

😊 指標 38: バス路線の整備状況: 市内連絡バス(ミニバス)年間利用人数

ミニバス
目標値: 158 万人
(2020(平成 32)年度)



2016 年度は、ミニバスの利用者が 2015 年度より 7,000 人程増加し 1,595,000 人となり、ワゴンタクシーは、2015 年度より 1,000 人程増加し、29,000 人程でした。

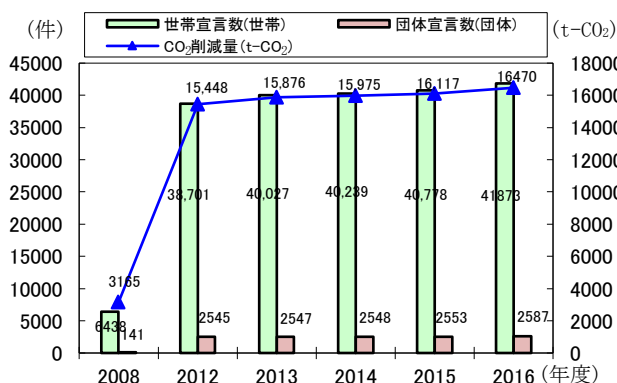
ミニバスの利用者は、グラフに示した 2002 年度*のデータと 2016 年度を比較すると約 80%の増加となっております。利用者増加の要因としては、路線の拡張や利便性の向上が挙げられます。ワゴンタクシーの利用者は、統計開始以降 29,000 人前後を推移しています。

今後も、公共交通網の拡充に伴う利便性の向上や公共交通機関利用者の増加に伴う温室効果ガスなどの排出削減が促進されることにより、環境の改善が期待されます。

*運行開始は 1986 年 8 月 20 日

1.-5 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量

😊 指標 39: 「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO₂ 削減量



「ふだん着で CO₂ をへらそう宣言」は、2008 年度から 2012 年度まで、宣言数が増加しました。その後も、宣言数が増加しており、CO₂ の削減効果が期待できます。今後も、日々の生活などにおいて、CO₂ の削減に貢献するよう、市民の皆様のご協力をお願い致します。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

目標	施策 の方 向	施策		具体的な取組	実施状況
低炭素社会を築くまち	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	CO ₂ の見える化の推進	ワットチェッカーの貸し出しやモニターによる省エネ実践、身近にふれるもの(食料品、省包装商品など)のCO ₂ 削減効果のデータ化などにより、CO ₂ の見える化を図る。	2016年度は主に、2015年度の省エネコンテストを参加者を対象に約半年間機器の貸し出しを行い、省エネ行動を実践していただく中で、その効果を知ってもらった。 (環境保全課) →指標 40(P.45)
			「ひのっ子エコアクション」の推進	市民団体と市関連部署との連携により、各学校での「ひのっ子エコアクション」をさらに推進する。それによって、環境配慮行動を当たり前のようにできるひのっ子を育み、家庭での取組にもつなげていく。	児童生徒及び教職員の継続的な「環境にやさしい学校づくり」のための実践行動、目的意識の統一につなげた。今後もユニークな発想や効果のあった実践等は全校に情報発信していく。 (環境保全課)
		工場や事業所の省エネルギーの促進	省エネ診断の支援	小規模な工場や事業所でも省エネ診断をできるよう、省エネ診断に関する情報提供や省エネ診断員の紹介等を行う。	産業振興課と連携し、また、市のホームページや広報等を利用して省エネ診断の情報提供について周知を図った。 (環境保全課) →指標 41(P.45)
	新エネルギーの導入	家庭への太陽光発電等の導入促進	太陽光発電等導入補助の実施	国・都が推進する太陽光発電システムや太陽熱温水器、高効率機器等の導入を促進するために、日野市としても上乗せの補助を実施する。	太陽光発電システム及び高効率給湯機器設置に対する補助を実施した。引き続き、低炭素なまちを目指し、再生可能エネルギーの積極的な利用を働き掛けていく。 (環境保全課) →指標 42(P.46)
		公共施設における太陽光等新エネルギーの活用	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	公共施設において、新築、改築、大規模修繕等の各種事業に合わせて、積極的な新エネルギーの導入を図る。	施設の新設や改修時には、再生可能エネルギーの積極的な活用を呼びかけていく。設置に対する補助金についての情報収集についても務めて行く。 (環境保全課) →指標 43(P.46)
	環境に配慮した交通体系の構築	自動車利用時の排出ガスの低減	渋滞の解消	交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITSの導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO ₂ 排出量を抑制する。	2015年12月に日野都市計画道路3・4・24号線の事業認可を取得。2017年度からの工事着手に向け、2016年度は詳細設計及び搬入路の道路整備工事を実施した。 (道路課) →指標 44(P.47)

2. -1 省エネルギーの推進

(1) 家庭における省エネルギーの促進

CO₂の見える化の推進

◇ 指標 40: ワットチェッカー等貸出状況

2020 年度目標値: ワットチェッカー貸出数累計 500 件
省エネナビ貸出数累計 100 件
環境家計簿活用状況 1,000 件

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	
2011	55		48		751
2012	42	97	25	73	12,752
2013	36	133	20	93	6,554
2014	53	186	37	130	11,086
2015	35	221	13	143	11,841
2016	29	250	2	145	14,399

2016 年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて 31 件と前年度より 17 件減少し、環境家計簿活用件数は 14,399 件と前年度よりも 2,558 件増加しました。

ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示するシステムです。

環境家計簿とは

通常の家計簿とは違い、家庭で使用した電気やガスなどのエネルギー量を記録し、どのくらいの CO₂を排出しているか確認するものです。

日野市では、市内の全小学校を対象に年 2 回、「エコキング」と称して環境家計簿の記録を実施しています。

(2) 工場や事業所の省エネルギーの促進

省エネ診断の支援

☹ 指標 41: 省エネ診断の参加事業者数

2020 年度目標値: 累計 1000 件

2011 年度から開始された省エネ診断は 6 年目を迎えましたが、2016 年度の参加事業者数は 1 件で、累計 21 件にとどまっています。このように参加事業者数が少ない理由としては、事業者に対する省エネ診断の意義が周知されてないことが考えられます。今年度も市内業者に対し、省エネ診断などをご紹介して受診事業者の掘り起こしに努めています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2. -2 新エネルギーの導入

(1) 家庭への太陽光発電等の導入促進

太陽光発電等導入補助の実施

2020 年度目標 太陽光発電等導入補助件数
累計 180 件

☺ 指標 42：太陽光発電等の導入補助件数

年度	太陽光発電（件）	高効率給湯設備（件）
2010	11	4
2011	33	17
2012	32	17
2013	40	13
2014	45	6
2015	40	1
2016	38	5

エコ住宅に太陽光発電・高効率給湯設備を設置したものを補助対象としています。事業は順調で、2016 年度の補助件数は 43 件と昨年度より増加しました。

(2) 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用

太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用

2020 年度目標値：計 200kW

☺ 指標 43：公共施設の新エネルギー導入状況

年度	新エネルギー導入状況(kW)	備考
2009	0(24)	平山小学校 10kW, 第一中学校 10kW 日野駅北側トイレ 4kW
2010	34(10)	東光寺小学校 10kW
2011	144(110)	ふれあいホール 100kW, 多摩平保育園 10kW
2012	147(3)	ファーマーズセンター 3kW
2013	157(10)	発達支援センター 10kW
2014	163(6)	豊田南地区センター 6kW
2015	165(2)	東宮下地区センター 2kW
2016	194(29)	日野第二中学校 29kW

* () 内の数値は単年度の導入数値

2016 年度は 2015 年度より増加し、累計数値は 194kW となりました。

※2009 年度の日野駅北側トイレは、2013 年度から 1.5kW から 4kW へ修正があり、過年度の数値とは異なる。

新エネルギーとは

「新エネルギー」とは、太陽光発電や風力発電などの「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギー。

2. -3 環境に配慮した交通体系の構築

(1) 自動車利用時の排出ガスの低減

渋滞の解消

☺ 指標 44：都市計画道路の整備率

2020 年度目標値:96.0%

年度	都市計画道路の整備率 (%)
2009	89.9
2010	89.9
2011	92.8
2012	92.8
2013	92.8
2014	92.8
2015	92.8
2016	92.8

※2015 年 12 月に日野都市計画道路 3・4・24 号線の事業認可を取得し、2017 年度からの工事着手に向け、2016 年度は詳細設計及び搬入路の整備工事を実施しました。

自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO₂排出量の抑制を図ります。

整備率は、2016 年度も 2015 年度と同じ 92.8%でした。

3. <市民コメント>

2014 年度の二酸化炭素排出量は、2013 年度に続いて減少に転じ良い結果となりました。部門別に前年度と比較してみると、産業部門が 3.2%増加し、廃棄物部門が 20.0%増加したものの、他は減少しています。家庭部門が 6.7%減少、業務部門は 23.2%も減少し、運輸部門も 0.7%減少しました。業務部門は、前年度に続き減少して、過去のデータと比較しても低い水準に戻ったと言えます。この増減は何に起因するのか分かりませんが、今後の動向を注視する必要があります。家庭部門は過去 4 年間続いていた増加傾向から減少に転じましたが、部門別では一番の排出量であり、基準年と比べても大幅に増加していることから、家庭部門への対応が引き続き最重要課題となっています。産業部門は、ここ 7、8 年の期間でみると減少傾向にありますが、短期間では増減を繰り返しているため、長い目で見る必要があります。運輸部門は 1990 年代後半をピークに減少傾向が続いています。

地球温暖化が原因と思われる高温に加えて、国内外で異常気象による自然災害のニュースを多く耳にするようになり、二酸化炭素排出量の削減は益々重要な課題と言えます。私たち市民の生活様式が反映される家庭部門の排出量削減のために、さらなる努力が必要です。電気、ガスの使用量を抑えるにはどうすれば良いか、自動車の使用を抑えるにはどうすれば良いか、私たちに出ることは何かを一人ひとり、あるいは家族で考え話し合い、実行することが大事であり、その積み重ねが削減につながります。

生活環境分野

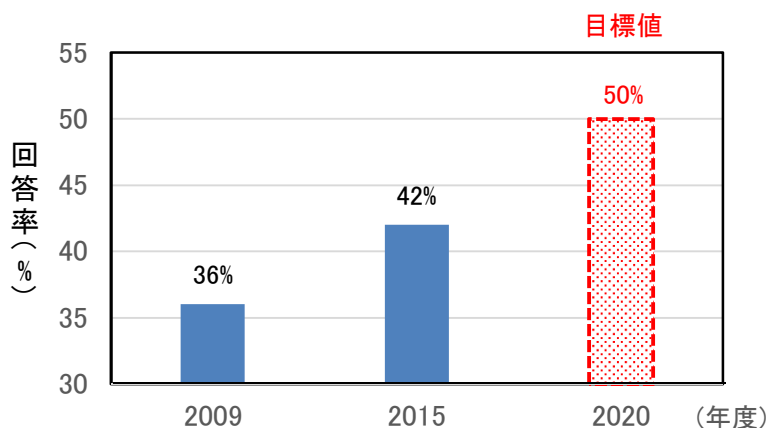
＜目標＞ 心やすらぐ住みよいまち

1.＜環境の状況＞

1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

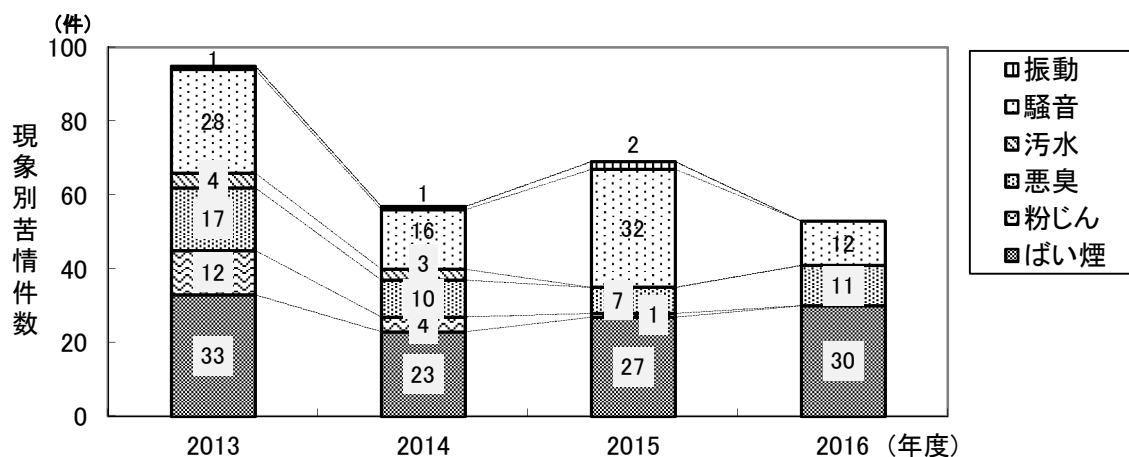
😊 指標 45：心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

目標値: 50.0%
(2020(平成 32)年度)



2015(平成 27)年度の意識調査で「きれいな水や空気・騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確認されている」という回答率は 42%で 2009(平成 21)年度に比べて 6.0 ポイント上昇し、目標値に向かっていと言えそうです。

(参考)：苦情受付件数



市に寄せられた環境・公害に関する苦情件数をみると、2016 年度の苦情受付件数は 53 件となりました。種別でみると、多い順に、ばい煙、騒音、悪臭となっています。汚水、振動、有毒ガスの苦情についてはありませんでした。

2016 年度は、2015 年度よりも騒音の苦情件数が大幅に減少しており、全体の苦情件数も減少しました。市民一人ひとりのマナーへの関心が高くなってきていると思われます。

2.〈市の取組状況〉

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	実施状況
心やすらぐ住みよいまち	日常生活をとりまく環境の充実	快適な生活環境の確保	PRの実施	誰もが快適に暮らし心安らぐ生活環境を維持・確保するため、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようPRを実施する。 (環境保全課) → 指標 46(P.50)
			苦情に対する適切な対応	市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、可能な限り迅速に状況を確認し、適切に対応した。 (環境保全課)
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	大気汚染物質の監視	窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行うと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。 (環境保全課) → 指標 47～50(P. 50～52)
			道路交通騒音の測定及び対策の実施	道路交通騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。 (環境保全課) → 指標 51(P.54,55)
		騒音・振動対策の推進	航空機騒音についての対策	市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状の把握に努める。また、環境基準を超過する場合には、適切な処置を講ずるよう努める。 (環境保全課) → 指標 52(P.55)
				市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超えることはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講じた。 (環境保全課)

3. 環境の状況と取組状況の評価

2. -1 日常生活をとりまく環境の充実

(1) 快適な生活環境の確保

PRの実施

各年度目標値:14回以上



指標 46: マナーアップのための啓発活動状況

(単位: 回)

マナーアップのための啓発活動状況	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	備考
喫煙マナーアップキャンペーン	4	4	3	4	3	5	3	JR 日野駅 2 回、JR 豊田駅 1 回
広報によるマナー啓発	2	3	5	5	8	8	8	生き物 4 回、喫煙 2 回、公害 1 回、樹木 1 回
犬・猫の飼い方講習会	3	5	2	4	4	3	3	ドックラン 2 回、日野市役所 1 回
自治会によるマナー啓発	1	2	2	2	2	2	2	5 月上旬、11 月上旬
計	10	14	12	15	17	18	16	

2016 年度に行われたマナーアップのための啓発活動は 16 回と、昨年度の目標を上回る結果となりました。

今後も、市民一人ひとりが、周囲の人々の行動、意見、考えを尊重しつつ、自らの行動について考えていくことが必要です。

2. -2 公害対策の推進

(1) 大気・土壌・地下水汚染等の防止

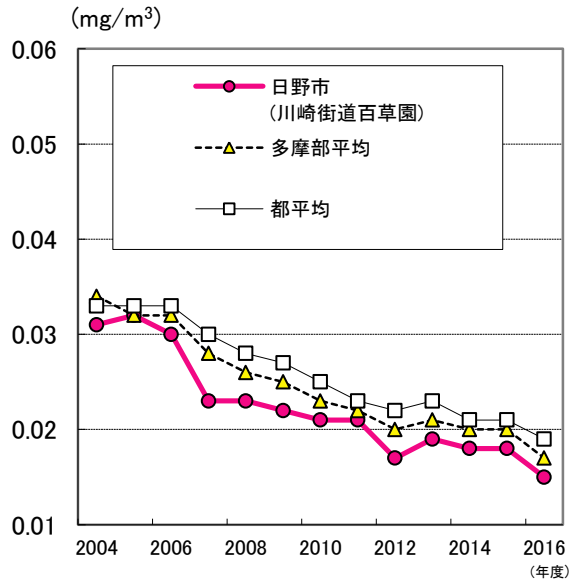
大気汚染物質の監視



指標 47: 浮遊状粒子物質 (SPM) 年平均値

東京都自動車排出ガス測定局の測定結果によれば、日野市(川崎街道百草園)の SPM 年平均値は $0.015\text{mg}/\text{m}^3$ であり、多摩部平均や都平均よりも低く推移しています。2007 年 3 月に開通したバイパスにより、自動車の交通量は分散したことが考えられ、2007 年度以降は低い数値を示しています。

なお、2016 年度の微小粒子状物質 ($\text{PM}_{2.5}$) の同測定局結果は、1 年平均値が $11.2\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、1 日平均値が $26.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ となり、環境基準 ($\text{H}21.9.9$ 環境省告示) である「1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を下回るものとなりました。昨年に比べ値が減少し、大気汚染の状態が改善されたといえます。



浮遊粒子状物質

(SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径 $10\mu\text{m}$ 以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

環境基準

「1時間値の1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。」(S48. 5.8 告示)

微小粒子状物質(PM_{2.5})とは

大気中に浮遊している粒径 $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は 1mm の千分の1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM: $10\mu\text{m}$ 以下の粒子)よりも小さな粒子です。

PM_{2.5} は非常に小さいため(髪の毛の太さの $1/30$ 程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として大気中での化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉱物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典:環境省「微小粒子状物質(PM_{2.5})に関する情報」<http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>)

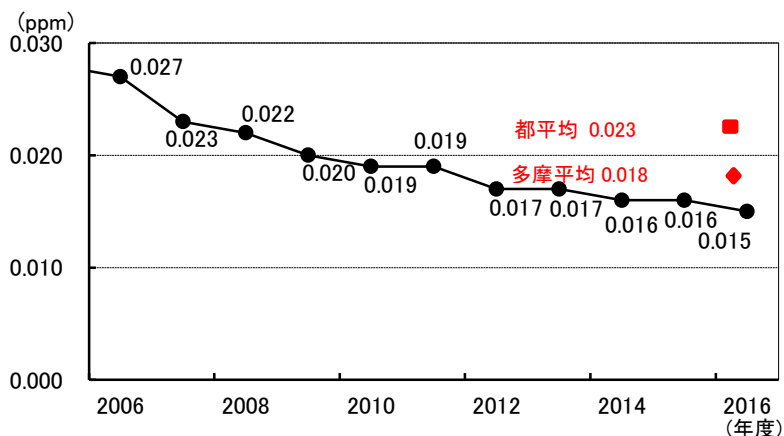


指標 48 : 二酸化窒素の年平均濃度

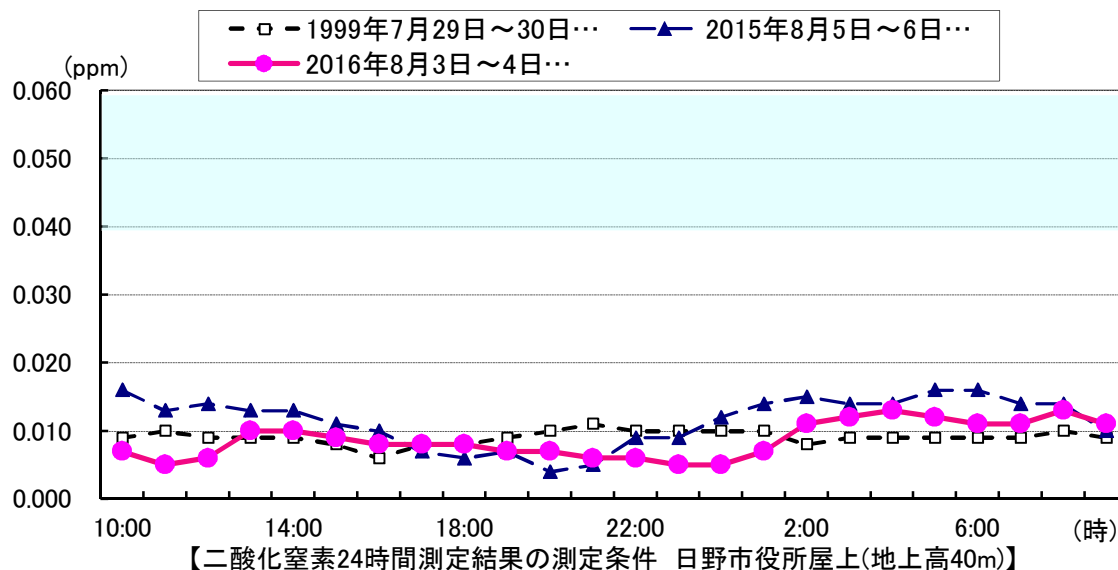
日野市川崎街道百草園にある東京都自動車排出ガス測定局の調査結果(東京都環境局資料)によれば、2016年度の二酸化窒素濃度平均値は昨年度より減少し、 0.015ppm を示しています。日野市の値は、都平均値 0.023ppm 、多摩平均値 0.018ppm と比較して低い値となっています。



指標 49 : 二酸化窒素 24 時間測定結果



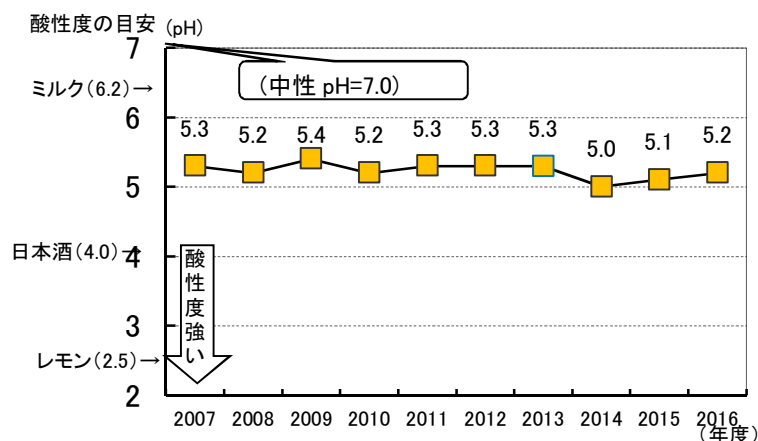
3. 環境の状況と取組状況の評価



環境基準：■ 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること

1日における二酸化窒素濃度(日野市役所屋上)の変動(2016年8月3～4日)と、1999年、昨年の2015年を比較すると、全体的に減少しています。また、2015年と2016年の平均濃度は、2015年の0.0115ppmに対し、2016年度が0.00867ppmとなっており、約0.003ppmの減少が見られました。二酸化窒素濃度の環境基準「1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下」をクリアしています。

◇ 指標 50：雨の酸性度



酸性雨とは

自動車や工場から大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物により、雨水が pH5.6 以下に酸化する現象です。

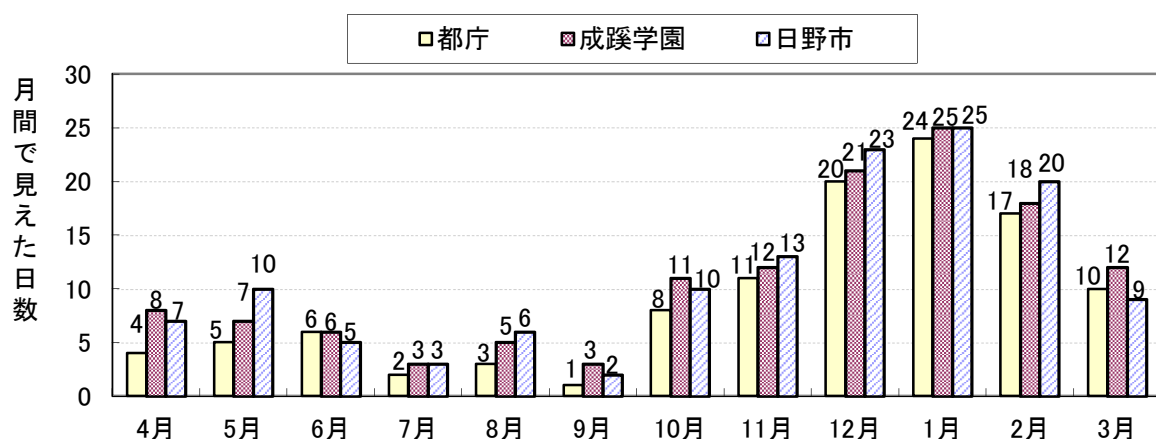
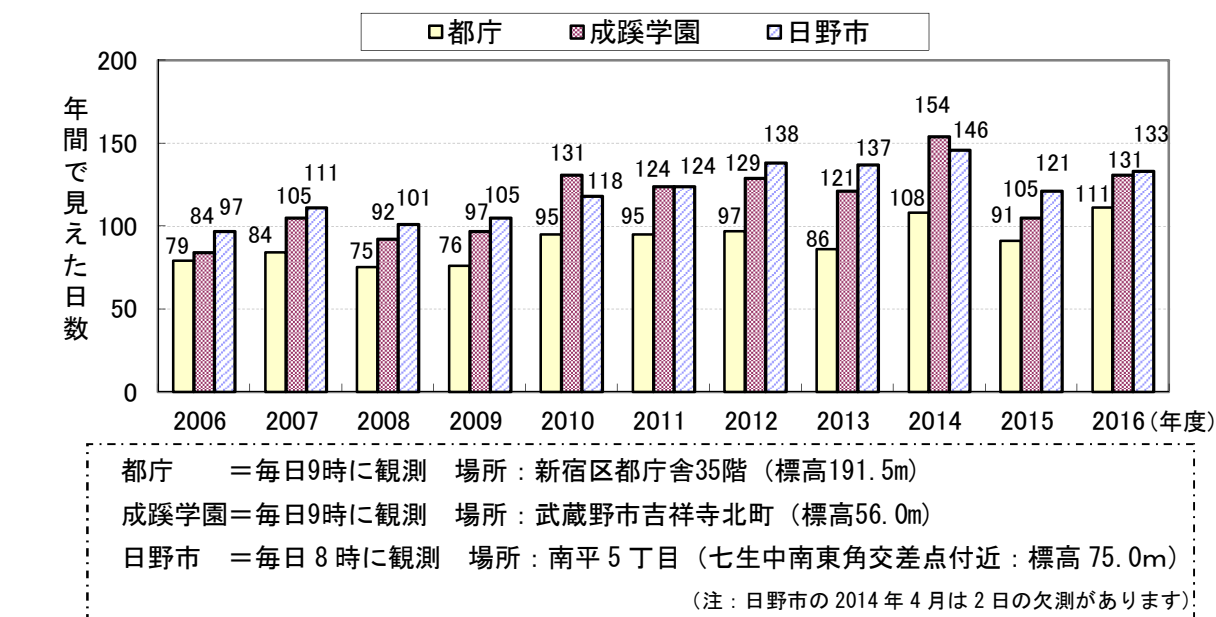
pH とは

酸性の度合いを示し、中性は pH7.0 です。酸性度が強くなるほど数字が低くなります。

2016年度における雨の pH 値は pH5.2(市内8か所で8人の市民モニターにより測定された98試料の平均値)で、2002年度以降大きな変化は認められませんでした。

(参考)：富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)

※各々、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



日野市での観測記録を、インターネット上で公開されている都庁(新宿区)での観測値と30年以上の実績のある成蹊学園気象観測所(吉祥寺)の協力を得て入手したデータを比較しました。データを比較するにあたり、都庁は35階(約200m)の高層での観測値であり、日野市は観測標準時より早い8時の観測値であることに注意が必要です。

2016年度の富士山が見えた日数は3地点とも2015年度より増加しています。2016年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は1422mmであり、前年度(1733mm)より少なく、観測時に視界が良かったことが原因の一つと考えられます。

過去10年間(2007～2016年度)の平均値は都庁で91日、成蹊学園で118日、日野で123日であり、これらに比べ2016年度はいずれの地点でも増加しています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

(2) 騒音・振動対策の推進

道路交通騒音の測定及び対策の実施

◇ 指標 51：道路交通騒音

2016年度の昼間及び夜間の数値は、前年度と同程度の値が観測されました。一部の測定地点において、昼夜とも環境基準を上回る結果が得られたものの、要請限界は超えておりません。

路線名	測定地点	昼間	夜間
国道 20 号 バイパス	市立病院 (多摩平 4-3-1)	68	64
	日野商工会館前 (多摩平 7-23-23)	68	63
	農産物直売所 (万願寺 6-35-13)	69	65
都道 155 号	富士電機社宅前 (旭が丘 1-8)	64	60
都道 173 号 (北野街道)	第 6 分団消防小屋前 (平山 5-12-16)	70	66
都道 41 号 (川崎街道)	三沢浄水場前 (三沢 1-19-1)	63	59

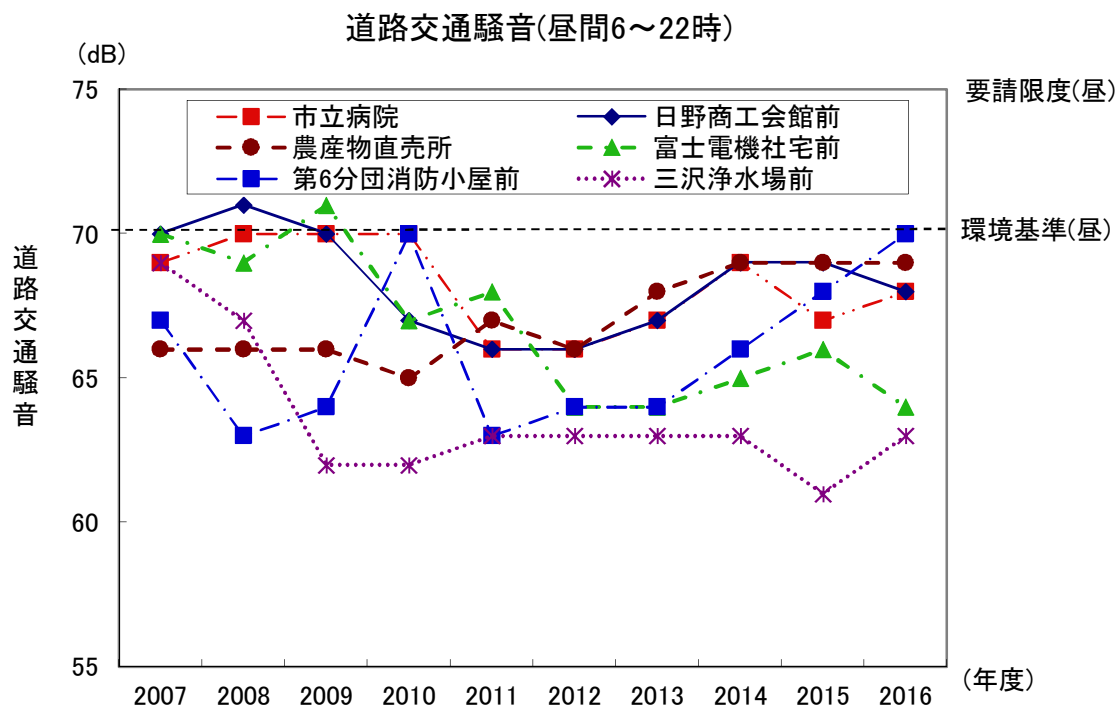
※騒音測定法について

毎正時から10分間測定を行い、(1時間の等価騒音レベルを算出し)各時間区分の等価騒音レベルを演算。

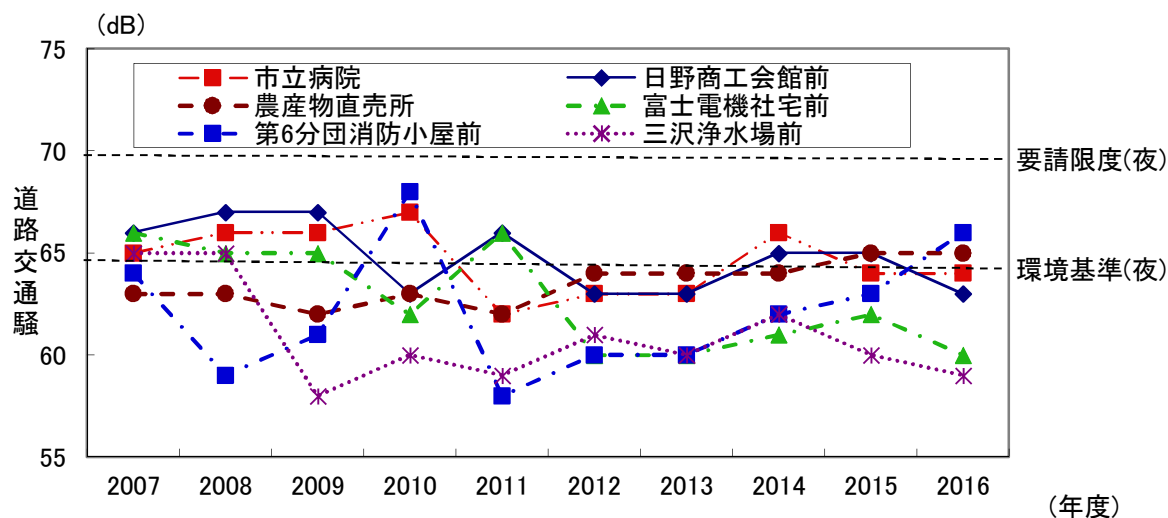
【等価騒音レベル】時間内で変動する騒音レベルのエネルギー的な平均値で、人に感じられる感覚的なうるささとの対応に優れているといわれる。

【環境基準】人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい騒音レベルで、目標値となる。(環境基本法)

【要請基準】道路管理者に改善を要請することのできる騒音レベル。(騒音規制法)



道路交通騒音(夜間22～6時)

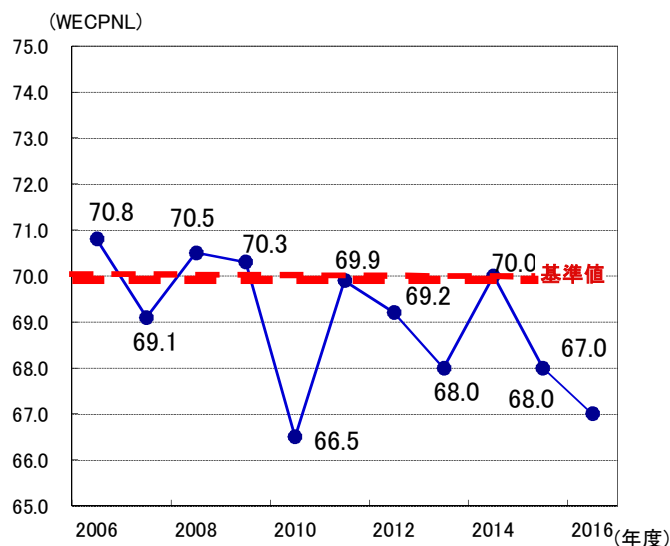


調査期日：2017年1月11日～2017年2月21日

環境基準：幹線交通を担う道路に近接する空間 昼 70dB, 夜 65dB
 要請限度：b 区域(主として居住の様に供される地域)の2車線以上
 C 区域(相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域)の車線を有する
 昼 75dB, 夜 70dB

航空機騒音についての対策

😊 指標 52：横田飛行場に係わる航空機騒音



(測定場所 旭が丘地区センター・日野市旭が丘5-1)

日野市では、横田基地に係る航空機騒音の測定を1977年から実施してきました。1988年まではリオン社製 NA-30 により夏期及び冬期にそれぞれ1ヶ月間測定してきましたが、1989年以降はリオン社製 NA-33 により常時測定を行なっていました。

2013年度から環境基準がLdenに変更となり、リオン社製 NA-37 で常時測定を行っています。2016年度は前年度より1.0低く67.0(WECPNL)でした。新基準では53(Lden)となり、環境基準を満足しています。

※環境基準値はWECPNLでは70、Ldenでは57となります。

WECPNLとは

Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level「加重等価平均間隔騒音レベル」のことで、航空機の一日の総騒音量を評価する国際単位。同じ音の大きさでも、昼、夕、夜で、人の感じる大きさは異なることから、それぞれの時間帯の音に対して、人の感じ方の度合いを考慮して算出した値です。

Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2-3 放射線測定

市内空間放射線量測定

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質による環境汚染が生じました。市では、2011 年 7 月 11 日から、市内の空間放射線量の測定を開始しました。国の基準※では、0.23 マイクロシーベルト/毎時以上の地域が除染対象となります。2016 年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準『平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』(2011 年 8 月公布)

表-2011 年 7 月 11 日以降の最小及び最大値

測定区分	場 所	実施日	結 果(単位:マイクロシーベルト/毎時)
定 点	公園 8 地点	2011 年 7 月 11 日～継続中 毎週 1 回	0.02～0.09

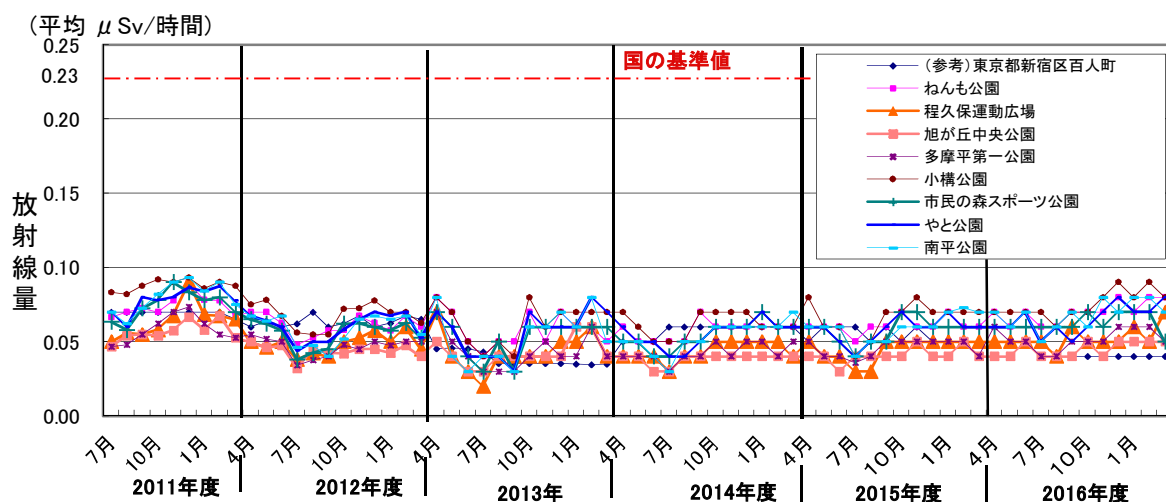
調査期間:週 1 回(2011 年 7 月 11 日から)

調査地点:市内の中学校区を基準にして 8 分割し、各校区内の 1カ所を測定場所とする。計 8 カ所。

調査内容:高さ 1 メートル位置にて、5 分間保持後、30 秒ごとに 5 回測定した空間放射線量の平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

中学校区	測定場所
三沢中学校区	ねんも公園(高幡)
第三中学校区	程久保運動広場(程久保)
第四中学校区	旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)
第二中学校区	多摩平第一公園(多摩平4丁目)
大坂上中学校区	小構公園(日野台1丁目)
第一中学校区	市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目)
平山中学校区	やと公園(平山3丁目)
七生中学校区	南平公園(南平4丁目)



災害廃棄物、焼却灰及び排ガスの放射線量の測定結果について

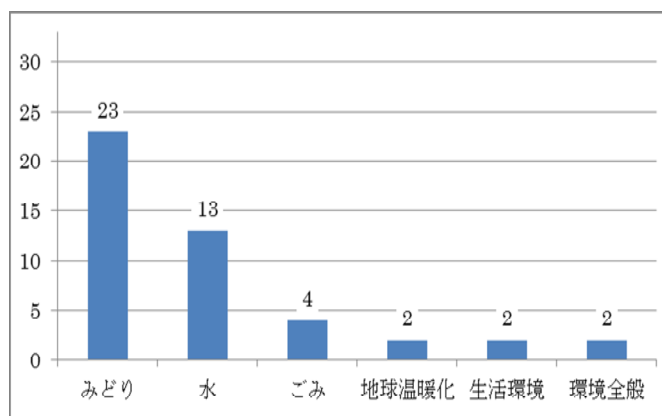
クリーンセンターでは平成 24 年から放射線量の測定を行い、その結果を日野市のホームページで公表しています。詳しくは「クリーンセンター焼却灰等の放射能測定結果について」をご覧ください。

4. 環境への取組状況

本章では、日野市において、市民及び市民・行政との協働、行政、学校等、大学、事業者による環境への取り組みを主体別に紹介します。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

ここでは、日野市において種々の環境問題に対し、市民及び市民と行政との協働で継続的に実施している主な活動事項を紹介します（五十音順）。2016年度に活動実績のある団体（活動）は下表の33団体（活動）で、活動分野別では「みどり」が最も多く23団体（活動）、次いで「水」が13団体（活動）、「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」分野の活動は少ない傾向にあります。



番号	団体（活動）名	取組分野					
		みどり	水	ごみ	地球温暖化	生活環境	環境全般
1	浅川潤徳水辺の楽校推進協議会	○	○				
2	浅川滝合水辺の楽校運営委員会		○				
3	浅川流域市民フォーラム		○				
4	石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)	○					
5	NPO法人環境教育ネットワーク						○
6	倉沢里山を愛する会	○					
7	真堂が谷戸螢の会	○	○				
8	雑木林ボランティア講座	○					
9	まちづくり市民フェア						○
10	ツバメのくるまち事業	○	○				
11	南丘雑木林を愛する会	○					
12	農の学校	○					
13	八王子・日野カワセミ会	○					
14	東豊田緑湧会	○	○				
15	日野産大豆プロジェクト	○					
16	ひの市民リサイクルショップ回転市場			○			
17	日野団塊世代広場	○		○			
18	ひのどんぐりクラブ	○	○			○	
19	日野の自然を守る会	○	○				
20	日野の水車活用プロジェクト		○				
21	日野みどりの推進委員会	○					
22	ひの緑のトラスト	○					
23	ひの・まちの生ごみを考える会			○			
24	まちの生ごみ活かし隊	○		○			
25	ふだん着でCO ₂ をへらそう実行委員会				○		
26	程久保川を考える会		○				
27	みずとくらす・ひの		○				
28	水と緑の日野・市民ネットワーク	○	○		○	○	
29	緑を愛する会日野	○					
30	南平・緑と水のネットワーク	○	○				
31	百草山の自然と文化財を守る会	○					
32	谷仲山緑地を守る会	○					
33	緑地管理ボランティアの会	○					
合計		23	13	4	2	2	2

4. 環境への取組状況

① 浅川潤徳水辺の楽校推進協議会

○ 活動目的

川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが思いっきり遊ぶことができる自然体験の場を「水辺の楽校」といいます。水辺の楽校は、1996年から国土交通省が推進している事業で、すでに全国300か所以上の地区において、この取り組みが始まっています。大人も子どももみんなで楽しく語り合い、浅川でのイベントを中心とした遊びの中から、自然の大切さを学んでもらうのが水辺の楽校です。

○ 対 象：潤徳小学校の児童を中心に、浅川近隣の小学生が対象

○ 活動場所：おもに浅川高幡橋～新井橋区間と向島用水

○ 連 絡 先：代表者 会長 小倉 紀雄／事務局 日野市緑と清流課・日野市立カワセミハウス

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 17	多摩川・浅川クリーン作戦に参加	浅川ふれあい橋付近清掃	45
5. 9	種まき（学校内）	潤徳小 5 年生（授業）	165
5. 14	「浅川で遊ぼう 1」	竹馬、竹笛づくり、竹ぼっくり、天狗の下駄、石絵、豚汁、その他	100
6. 5	「浅川で遊ぼう 2」 身近な水環境の一斉調査	子供中心に用水で 3 箇所ふれあい橋下 1 箇所	47
6. 6	田植え	潤徳小 5 年生（授業）	165
7. 19	田圃の草取り	潤徳小 5 年生（授業）	165
7. 23	「浅川で遊ぼう 3」浅川の源流探検	川は流域で考えることから、浅川の清冽な源流域を体験する。	35
8. 6	「浅川で遊ぼう 4」	思いっきり、水遊び（水泳など）	100
8. 18	田圃の草取り	潤徳小 5 年生（授業）	60
9. 10	「浅川で遊ぼう 5」	バッタ取りと植物観察（杉浦氏）	53
10. 13	稲刈り	潤徳小 5 年生（授業）	165
10. 26	脱穀	潤徳小 5 年生（授業）	165
11. 16	水車でもみすり	潤徳小 5 年生（授業）	165
11. 27	日野市地域清掃に参加	浅川ふれあい橋付近清掃	30
12. 10	多摩川子供シンポジウム	多摩川流域の水辺の楽校が集う発表会	30
12. 11	笹狩り	笹狩り（どんど焼きのお団子の串）	40
12. 21	餅つき大会	潤徳小 5 年生（授業）（学校運営委員会、PTA 共催）	165
2017. 1. 14	どんど焼き準備	お団子づくり、やぐら作りなど（PTA 共催）	60
1. 15	「浅川で遊ぼう 6」	どんど焼き（PTA 共催）	650
2. 21	水辺の楽校発表会	潤徳小体育館で全校生徒集合	720
3. 11	「浅川で遊ぼう 7」	浅川で野鳥観察	35
3. 12	種まき（学校内）	潤徳小 5 年生（授業）	165

② 浅川滝合水辺の楽校運営委員会

○ 対 象：滝合小学校の生徒を中心に、同校保護者・卒業生及び地域住民

○ 活動場所：滝合小学校付近の浅川、ビオトープ

○ 事 務 局：浅川っ子の会（滝合小学校教員・保護者・地域住民で構成）、日野市緑と清流課

○ 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2016. 4. 17	浅川清掃&春野菜カレー	69
6. 19	染物体験	26
8. 28	浅川で川遊び	28
11. 27	浅川清掃&七輪パーティ	42
2017. 2. 21	バードウォッチング&焼き芋	30

※ 8 月 28 日の川遊びについては雨の為、スイカ割りに変更。

③ 浅川流域市民フォーラム

○ 活動目的

浅川及び大栗川、程久保川、谷地川流域の良好な水辺環境を守り、いい川づくりをしていくことについて、市民の意見交換や行政に対しての提案を行い、交流の機会や場を形成するとともに、流域の行政との良好なパートナーシップを形成していくことを目的として、次世代に身近な自然である河川環境を残していくことを目的としています。

○ 活動内容

当会では、毎年日野市・八王子市の市民の参加を得て、「身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査を行っています。2016年度における調査地点数は169地点、参加人数は97人でした。この調査結果をもとに、谷地川、程久保川、大栗川を含む浅川流域の水質マップを作り、解説面に流域の情報を写真によってわかりやすく載せています。2016年度では、日野市の用水が開削450周年となったこと、日野市内に用水がたくさん流れていることを写真で掲載して紹介しました。

「身近な水環境の全国一斉調査」は2004年から行われていて、13回目になりました。調査開始から水質マップを作り、環境学習での資料として提供し、日野市の水辺の資料館や八王子市の環境フェスティバル、日野市環境情報センターや八王子市エコひろばでの展示・配布などを行ってきました。

この12年の間、流域の水質が向上してきている事、アユが遡上してきている事、モクズガニ、ホトケドジョウなどが確認された事、工事によってゾウの化石が発見された事、支流で水涸れが起きている事、流域のホテルの状況や湧水の状況、流域紹介などを記載して、身近な河川について関心を持ってもらえるようにしています。

他には、浅川・湯殿川クリーンデー(毎年4月)を開催し、今の浅川流域の状況を伝えるニュースを発行(年3回)、河川改修に関する行政との意見交換などを行っています。

○ 人 数:61 人、7 団体

○ 活動場所:運営委員会 毎月 浅川・湯殿川クリーンデー 湯殿川(北野駅から合流)

浅川(八王子卸売市場～長沼橋下流)4月・身近な全国一斉調査(6月第1日曜日)

八王子市・日野市の河川 169 地点 (2016 年実績)

○ 連絡先:事務局 諏訪 祥子 TEL:042-621-1779 E-mail:CBB00853@nifty.com

○ 情報提供方法:水質マップの展示・ニュースレターの配布

地域センター祭りで展示・配布

八王子市環境フェスティバル 毎年6月第1土曜日

会員への配布

④ 石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)

○ 活動目的:都市農業の普及と理解・四季を通じての活動・食農教育

○ 人 数:登録会員 約 50 人

○ 活動場所:日野市百草 672-1 石坂ファームハウス

○ 連絡先:TEL:042-591-6477

○ 情報提供方法:<http://blog.goo.ne.jp/ishizakafarmhouse/> TEL:042-591-6477

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4	野菜の種まき体験と畑散策	自然の恵みを楽しむ会	約 20
	とうもろこし種まき	近隣幼稚園	約 20
5	里芋の植え付け	三中育成会	約 70
6	田植え	お米づくり講座 第1回・関東農政局	約 100
	じゃがいも堀り	都内幼稚園	約 20
7	じゃがいも堀りと試食会	自然の恵みを楽しむ会	15
	夏休み子ども村	JA	20
8	農場視察	京都芸術学院	約 10
	かかし作り	お米づくり講座 補講	20
	里芋の観察	三中育成会	70
10	稲刈り	おつくり講座 第2回	約 160
	里芋収穫	都内保育園	約 20
11	芋ほり	近隣保育園	約 10
	秋の収穫体験	自然の恵みを楽しむ会	約 20
	収穫体験と調理体験・竹はし作り	関東農政局・都内大学生	約 20
	職場体験	三中	6
	里芋収穫	近隣保育園	約 100
	里芋収穫	三中育成会	約 10
	収穫体験と調理体験	都内専門学校	約 30
12	わらリース作り	お米づくり講座 第3回	約 100
	つるのリース作り	環境情報センター	約 20
2017. 1	お餅つき	近隣幼稚園	約 100
	お餅つき	都内幼稚園	約 50
	お餅つき	お米づくり講座 第4回	約 120
2	昔の道具見学	近隣小学校	約 90
3	思い出遠足・野外活動	近隣保育園	約 20

⑤ NPO 法人環境教育ネットワーク（旧：比留間塾環境プロジェクトクラブ）

○ 活動目的・活動内容

小学生及び中学生に環境教育・環境活動の支援を行うとともに、高校生、専門学校生、大学生、さらには広く社会人に対して、環境学習の機会を提供します。

○ 活動場所：日野市旭が丘4-7-5シティハイツ日野旭が丘4号棟510号室

○ 理事長：比留間 文彦

○ TEL:042-584-0900 FAX:042-581-9909

○ 情報提供方法：環境学習、セミナーなど

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 4 ～ 7. 25	公害論Ⅰについて	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	300
6. 15	第1回 環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象(山梨県上野原町)	15
9. 5 ～ 2017. 1. 30	公害論Ⅱについて	公害論についての講義を行った。 大学生を対象	300
10. 15	第2回 環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象(山梨県上野原町)	5
2017. 2. 26	第3回 環境学懇談会	環境学についての懇談会を行った。 社会人を対象(山梨県上野原町)	15

⑥ 倉沢里山を愛する会

○ 活動目的 活動内容等

百草倉沢地域で一帯の里山的な景観を永く残し、市民の手でエコ循環も実践しながら、緑地の維持・管理活動を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域の市民相互のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000(平成12)年から活動。

2004年、日野市と市有緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定を締結、その後活動の成果として複数の地元農家の相続の際、寄付等による緑地保全が実現し、公有緑地が拡大され、本会の管理範囲も拡大した。また、エリア内で工場跡地(民有地)を本会が一括して借り受け市民農園化、新しい形での緑地の復元を実現させ、さらに近隣の遊休民有地数カ所を地主の理解を得て市民農園として再生・管理している。

《主な活動内容》

- ・下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れ等、雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理作業および里山内の稀少動植物の保護育成・調査。
- ・里山内の市民農園(緑地としての耕作地、アリスの丘ファームⅠ・Ⅱ・Ⅲ)の運営・管理、及び雑木林の腐葉土をはじめ、おから、牛馬糞等、地域内でのエコ循環の実践。
- ・百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。
- ・外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加・等の受け入れ、研究フィールドの提供。
- ・上記諸活動を通じて、ボランティア参加市民の交流・交歓のためのイベント実施、コミュニケーションの場の提供、高齢層の社会参加機会の提供。

○ 会員数：120 家族、登録人数 約 200 人

○ 活動場所：日野市百草倉沢地区の公有緑地(数カ所)を拠点として活動。

○ 連絡先：事務局(田村) TEL:042-592-5859 E-mail:info@alice-fm.info

○ 情報提供方法及び2016年度の活動実績

《情報提供方法》 ニュースレター(季刊)、ホームページ(<http://alice-fm.info>)、Eメール等
《活動実績》 雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理の公式活動年間約20回のほか、フィールド内の果樹の手入れ・収穫、他の里山ボランティアの見学会、市民農園アリスの丘ファームの運営・管理等、随時必要に応じて活動、年間参加者数は延1000人を超える。

⑦ 真堂が谷戸螢の会

○ 活動目的・活動内容

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。ここは、雑木林からの湧水だけで、カワニナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息していることから当会では、ホタルだけではなく、生物多様性を考慮した里山の保全活動と位置づけています。

2010年4月には40坪ほどの田圃を復元し、田植えから、稲刈りそして収穫祭(餅つき大会)まで会員一同、楽しく取り組んでいます。

活動内容は、雑木林の下草刈り、萌芽更新作業、流れの管理、畑や田の管理、ビオトープづくり、ホタルの調査などです。

定例活動は月3回とし、会員一同楽しい汗を流しています。

6月上旬から7月初旬までの1ヶ月間は、毎晩3人1組となり、ホタルの調査活動(个体数のカウント、気温、水温、湿度など)を実施しています。今後も、注意深く調査活動を続け見守っていかねばなりません。

また、市と協働で市民を対象に「ホタルの夕べ」を開催し、この貴重な環境を市民に知ってもらい、守ることに挑戦しています。

4. 環境への取組状況

私たち「真堂が谷戸螢の会」は、雑木林で、汗をかき、楽しい1日だった事に、喜びを感じるボランティア活動を目指しています。

- 会 員 数:26 人
- 活動場所:日野市百草「真堂が谷戸」、百草園前緑地
- 代 表 者:板坂 泰治
- 連 絡 先:事務局 笹木 延吉 電話:042-642-0422
- 活動実績:月3回(第1日曜日、第3木曜日、第4土曜日)

実施日	テーマ	場所	参加人数
2016. 4. 3	シイタケ菌打ち	真堂が谷戸	11
4. 14	ホダ木置き場設置、他	真堂が谷戸	8
4. 23	梅の剪定他	百草園前	6
5. 1	総会	自治会館	15
5. 19	畑の土留め、田んぼの草取り	真堂が谷戸	10
5. 28	草刈り、梅の剪定	百草園前	7
6. 5	田植え	真堂が谷戸	14
6. 16	畑の土留め	真堂が谷戸	7
6. 25	草刈り	真堂が谷戸	8
6. 27	螢の夕べ(日野市と共催)	真堂が谷戸	35
7. 3	道路側の清掃、他	真堂が谷戸	9
7. 30	草刈り	百草園前	8
9. 4	水路淵の剪定	真堂が谷戸	13
10. 2	稲刈	真堂が谷戸	9
10. 20	田圃導水管調整	真堂が谷戸	7
10. 29	梅の剪定	百草園前	7
11. 6	水路の土留め工	真堂が谷戸	11
11. 17	腐葉土を田圃に運搬	真堂が谷戸	6
11. 26	ユズの収穫と剪定	百草園前	9
12. 4	田起こし	真堂が谷戸	12
12. 15	落ち葉かき	真堂が谷戸	8
2017. 1. 19	落ち葉かき	真堂が谷戸	6
1. 28	雑木伐採	百草園前	8
2. 5	雑木伐採	真堂が谷戸	10
2. 16	土砂運搬、雑木伐採	真堂が谷戸	7
2. 25	エゴノキ2本伐採	百草園前	4
3. 5	池のかい掘り、コナラ3本植栽他	真堂が谷戸	14
3. 16	駒打ち、コナラ10本植栽	真堂が谷戸	9
3. 25	梅等選定、高木2本伐採	百草園前	7

⑧ 雑木林ボランティア講座

市民団体と行政の協働で開催している第12期雑木林ボランティア講座(2016年度)は10回開講しました。講座内容の詳細は、水と緑の日野・市民ネットワーク(78ページ)をご参照ください。

⑨ まちづくり市民フェア2016

○ 活動目的

日野市内の市民活動団体が協働し合い、消費者市民社会構築の視点を入れつつ、市民の主導によるより良いまちづくりへの参加を呼びかけるイベントとして開催。

○ 参加団体数:77 団体

○ 活動場所:日野市市民の森ふれあいホール

○ 連絡先:TEL:042-581-6144(市民フェア実行委員会事務局 ひの市民活動支援センター内)

○ 情報提供方法: パネル展示、DVD 上映

○ 活動実績

実施日	目的・対象・内容	参加人数
2016. 10. 16	・ 環境に配慮した防災紙食器の利用 ・ 市民による環境保全への取り組み発表、環境に配慮した物販などのブース設置 ・ 来場者に環境クイズを答えていただく市民啓発を実施	1,800

⑩ ツバメのくるまち事業（日野の自然を守る会）

○ 活動内容

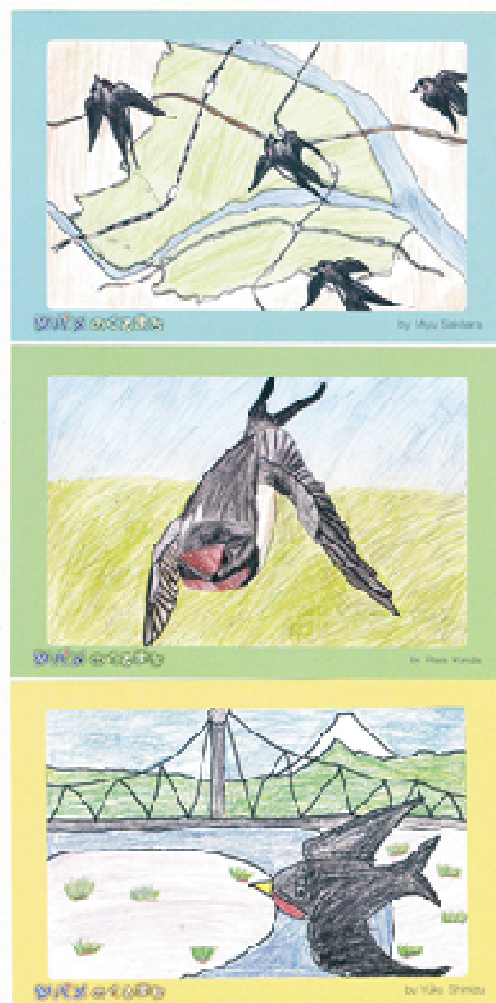
日野の自然を守る会が旧日野市環境情報センターから引継いだ当事業の1つが「ツバメのくるまち絵はがきの作成」です。

市内小学校の協力をいただき、2016年度は218点の応募がありました。この中から優秀賞3点と入選作品7点が選ばれ、賞状と副賞が贈られました。

優秀賞の3点は絵はがきになり、環境関係のイベント会場や自然観察会などで無料配布されます。

<優秀賞受賞>は写真の上から順に

- ・ 崎原 美結さん(第四小学校3年)、
 - ・ 神田 愛空さん(第四小学校3年)、
 - ・ 清水 優花さん(南平小学校3年)です。
- 学年は応募時(2016年度)の学年です。



4. 環境への取組状況

⑪ 南丘雑木林を愛する会

○ 活動目的・活動内容

日野市の雑木林を守るため、市民と行政との協働で開催している「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生を中心に、“明るく健全な雑木林を次世代に”をスローガンに2007年にスタートした雑木林を守るボランティア団体です。

南平丘陵公園を拠点に、雑木林の下草刈り、粗朶(そだ)柵作り、萌芽更新(ほうがこうしん)作業等を中心に活動しています。チェーンソーや刈り払機の使用に際しては、会員を積極的に安全講習会に派遣し、専門的な技術を習得しています。また、イギリスのBTCV(British Trust for Conservation Volunteers)のように、近隣の雑木林や他の団体などに、応援ボランティアを派遣できる成熟した団体を目標に活動しています。

「ボランティアは人のためにやるのではなく、自分のために(目的意識のため)活動するものです。」を合言葉に楽しい汗をかいています。

○ 会 員 数:34 人

○ 活 動 場 所: 南平丘陵公園、近隣の雑木林など

○ 代 表 者: 橋本 幸久

○ 連 絡 先: 事務局 笹木 延吉 TEL:042-642-0422

○ 活 動 日: 毎月第二日曜日、第四木曜日(9:00～15:00)

○ 活動実績

実施日	活動内容	場所	参加人数
2016. 4. 10	階段工、ホダ木の駒うち	南平丘陵公園	22
4. 28	四つ目垣	南平丘陵公園	6
5. 8	総会、雑草取り	南平丘陵公園	28
5. 26	落ち葉だめくい打ち、下草刈り	南平丘陵公園隣	12
6. 12	下草刈り、粗朶柵工	南平丘陵公園隣	22
6. 23	雨のため作業休み		
7. 10	愛宕山応援ボランティア	愛宕山	11
7. 28	瓢箪池の草刈り	南平丘陵公園	13
8. 4	日野自工高校ボランティア指導	南平丘陵公園	110
9. 11	つつじの撤去	南平丘陵公園	17
9. 17	学習会「虫や風を利用する花たち」	ウイング	30
9. 22	雨のため作業休み		
10. 9	植物勉強会	南平丘陵公園	15
10. 22	「里山づくり」倉本明大教授	日野市役所	30
10. 27	樹木剪定	南平丘陵公園	12
11. 13	愛宕山応援ボランティア	南平丘陵公園	18
11. 26	雨のため作業休み		
12. 11	雑木伐採、粗朶柵工	南平丘陵公園	17
2017. 1. 8	萌芽更新、ホダ木づくり	南平丘陵公園	16
1. 26	萌芽更新作業	南平丘陵公園	11
2. 12	萌芽更新、粗朶柵工	南平丘陵公園	19
2. 23	雨のため作業休み		
3. 12	萌芽更新、フェノロジー調査	南平丘陵公園	17
3. 23	コナラの枝打ち、椎茸菌打ち	南平丘陵公園	11

⑫ 農の学校

○ 活動目的

農業者の高齢化など担い手不足を補うため、「農の学校」を開設し、農業知識と技術を習得してもらい、援農ができるよう援農ボランティアを育成し農業者を支援していく。

○ 人 数：19人 ※2017年1月より「農の学校」13期生開校

○ 代 表 者：農の学校 校長 日野市長

○ 活動場所：日野市立七ツ塚ファーマーズセンター（日野市新町5-20-1）

○ 連 絡 先：日野市役所都市農業振興課農産係 電話：042-514-8447

○ 情報提供方法

・2004年度開校(2005年1月より)

※第3次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・後期アクションプラン、第5次日野市基本構想・基本計画に基づく。

○ 活動実績

・講座による知識の習得(月1回)

農業基礎講座テキスト(野菜の栽培)、農薬の使い方

・圃場(畑)での実習により技術の習得(月2回～5回)

土づくり、鍬・草かき等の道具の使い方、種まき、除草、間引き、収穫など

※作物(ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、スイカ、カボチャ、サトイモ、ヤツガシラ、大豆、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、コマツナ、長ネギ)

○ 参加者募集方法

・11月15日、12月1日の広報及びホームページ等で募集

※ひのよさこい祭り、産業まつり農業展でPR活動

⑬ 八王子・日野カワセミ会

○ 活動の目的

日野市内及び八王子市内で野鳥を観察する市民団体です。浅川や多摩川で野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと、及びそのために野鳥が安心して棲める環境を作ること協力することを目的としています。

○ 活動の内容と取り組み状況

・月1回会員及び一般市民を対象に浅川や多摩川で探鳥会を実施

・20ヶ所の地域で毎月1回、野鳥の生息数をカウント調査

20ヶ所のうち、日野市内では以下の4ヶ所を実施

浅川(長沼橋～一番橋)、浅川(一番橋～多摩川合流付近)

多摩川(谷地川合流付近)、多摩川(浅川合流付近)

・8ヶ所の東京都指定保全緑地地域での野鳥の生息数をカウント調査

8ヶ所のうち、日野市内では、東豊田地区で実施

・その他、冬鳥・夏鳥の一斉調査、カルガモ・ツバメ・イワツバメ営巣調査、サシバの渡りなどの調査

・小中学生に対する野鳥観察支援、他団体からの野鳥観察依頼に対し野鳥観察の支援

・日本各地の野鳥観察地に出向き、地元の関係者との交流を通じた野鳥観察

○ 設 立 年：1985年設立

○ 会 員 数：229人、会員は随時募集(年会費1000円)

○ 連 絡 先：粕谷 和夫（八王子・日野カワセミ会会長）TEL：090-6125-5769

E-mail：kasuya.kazuo688@gmail.com

○ 情報提供方法：活動の結果の公表

年2回(3月と9月)会報「かわせみ」を発行、日野市内の図書館に寄贈

ホームページで広報 <http://kawasemi.fan-site.net/>

4. 環境への取組状況

⑭ 東豊田緑湧会

○ 活動目的・活動内容等

東豊田緑地保全地域の自然環境を荒廃させないため、定期的に手入れを行い、身近な自然を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して 20 年になる。企業の社会貢献活動(グリーンシップアクション)も積極的に受け入れ、2005 年度の「水と緑の日野・市民ネットワーク」の設立にも関わり、市の緑環境行政にも精力的に協力している。

○ 主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打、萌芽更新地管理、実生の移植
- ・特殊植物保護、清掃活動
- ・湧水群・流水路の保全・保護
- ・企業や学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市との保全計画の協働策定

○ 人 数:21人

○ 活動場所：東豊田緑地保全地域（黒川清流公園、多摩平第1緑地、多摩平第6公園を含む）

○ 連絡先：小太刀 智明（E-mail：tweety-satopi@u01.gate01.com）

○ 情報提供の方法：東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・広報・チラシなど

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数 (延人数)
2016. 4. 2、16	特殊植物保護活動	希少植物の株数記録、生育補助の為に除草 盗掘防止のための花摘み	21
2016. 5. 7、14、21、 7. 2、16 9. 3、17 10. 1、15 11. 19 12. 3 2017. 2. 4	下草刈り・笹刈り	萌芽更新地の下草や笹を刈り、雑木の再生を助 長し健康な樹木を育てる	109
2016. 6. 4、18	外来種除去 動	オオブタクサやキショウブなどの外来種を除 去する作業。	1
8. 6、20	湧水の保全・保護	流水路の除草と落葉採り 湧水口の整備	15
10. 29 11. 20	グリーンシップ アクション	企業の社会貢献活動に対応し、保全活動の 体験作業を開催。 2社2日間	81
11. 5	草地管理	草地の環境を維持する為の選択除草 外来種・先駆的植物の調整及び除去	9
12. 17	大規模清掃活動	保全地域全域の不法投棄物回収と巡視 小規模な清掃活動は随時実施	10
2017. 1. 7 3. 4、3. 18	倒木処理・剪定	風倒木や枯損木の処理と既存樹の剪定。形 整備の目。	27
2017. 1. 21	除伐	常緑照葉樹類の除去・込み合い樹木の間引 不法に植栽された園芸種の除去	7

⑮ 日野産大豆プロジェクト

○ 活動目的

「地元で採れた大豆を学校給食で子供たちに食べてほしい」と日野市内の小・中学校の栄養士、調理員、農業者、大学生、市民ボランティアなどが協力して立ち上げたプロジェクトで、2016年度で13年目となりました。収穫された大豆は、市内の全小中学校の学校給食で活用されます。また、大豆の種は小学校の学童農園用の種にも提供され、収穫した大豆は豆腐づくりや味噌づくり等の食農教育に活かされます。なお、11月の日野市産業まつり等で、日野産大豆プロジェクト活動を市民に広くPRしています。

○ 人 数: 約70人

○ 活動場所: 東光寺地区

○ 連絡先: 事務局: 日野市役所 都市農業振興課 農産係 TEL:042-514-8447

○ 代表者: 小林 和男

○ 参加募集方法等: 市HP、チラシ等

○ 活動実績: 種まき、除草作業 4 回、収穫、脱穀、選別、遺伝子組み換え大豆講演会、豆腐作り体験

⑯ ひの市民リサイクルショップ回転市場

○ 活動目的・活動内容

日野市の支援のもと1992年創立。市民から無償で提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して、「使い捨てのくらしを見直し、①物を大切に使うくらし ②ごみになる物を買わないくらし ③ごみを出さないくらし」に変えていく呼び掛けをし、それに役立つ情報の発信と実践活動をしています。また、安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売もしています。売上金は店の運営や市民還元イベントなどに活用しています。また、開店当初から買い物袋持参でレジ袋辞退を呼びかけています。

○ 人 数: 17 人

○ 活動場所: 万願寺店 多摩平店 日野市生活・保健センター

○ 連絡先: 万願寺店 (TEL:042-587-1787)・地域協働課 (TEL:042-581-4112)

○ 代表者: 吉田 克美

○ 情報提供・会員募集・イベント参加募集: 店頭・広報ひの・ポスター・チラシ

○ 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2017. 4. 8	市民還元イベント 市民から無償で提供された中古衣類などの販売による収益金で、ご協力いただいた皆さまに感謝をこめて食糧廃棄の真実を知るドキュメンタリー映画「もったいない!」の上映会を実施(無料招待)	86

他に「会員学習会」「着物特別販売」「出張キャンペーン」を開催。「まちづくり市民フェア」「日野市レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」「くらしの輪連絡会」に参加。

4. 環境への取組状況

⑰ 日野団塊世代広場

○ 活動目的・活動内容

「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。新選組まつり等のイベントのお手伝いやパソコン、太極拳などの教室も開催しています。

活動の一環として2009年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。11人で雑木林チームを編成しており、8人は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行なっています。

- ・植物の貴重種の確認など現況の調査及び観察会の実施
- ・竹ぼっくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する。
- ・作業後放置していた竹・笹に生ごみ発酵促進剤を使って早期腐葉土化の試み、市民無償配布時に『生ごみを燃えるごみとして出さない』よう呼びかける。
- ・どんぐりクラフトづくりをイベントにて子供たちに実施、工作の楽しさを教える。
- ・産業まつりや市民活動フェアに出展し、日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売

○ 人数:24人 百草山活動者 延べ145人/2016年度

○ 活動場所:京王百草園駅から徒歩5分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の緑地

○ 活動日:第2日曜日、第4土曜日9時～15時

○ 連絡先:日野団塊世代広場事務所(日野市平山台健康・市民支援センター内)

TEL:042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com

○ 情報提供・参加募集方法等:ホームページ <http://www.dsedai.com/>

“日野団塊世代広場”で検索

⑱ ひのどんぐりクラブ(日野市環境学習サポートクラブ)

○ 活動目的・活動内容

ひのどんぐりクラブの主な活動は、市内小・中学校の生活科、総合学習、理科など児童・生徒たちの野外での体験学習の付き添いや指導、自然物(木の実や葉っぱ)を使った工作などの学習支援です。

2016年度の学校などへの支援数は82回、支援対象人数は延べ7,379人でした。

○ 人数:17人

○ 代表者:有馬 佳代子

○ 活動場所:日野市内小・中学校、市内公園・緑地・浅川・多摩川、カワセミハウスなど

○ 連絡先:日野市立カワセミハウス内 杉浦 TEL:042-581-1164 FAX:042-581-1164

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

年・月	回数	支援した学校名・団体名	生徒数	大人数
2016.4	1	南平小3年	93	0
5	5	潤徳小4年、四小1年、七小2年、浅川潤徳水辺の楽校、南平児童館	629	80
6	8	小教研（生活科）、四小3年、潤徳小2年、仲田小4年、仲田小4年、南平小2年、仲田小4年、南平小3年	586	20
7	9	四小1年、四小2年、三小4年（3回）、五小1、2年合同（2回）、小教研（生活科）、日野高校一般参加	763	58
8	1	日野高校一般参加	40	30
9	9	南平小1、3合同、平山小3年（2回）、三小6年、七小2年担任先生、仲田小3年、夢が丘小1年、七小2年、浅川潤徳水辺の楽校	676	16
10	18	四小1年（2回）、三小1年、南平小1年、仲田小3年、四小3年（2回）、六小1年、多摩平児童館、潤徳小3年、潤徳小1年、一小4年、三小4年、南平小3年、五小1年（2回）、東光寺小2年、八小1年	1731	0
11	16	南平小5・6年合同、五小1年（2回）、四小3年、東光寺小2年、南平小1年、七小2年、三小1年、潤徳小1年、六小1年、七小2年、平山小2年、四小2年、八小2年、三小2年、三小4年	1472	0
12	7	東光寺小2年、南平小1年、南平小5・6年合同、平山小2年、六小2年、南平小4年、八王子ケアコミュニティそよ風	433	23
2017.1	5	南平小1年、七小2年（2回）、三小1年、豊田小1年	489	0
2	3	南平小1年、八小2年、南平小クラブ	240	0
3	0	なし	0	0
計	82回	延べ人数	7152	227

⑨日野の自然を守る会

○ 活動目的・活動内容

本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。（会則第三条 目的）

活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行、その他本会の目的達成に必要な事業を行う。（会則第四条 事業）

○ 会 員 数：189人（2016年度末）

○ 代 表 者：山本 浩

○ 活動場所：日野市を中心として首都圏・関東一円

○ 連 絡 先：事務局 〒191-0052 日野市東豊田3-15-12（片岡方） TEL:042-582-0696 FAX:042-582-0698

○ 情報提供：会誌 日野の自然（月刊）、会ホームページ <http://hinonosizen.sakura.ne.jp/>

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

実施日	行事名	参加人数	備考
2016. 4. 12	植物ウォッチング「小野路の春」	21	
4. 17	中央線沿線ウォッチング「上野原駅・不老山」		雨天中止
5. 05	より鳥みどり観察会「南平丘陵公園～七生公園」	34	
5. 08	楽しい昆虫ウォッチング「春の蝶・ウスバシロチョウ」	19	
5. 21	植物ウォッチング「初夏の横沢入りを歩く」	18	
5. 29	中央線沿線ウォッチング「藤野駅・醍醐丸」	21	
6. 05	中央線沿線ウォッチング「西国分寺駅・八国山緑地」		雨天中止
6. 18	植物ウォッチング「宮嶽谷戸と堀之内寺沢里山公園」	27	
6. 19	より鳥みどり観察会「ツバメと浅川の夏鳥たち」	42	
6. 26	楽しい昆虫ウォッチング「雑木林の蝶・ミドリシジミと初夏の昆虫」	15	
7. 21	植物ウォッチング「ヤマユリ咲く小峰公園から広徳寺」		雨天中止
7. 24	楽しい昆虫ウォッチング「夏の夜の林の昆虫たち」	41	
7. 31	楽しい昆虫ウォッチング「空飛ぶ宝石タマムシと河原の昆虫たち」	14	
8. 03	親子観察会「川の生き物を探そう」	17	
8. 28	中央線沿線ウォッチング「西国分寺駅・三宝寺池公園」	14	
9. 11	楽しい昆虫ウォッチング「秋の夜長にマツムシ、スズムシ、カンタンの音を聴く」	6	
9. 16	植物ウォッチング「タマアジサイ・タニタデ咲く高尾山蛇滝」	14	
9. 18～19	宿泊観察会「八ヶ岳高原の自然」	18	
9. 22	観察会「大木島公園に咲くヒガンバナを観てマルバアオイでハンカチ染」		雨天中止
10. 02	より鳥みどり観察会「城山鳥見ハイク&日影沢の秋の花」	25	
10. 23	中央線沿線ウォッチング「藤野駅・岩戸山」	28	
11. 06	地球の窓シリーズ「160万年前の日野の歴史を学ぶ」	11	
11. 19	植物ウォッチング「秋の雑木林・程久保から南平へ」		雨天中止
11. 20	より鳥みどり観察会「秋の浅川の身近な野鳥たち」	24	
11. 27	中央線沿線ウォッチング「都留市駅・烽火山と城山」		雨天中止
12. 04	より鳥みどり観察会「よくばりバードウォーキング」	24	
12. 06	植物ウォッチング「冬を迎える小野路」	18	
12. 25	中央線沿線ウォッチング「高尾駅・高尾山」	19	
2017. 1. 15	より鳥みどり観察会「黒川公園ニューイヤーカウント」	35	
1. 22	植物ウォッチング49「冬の雑木林・程久保から南平へ」	15	
1. 29	中央線沿線ウォッチング「都留市駅・燈火山と城山」	14	
2. 19	より鳥みどり観察会「多摩丘陵の冬の野鳥と生き物たちの冬越し」	46	
2. 26	中央線沿線ウォッチング「谷村町駅・楽山」	15	
3. 19	より鳥みどり観察会「多摩川・浅川合流点付近 渡り前の冬鳥達と河原の春」	39	
3. 20	中央線沿線ウォッチング「立川駅・稲城浅間山と小沢城址」	17	
3. 26	植物ウォッチング「早春の植物たち・南平丘陵公園」		雨天中止
参加者小計		651	
特別行事			
2016. 4. 29	第45回定期総会	22	
2017. 1. 7	新春自然へのお誘い	31	
参加者小計		53	
参加行事			
2016. 4. 17	多摩川・浅川クリーン作戦	3	
毎月2回	大木島自然公園の手入れ	209	
総合計		558	

②日野の水車活用プロジェクト

○ 活動目的・活動内容

プロジェクトの活動目的は水車が回る環境を活用して市民が共通の話題で集うコミュニティの場として、また水車による精米と用水の関係を研究、子供たちの環境学習に日野の歴史と用水の大切さを学ぶ場としての出前授業等、そして近き将来は再生可能エネルギーの一つである小水力発電(マイクロ発電)の可能性を追求する事です。

○ 人 数 :40人

○ 活動場所:水車小屋、市内会議室、市外

○ 情報提供:会報、E-mail:michiyo6969@jcom.zaq.ne.jp、リーフレット等

代 表 者:多田 啓介 TEL:042-594-3739

事 務 局:佐藤 美千代 TEL:042-594-0745

○ 活動実績

実施日	テーマ	内 容	参加人数
2016. 4. 3	かわせみ館フェアに出展参加	プロジェクトのPRの為にパネル3枚と発電用機器、粃すり臼を展示、パンフレットも置いた。	4
4. 24	みずとくらす・ひのと共催のまち歩きと水車のイベント	みずとくらす・ひのとの共催で多摩ブランド国際推進会のメンバーも参加、紙芝居・粃すり・石臼による米粉ひき・精米の体験をし発電の実験を展示、後にまちあるき(向島用水沿いとせせらぎ農園の見学)をする。	55
4. 26	まち歩きの支援	多摩ブランドインターナショナル主催のまち歩きの支援をする	3
5. 1	川崎市立日本民家園見学	精米道具購入検討資料にするための見学	4
6. 11	小水力発電検討会メンバーと打ち合わせと懇親会を主催	小水力発電の可能性についての自由討論と協力体制の推進を協議、親睦会を行う	12
6. 26	多摩ブランドインターナショナル主催まち歩きに協力	主に外国人に対して向島親水路と用水沿いのまち歩き	15
7. 9	こだいらふるさと村と用水の見学	小平ふるさと村の民家園の展示と指定管理者の説明を聞く。地元「うどん会」の手打ちうどんを食べる。「こだいら水と緑の会」の案内で小川用水・新堀用水・玉川用水を見学	13
9. 6	イモ洗い水車の実演	せせらぎ農園を流れる用水でイモ洗い水車の実演。用水の水が少なくイモを水車に入れると回らず、子供たちの手を借りてまわし洗う事が出来た。また、水の堰止めにより用水の上流で水漏れが多く、また絶対的に水量が少なく水位が上がらず水車を廻すには落差が取れずイモを入れての回転には力不足であった。	33
9. 30	大田区森が崎水再生センターの見学	小水力発電を見学する為にセンターを見学、汚水処理後のバイオマス発電、汚水処理後の水による発電機を見学	8
10. 8	日野市環境情報センターと共催でまち歩き	日野市環境情報センターと共催でまち歩きを開催、多摩ブランドインターナショナルも参加	19
10. 11	イモ洗い水車の実演	せせらぎ農園を流れる用水でイモ洗い水車の実演。明星大・中央大学生も参加して行う。	9
10. 15	国立ボランティアセンター主催まち歩きに協力	国立市のボランティアセンター主催のまちあるきに協力し、水車小屋の見学と紙芝居紹介	30
11. 16	潤徳小学校の授業支援	水辺の楽校と共催 紙芝居・水車の構造説明・精米後の粉ふり体験・発電の体験	132
12. 1	イモ洗い水車の実演	せせらぎ農園を流れる用水でイモ洗い水車の実演。落花生を洗って好評。	20
12. 3	スタッフの為に研修まち歩き	環境情報センター職員による向島用水と水車について建設のコンセプトや経過と現状の説明	14
12. 14	第五幼稚園の向島用水まち歩き協力	日野市立第五幼稚園の向島用水まち歩きで、水車小屋で紙芝居実施。	50
2017. 2. 4	水車小屋内の展示	水車小屋内壁面に棚を設置し精米作業に必要な道具を展示する。	5
3. 25	精米体験・発電実験	一般市民に公開する。同時に水車小屋内の展示を披露する。	60

4. 環境への取組状況

㊦日野みどりの推進委員会

○ 活動目的・活動内容

東京都が緑地保全活動の目的で1974年に「緑の監視員」制度を設立し、後に「みどりの推進委員」に名称変更して2003年度まで存続しましたが、都の組織改革に伴い廃止になりました。その後、日野地区会はボランティア団体として名称を「日野みどりの推進委員会」に変更して活動を続けてきました。南平丘陵公園を中心とした自然観察会を毎月実施し、観察会を通して「緑地の保護・保全の必要性」を参加者にアピールし、「保全作業へのボランティア参加・協力」を呼びかけています。

- ・ 自然観察会：毎月（原則第4土曜（8月を除く））市と共催して実施。観察会を通して緑地保全がいかに関心を持って市民に紹介している。
- ・ その他：市の行事等への協力

○ 人数：13人

○ 活動場所：南平丘陵公園ほか市内及び近隣市外緑地

代 表 者：会 長 杉浦 忠機

連 絡 先：事務局 緑と清流課 TEL：042-585-1111

○ 参加応募方法

毎月の自然観察会への参加応募は市の広報紙「広報ひの」で毎月案内します。マスコミにも連絡して広く案内されるよう努力しています。

○ 活動実績（定例観察会）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 23	程久保の緑地の草花や都立七生丘陵公園の植物の観察	都立七生丘陵公園及びその付近の緑地で観察	33
5. 30	初夏の雑木林の観察	都立平山城址公園内に咲く花や新芽が吹き出した木々を観察	31
6. 25	多摩川の草花の観察	万願寺駅から多摩川下流に向かって散策して草花を観察	13
7. 20	夜の雑木林で昆虫の観察	南平丘陵公園で子供対象の観察会	34
9. 17	キノコの観察	南平丘陵公園内の樹木を見ながらキノコを観察	17
10. 22	秋の雑木林の木々を観察	都立七生丘陵公園で秋の木々の観察	24
11. 26	冬の雑木林の木々の観察	都立長沼公園内で冬の雑木林の様子を観察	18
12. 17	木の実やツルでお正月やクリスマスに使えるリースを作ろう	百草の石坂ファーム内でしめ縄を編んだり、ツルで作成したリースに自然の物を利用して飾り付けを体験	18
2017. 1. 28	冬の雑木林を観察	高幡不動尊からかたらいの路を通り南平丘陵公園内まで雑木林を観察	17
2. 25	雑木林で樹木の冬芽の観察	高幡不動境内の草花や高幡山の木々の観察	24
3. 25	春に咲く草花の観察	宝泉寺のカタクリ他、東光寺緑地の草花等観察	24
		参加者数合計	253

㉒ ひの緑のトラスト

○ 活動目的・活動内容

日野市の百草地区には、地元の方々の努力などで、市内で唯一、貴重な里山の景観が残されています。日野市ではこの地区に相続があった場合、雑木林相続面積の1/2 を寄付、残りの1/2は国に物納し、何年か後に市が買収するという方法を相続人のご好意で実施し、多くの雑木林を保存してきました。

しかしながら、市は財政危機に直面し、何年か前に物納された百草の真堂が谷戸の雑木林(3,509㎡)を国から買い取ることを中止しました。

この土地は、クヌギ、コナラなどの雑木林で、湧水が流れ、日野市ではわずかに残るホタルが生息しており、エビネの群落などの貴重植物も自生しています。また、歴史的遺物も多く出土している貴重な場所です。

この貴重な雑木林を公有化して保全を進めることを強く願う緑関連の市民団体が協議し、2009年12月に「ひの緑のトラスト」を設立しました。取得資金の一助となるよう「募金」へのご協力を市民の皆さまに呼びかけてきました。

この活動等が市を動かし、2016年度には真堂が谷戸の雑木林を公有地化することが決定しましたが、今後も市内の緑地保全のための活動を続けていきます。

○ 構成団体

倉沢里山を愛する会、真堂が谷戸蜚の会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野市環境基本計画推進会議 みどりグループ、日野の自然を守る会、百草山の自然と文化財を愛する会、緑地管理ボランティアの会、市民環境大学OB会、谷仲山緑地を守る会

○ 代 表 者:会長 笹木延吉

連 絡 先:ひの緑のトラスト事務局 日野市立カワセミハウス TEL:042-581-1164

○ 情報提供・参加募集方法:広報ひの、緑のトラストパンフレット

カワセミハウスホームページ:<http://kankyo-hino.com/>

㉓ ひの・まちの生ごみを考える会

○ 活動目的・活動内容等

当会は、家庭の生ごみを可燃として出さずに資源として循環させるしくみを作りたいとの思いから、2002年に発足しました。発足以来、ごみゼロプランに基づき、ごみゼロ推進課と協働で生ごみリサイクルの拡大に取り組んでいます。その中で、下記の「まちの生ごみ活かし隊」「生ごみリサイクルサポーター連絡会」などを立ち上げてきました。

当会は、毎月1回定例会を開き、毎回ごみゼロ推進課の職員も出席して、当会としての活動についての協議や各団体の活動についての情報共有や協議を行っており、協議体の役割も果たしています。

<当会としての活動>

「まちづくり市民フェア」「かわせみ館フェア」等のイベントへの参加、各種講座の実施、講演会の開催、日野市のごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」の編集、玄関ドアなどに掲示してもらう「生ごみリサイクルステッカー」の配布などを通じて、市民への啓発を行っています。

<まちの生ごみ活かし隊の活動> (詳細は次項参照)

2006年に発足。2008年10月に新井にコミュニティガーデンとして「せせらぎ農園」を開設し、約200世帯から回収した生ごみを畑に直接すき込み、土ごと発酵させて、野菜や草花を栽培しています。

<生ごみリサイクルサポーター連絡会の活動>

2009年3月に発足。2011年9月から生ごみを手軽に堆肥化できる「ダンボールコンポスト」(基

4. 環境への取組状況

材は竹パウダー)の販売を開始しました。

普及啓発のために、講習会に力を入れており、2016年度は講習会を18回開催しました。また、回転市場やイベントなどでの展示・説明も行っています。発売から2016年度末までの累計で1,235個販売しました。さらに、購入者に対するアフターフォローとして、『生ごみ菌ちゃん通信』(隔月)を発行しています。

○ 人 数：11人＋日野市ごみゼロ推進課職員

○ 活動場所

ひの市民活動支援センター(多摩モノレール甲州街道駅より徒歩3分)

○ 連絡先

代表者：佐藤 美千代 TEL:042-594-0745

ごみゼロ推進課(TEL:042-581-0444)も可

参加募集：常時募集。問い合わせは、ごみゼロ推進課(電話042-581-0444)も可。

○ 情報提供方法

ごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」、『生ごみ菌ちゃん通信』、イベントでの展示・説明、日野市のホームページ。

○ 活動実績

「まちの生ごみ活かし隊」と「生ごみリサイクルサポーター連絡会」の活動を除いた、当会としての活動のみ掲載。

実施日	テーマ	目的・内容	参加人数
毎月第4金曜日	定例会議	活動報告と活動計画の検討	毎回10人前後
2016. 4. 3～4. 6	かわせみ館フェア参加	ダンボールコンポストの展示	—
7. 2	万願寺交流センターまつり参加	ダンボールコンポストの展示・説明	30
9. 23	あしたや・すずかけの家・比留間運送見学	ダンボールコンポスト製作現場と生ごみ&廃棄物処理施設の見学	18
10. 16	まちづくり市民フェア参加	ダンボールコンポストの展示・説明	100
11. 23	ファーマーズフェスタ参加	ダンボールコンポストの展示・説明	100
2017. 1. 28	食品ロスゼロの冷蔵庫の作り方講演会(講師：大野多恵子さん)	食品ロスをなくすための冷蔵庫の使い方の紹介	50
3. 26	シルバー人材センター掘り出し市参加	ダンボールコンポストの展示・説明	20

②④ まちの生ごみ活かし隊

○ 活動目的・活動内容

日野第八小学校区約200世帯の生ごみを回収してコミュニティガーデン「せせらぎ農園」で堆肥化し、野菜や花を育てることで年間約30トン以上の生ごみを減量しています。農体験を通じた食育や環境教育も行なっており、年間延べ5000人が訪れる生ごみリサイクル情報発信の場となっています。2015年度より田んぼの復活。2016年度は新たな取り組みとして①中央大学生のバスツアー受け入れ、②C-Plant(子ども食堂を企画する大学生の団体)への協力、③第1回

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

東京イナゴンピック開催、を行いました。幼稚園などにも出張して生ごみを使用した菌ちゃん野菜作りをサポートし、畑とお腹(腸)の微生物の働きを関連づけた食育活動を推進しています。

○ 人 数:農園登録メンバー:162 人・生ごみ回収参加者会員:171 世帯

○ 活動場所:「せせらぎ農園」 連絡先:佐藤 美千代 (TEL:042-594-0745)

○ 情報提供方法:ホームページ <http://ikasitai/info/>

ブログ <http://ikasitai.at.webry.info/>

○ 活動実績

	定例作業		来訪者	せせらぎ農園で行った主なイベント	農園以外でのイベント
	活動日	参加者			
4 月	15	137	122	・ 第五幼稚園とジャガイモ草取り ・ 田起こし・野立て	・ 向島用水まちあるき
5 月	24	243	517	・ みさわ児童館幼児親子・みさわ保育園・第五幼稚園とジャガイモ草取り、サツマイモ植え付け ・ 天ぷらパーティ・田んぼ荒代掻き ・ 中大生バスツアー	
6 月	18	214	203	・ タマネギ収穫 ・みさわ児童館幼児親子・みさわ保育園・第五幼稚園とじゃがいも収穫祭 ・ 田んぼアゼ塗り仕上げ・田植え ・ 中大生バスツアー	・ 落川市民マルシェ
7 月	16	184	122	・ みさわ児童館とサツマイモ草取り ・ みさわ保育園児と草取り・田んぼ草取り ・ 七生中学校職場体験	・ 万願寺交流センター こどもまつりで野菜販売 ・ 落川炊き出しマルシェ
8 月	17	227	40	・ パスタランチ	・ 落川そうめん流し
9 月	18	179	139	・ グリーンカレーランチ ・ 第五幼稚園大根種まき ・ みさわ児童館幼児親子と草取り ・ みさわ保育園と草取り他	・ 落川炊き出しマルシェ
10 月	19	184	481	・ 第 1 回東京イナゴンピック開催 ・ みさわ児童館・保育園と共催でサツマイモ収穫祭 ・明星大学生実習 ・ カレーランチ	・ 日野市民フェア
11 月	17	194	419	・ 南新井自治会と里いも収穫祭 ・ 五幼大根収穫 たくあん作り ・ みさわ保育園と宝物探し	・ 落川ごみゼロ収穫祭 ・ 大学生ボランティア交流会
12 月	13	184	107	・ みさわ保育園と東大生と落川地区で冬見学 ・ 望年会・水車 P まちあるき	・ 中央大学プレゼン ・ 落川炊き出しマルシェ
1 月	8	147	129	・ 七草がゆづくり ・東大生見学 ・ みさわ保育園児と宝探し	・ 落川交流センター餅つき 石臼できな粉作り
2 月	10	146	185	・ たこ焼きパーティー ・日野用水開削 450 周年記念まちあるき	・ 第七幼稚園耕耘 ・ 落川炊き出しマルシェ
3 月	13	184	115	・ みさわ保育園、第五幼稚園じゃがいも植え付け ・燻製づくり	・ 第七幼稚園土づくり ・ 落川炊き出しマルシェ
合計	188 日	2223	2579		
総計		4802			

4. 環境への取組状況

㊼ふだん着でCO₂をへらそう事業

○ 活動目的

ふだん着でCO₂をへらそう事業は、二酸化炭素(CO₂)を削減し、次世代へふるさとひのを引き継ぐと、市民、関係団体、企業、市による「ふだん着でCO₂をへらそう実行委員会」を立ち上げ、平成20年度から全国に先駆けて開始した。

市民や事業所の方々に、ふだんの生活の中で無理なくできる省エネ活動に取り組むことを啓発することで、省エネ行動を全市的な取り組みとし、日野市から排出されるCO₂を削減する事を目的とし、また、省エネ行動に向け、市民や事業所の方々に省エネ行動を宣言するという形で意思表示をしていただいている。

本事業開始時(2008年度)の宣言目標数は一般世帯35,000世帯、事業所2,500事業所であったが、これまでに目標数を大きく超える41,873世帯、2,557事業所からの宣言が集まっている。(2017年3月末現在)今後も引き続き普及啓発を行うことで、省エネ行動の定着を図っていく。

○2016年度の主な活動内容

・事業のPR活動

市内及び各地で開催されたイベント等に参加し、日野市・ふだん着事業及びキャラクターのPRを行った。

・子ども関連施設での環境学習(小学校6校、幼稚園・保育園26園)

・自治会等地域への環境普及啓発(省エネセミナー)

・日野市環境フェアの開催(省エネ取組発表会、省エネ啓発ショー、生き物や自然についてのお話、食品ロスの啓発等)

・日野市環境かるた事業

地球温暖化を防止するため、私たちの暮らし方を見直し、地球温暖化の原因とされているCO₂の排出量を少しでも抑えるために、市内の多くの小学生から環境かるたの標語を募集し、平成27年度に環境かるたを作成した。この環境かるたを用いて環境かるた大会(ペア戦)を開催した。

・キャラクターを用いた物品の販売事業

エコクマ・エコアラのキャラクターを用いた物品を販売し、地球温暖化対策に向けた省エネ行動を広くPRした。(日野市環境保全課にて販売中)



日野市エコキャラクター
エコアラ・エコクマ

㊽程久保川を考える会

○ 活動目的・活動内容

水源から浅川との合流まで日野市内で終結する程久保川を身近な川として親しんでほしく、まず汚れていた川を何とかしたいということで始めました。どれだけ汚れているかを知る為の水質検査、そしてごみ拾いを行なっています。

○ 人 数:8 人

○ 活動場所:程久保川

○ 連 絡 先:日野市三沢 850-4-201「程久保川を考える会」藤村

○ 情報提供方法:クリーンデーは日野市の広報に出しています。

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
5月・10月	クリーンデー	年2回ですが、川の中に下りてのごみ拾いです。	ボランティア 40~60
毎月(第2か第3) 水曜日	水質検査	どれだけ汚れているか、人が入って大丈夫かが気になり、5ヶ所を検査。	会員 4

㉑ みずとくらす・ひの

○ 活動目的・活動内容

2013年度にスタートした「水辺のある風景日野50選プロジェクト」は、市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所メンバーによるワーキンググループにより水辺の選定などを行いました。2014年度は市内小、中学校や選定された場所の所有者や関係者への選定書の配布などを行いました。2015年度は選定された水辺への標識設置プロジェクトを行なっています。2015年にワーキンググループは市民団体「みずとくらす・ひの」として再スタートし、行政などと連携しながら水辺を後世に残すための活動を行なっています。

○ 人数:25人

○ 活動場所:主に日野市内

○ 代表者:井上 博司

○ 連絡先:090-8024-7933(井上)

○ 情報提供:web Facebook -水辺のある風景 日野50選-

○活動実績

〈滝合小学校(6年生全員)水辺のオブジェづくり〉

- ・製作期間:2016年10月から2017年4月
- ・設置箇所: N0. 28さいかち堰上流沼・川北用水、N0. 29上村用水、N0. 37学校農園・ビオトープ
- ・作成方法: 陶板に半立体状の絵を彫り込み、全作品を合わせた集合作品のオブジェを各地点に設置

〈第一中学校(3年生全員)水辺のオブジェづくり〉

- ・製作期間:2016年6月から製作中
- ・設置箇所: N0. 8仲田の森蚕糸公園(2ヵ所)
- ・作成方法: 陶板に半立体状の絵を彫り込み、全作品を合わせた集合作品のオブジェを各地点に設置(予定)

〈標識のみを設置〉

- ・製作期間:2017年1月から2017年5月
 - ・設置箇所: 下記16ヵ所
- N0. 9 谷仲山・東光寺第一緑地 一崖線からの湧水、N0. 10日野用水上堰開渠、N0. 13豊田用水取水口-豊田用水の源、N0. 15ハケ(崖)下の別荘、N0. 21東豊田の田んぼと水路のある風景、N0. 22黒川清流公園、N0. 24新井用水親水路、N0. 31大福寺下公園-桜並木の親水路、N0. 32平山用水ふれあい水辺、N0. 35南平駅南・児童館付近用水-市民による水辺創造、N0. 39用水の分水・立体交差、N040ふれあい橋-向島用水取水堰、N0. 41向島用水親水路、N0. 42新井の田んぼと水路のある風景、N0. 45程久保川遊歩道とワンド、N0. 46落川公園-水に囲まれた公園

㉒水と緑の日野・市民ネットワーク

○ 活動目的・活動内容

緑や水の保全・育成等を行っている市民団体等が情報を共有し、「団体相互が緩やかに有機的に連携・協力することにより、日野市の水と緑を守り、育て、次世代へ引き継いでいく」ことを目的として、様々な実践活動を推進していく協力体です。環境保全に携わる人材育成事業として雑木林ボランティア講座を2005年度から、地球環境を正しく知ることを通して、地球規模の環境をみんなで考えていく「市民環境大学」を2009年度から開講しました。

○ 参加団体:11団体

○ 活動場所:日野市内

○ 代表者:会長 飯島 利三

○ 連絡先:事務局 日野市緑と清流課 TEL: 042-514-8307

日野市立 カワセミハウス TEL:042-581-1164

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

雑木林ボランティア講座

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 5. 21	講座 1 開講式・講義	日野の自然環境 講師:杉浦忠機氏(日野の自然を守る会) 講師:原 正明氏(元緑と清流課長)	31
6. 18	講座 2. 視察	市内の緑地めぐり	31
7. 16	講座 3. 実習	正しい道具の使い方(鎌、のこぎり他)	28
9. 17	講座 4. 講義・観察	雑木林の植物 講師:田中肇氏(フラワーエコロジスト) 南平丘陵公園内の植物観察	21
10. 22	講座 5. 講義・観察	里山づくり 講師:倉本宣氏(明治大学農学部教授 市役所周辺の木々や草花の観察	20
11. 12	講座 6. 視察・実習	町田市内七国山緑地保全地域見学と下草刈り実習	20
12. 17	講座 7. 実習	刈払い機の実習、落ち葉かき、腐葉土づくり 講師:飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネットワーク)	22
2017. 1. 21	講座 8. 講義・実習	チェーンソーの安全管理、使い方実習	20
2. 18	講座 9. 実習	萌芽更新作業・粗朶柵処理の実習	25
3. 18	講座 10 実習・修了式	椎茸のほだ木作り実習・修了証授与	25

市民環境大学

実施日	回数	目的・対象・内容	参加人数
2016. 5. 12	前期①	地球環境問題の概要	21
5. 19	前期②	炭素・窒素の循環	19
5. 26	前期③	地球温暖化	17
6. 2	前期④	温暖化の影響	15
6. 9	前期⑤	ヒートアイランド現象	18
6. 16	前期⑥	水の文化と特性	17
6. 23	前期⑦	水の循環	16
6. 30	前期⑧	水資源、仮想水	17
7. 7	前期⑨	公開講座(谷仲山の水と緑)	23
7. 14	前期⑩	日野の地形及び水と緑	16
10. 6	後期①	水質汚染	15
10. 13	後期②	富栄養化	13
10. 20	後期③	地下水汚染	17
10. 27	後期④	降水のメカニズム	14
11. 10	後期⑤	大気汚染と雨の化学組成	14
11. 17	後期⑥	酸性雨とは	16
12. 1	後期⑦	酸性雨の生態系影響	12
12. 8	後期⑧	公開講座(向島用水の水と緑)	20
12. 15	後期⑨	オゾン層の破壊と影響	11
12. 22	後期⑩	地球環境問題の総括と討議	15

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

市民環境大学 OB 会（環境学習会）

実施日	テーマ	参加人数
2016. 4. 21	環境学習会 1	10
5. 19	環境学習会 2	14
6. 16	環境学習会 3	12
7. 21	環境学習会 4	12
8. 18	環境学習会 5	11
9. 15	環境学習会 6	11
10. 20	環境学習会 7	12
11. 17	環境学習会 8	14
12. 15	環境学習会 9	17
2017. 1. 19	環境学習会 10	17
2. 16	環境学習会 11	15
3. 16	環境学習会 12	14

ニュースレターの発行

第 8 号発行 2016.5.17
 第 9 号発行 2016.7.21
 第 10 号発行 2016.9.15
 第 11 号発行 2016.11.17
 第 12 号発行 2017.1.19
 第 13 号発行 2017.3.16

市民環境大学OB会(空間放射線量・谷仲山湧水量の測定)

実施日	テーマ	参加人数
2016. 4. 28	A・B エリア	5
5. 26	A・B エリア	6
6. 23	A・B エリア	4
7. 28	A・B エリア 谷仲山湧水量調査開始	7
8. 25	A・B エリア 湧水量調査	7
9. 27	A・B エリア 湧水量調査	5
10. 27	A・B エリア 湧水量調査	7
11. 25	A・B エリア 湧水量調査	5
12. 22	A・B エリア 湧水量調査	6
2017. 1. 26	A・B エリア 湧水量調査	8
2. 23	A・B エリア 湧水量調査	7
3. 16	A・B エリア 湧水量調査	10

測定場所 Aエリア 仲田の森公園、多摩川堤防周辺 7地点
 B エリア 市役所周辺 6 地点
 生活保健センター

その他

実施日	テーマ	内 容
2016 年 6 月	身近な水環境の全国一斉調査	浅川、程久保川、豊田用水の水質調査 (全国水環境マップ実行委員会)

4. 環境への取組状況

㊼ 緑を愛する会日野

○ 活動目的・活動内容

「緑を愛する会 日野」は、仲田の森蚕糸公園という市街地の身近な自然保存・育成のために平成 17 年(2005 年)からスタート。活動に参加する皆さんには、自然は特別な怖い存在ではないことを ” 日々の生活の中 ” で実感してもらえるよう、そこに重点を置きながら活動を展開している。活動は緑と清流課に協力を頂きながら行っている。主な活動は以下 4 つ。(1)仲田の森蚕糸公園の一角をミニビオトープとして多種多様な草木を植え、50 年後豊かな森にしていこう活動。現在は枝打ち草刈りが主な活動 (2)園芸品種と山野草 2 種類の花壇を配置し、花で来訪者が親しみやすい場を設ける。堆肥には生ごみ堆肥を活用 (3)市内のドングリを集めてどんぐり苗を育て、市内緑化で必要な際には日野産苗を供出できる準備 (4)諸団体との連携(情報交換・体験学習の相談対応) これらすべての活動は写真で記録している。

緑を愛する会 日野のスローガンは「人と自然の和」

○ 会員数:6人

○ 活動場所: 主に仲田の森蚕糸公園

○ 代表者: 佐伯直俊

○ 連絡先: 090-3546-7117 (佐伯) forestimage0123@gmail.com

○ 情報提供: 以下ホームページ (HP) もしくはメール配信、不定期刊行物。

ツイッターHP (日々の更新はこちら): <https://twitter.com/nakadanomori>

ブログ HP (まとめサイトの活用): <http://nakadanomoridayori.blogspot.jp/>

TBS『風の言葉・日野用水』(2012 年) <https://www.youtube.com/watch?v=T2YtaUfjKps>

○ 活動実績

＜ 2016 年の主な活動 ＞

◆3/27 山野草花壇を作る「お花いっぱいプロジェクト第 2 弾」 ◆5/19 埼玉の巾着田視察

◆5/28、6/21 草抜き作業 ◆6/25 市内園芸店視察 ◆7/23・24・8/3 草刈、8/5 セキショウを植える (日野市社会福祉協議会・夏の体験ボランティア学生受け入れ) …緑化活動には様々な道具を使う必要があり、刃物を使ったことのない子たちへの道具の扱いなどを教え、実践する

◆昭和記念公園の植物展示「種のひみつ」視察 ◆11/26 市民寄贈によるチューリップ、スイセン植え付け ◆12/21 農工大科学博物館・桑と蚕に関する展示視察／館長に聞き取り

◆そのほか 月に 4 回前後の花壇手入れ作業

以上活動参加人数のべ 80 名

㊽ 南平・緑と水のネットワーク

○ 活動目的・活動内容

当会は2012年「南平駅前や周辺の用水沿いを緑豊かな水辺にしたい」という住民の提案でスタートしました。

地域住民・行政・法政大学エコ地域デザイン研究所の協力を得て、ワークショップや勉強会を開催。緑化計画案を作成し、都市緑化機構の「緑の環境デザイン賞」に応募。見事国土交通大臣賞を受賞し、整備費用の助成を受けることができました。現在は南平地域で定期的な活動を行っています。会の目的は、地域の特徴である用水など歴史的環境資源を守りつなげ、またその過程で南平のまちを再発見し、安心して安全な、南平らしい豊かな暮らしを目指すことです。また、七生中地区地域懇談会、「ななおBONまつり」等地域の活動にも参加しています。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

- 人数:活動参加者 10人 どなたでも参加自由なオープンな会です
- 活動場所: 南平児童館、南平駅周辺用水路沿い
- 代表者:清水 守男
- 連絡先:みなみだいら児童館ぷらねっと(館長:梅崎 満州夫) TEL:042-599-0166
- 情報提供方法:自治会回覧、市の掲示板、ぷらねっとより、市内団体掲示板HiKnow!
Facebookページ(アカウントがなくても閲覧可能)、Jcom番組他
- 主な活動:毎月最終日曜日午前 草取りと観察会など、イベントの開催
- 活動実績

実施日	テーマ	目的 内容等	参加人数
2016. 4. 5	「野点・南平の四季」	南平高校茶道部と児童館で野点開催 地域・学校との交流	54
4. 30	4月定例会	定例の清掃・除草・植栽手入れ・用水手入れ	9
2016. 5. 1	種まき	夏秋の花などの種まき	3
5. 10	植栽管理	発芽の観察、管理	5
5. 29	「まほうの草で遊ぼう」	「みなみだいら児童館ぷらねっとまつり」に参加	80
6. 12	植え付け	子供とともに、秋花の植え付け	33
7. 31	7月定例会	定例会 「まちなか自然観察会(タネ収穫)！」	13
8. 28	「収穫のおすそ分け」	「児童館夕涼み会」へ参加 活動展示 種のおすそ分け	77
9. 10	活動準備(BONまつり)	「BONまつり」配布苗の種まき 収穫種の選別	4
9. 25	9月定例会	定例除草、植付、用水清掃	6
10. 22	活動準備(BONまつり)	「BONまつり」準備 展示	4
10. 22	「ななお BONまつり」	苗の配付、活動紹介、市長への説明	110
10. 29	活動報告	日野市へ「用水守実績報告書」提出	1
10. 30	10月定例会	定例除草、植付、剪定、用水清掃	7
10. 30	クラフトづくり	ハロウィンかぼちゃクラフトづくり(掲示板に展示)	3
12. 25	整備等	堆肥管理・作業具の整備、整理	3
2017. 1. 29	1月定例会	来年度企画、持続可能な活動について	11
2. 18	地域活動	「日野市安全安心なまちづくり研修会」に参加	1
2. 26	2月定例会	定例除草、植付、用水清掃 土作り	10
3. 5	学習会	除草、植付 樹木剪定の指導	11
3. 9	活動紹介	来客へ活動場所活動の説明	7
3. 26	3月定例会	年間企画確認・定例清掃・植え付け・野点準備	8
合計			460

㊼ 百草山の自然と文化財を守る会

- 活動目的
多摩丘陵の一角、日野市百草山の自然を保全し、そのなかに含まれる古代・中世寺院跡(真慈悲寺)などの遺跡の調査・保全を目指しています。
- 現在までの活動内容
 - ・百草山斜面の開発抑制のための署名活動
 - ・百草山の散策イベントの実施

4. 環境への取組状況

- ・百草山の文化財調査
 - ・市と協力して三沢中学校区探検隊を組織して散策マップを作成
 - ・百草山の清掃活動(西斜面<三沢>の周辺)
 - ・現在は、倉沢里山を愛する会、幻の真慈悲寺調査の会と合流して、日常活動をしている
 - ・百草山の一角の大規模墓地開発計画を中止させた募金活動
 - ・百草山の一角、真堂が谷戸の市の買い取りを求める募金活動、昨年度は、買い取りが実現した。
- 設立年月日：1995年(平成7年)11月3日
- 代表者名：峰岸 純夫
- 活動場所：日野市百草山
- 活動日：特定せず、随時活動
- 活動人数：若干名(中心層 60から70代)
- 募集：無
- 連絡先：峰岸 純夫 住所：日野市百草971-250 TEL:042-591-0605 FAX:042-591-0605
E-mail:mise3gisi2@ab.auone-net.jp
- 五十子 満大 住所：日野市百草971-250 TEL:042-591-6086 FAX:042-591-6086
E-mail:ablamenroku@yahoo.co.jp

③ 谷仲山緑地を守る会

○ 活動目的・活動内容

日野市の谷仲山緑地を明るい健全な雑木林に維持・管理し併せて里山の生物多様性を復活し、次の世代に引き継ぐことを目的に2016年4月にスタートした雑木林ボランティア団体です。

当緑地は、カタクリ、ニリンソウ、イチリンソウなど貴重種の野草が群落しており、雑木林や野草の保全活動と併せて、近い将来市民に対しカタクリなどの観察会を実施し、環境保全の大切さを訴えていく予定です。会員は一般市民、日野市職員OBなど様々で、目的意識を持ったボランティア活動を通し、楽しい汗を流しています。

- 人数：20名
- 活動場所：神明第1緑地から神明第7緑地
- 代表者：笹木延吉
- 連絡先：事務局 小太刀 智明 (TEL 042-581-1164 カワセミハウス)
- 活動日：毎月第3日曜日
- 活動実績

実施日	活動内容	場所	参加人数
2016. 4. 19	準備会(発起人集会)	日野市環境情報センター	11
5. 15	総会、神明上第3,5植物調査	センター及び神明緑地	13
6. 19	草刈り、枝の剪定他	神明上第3,5緑地	11
7. 17	ノリ面草刈り、他	神明上第3,5緑地	15
8. 21	草刈り、樹木伐採	神明上第3,5緑地	11
9. 18	草刈り、剪定	神明上第6緑地	10
10. 16	草刈り、倒木の片づけ	神明上第6緑地	7
11. 20	湧水路清掃、倒木の片づけ	神明上第6緑地	8
12. 18	草刈り、粗朶柵工	神明上第6緑地	13
2017. 1. 15	他の団体応援の為活動休み		
2. 19	草刈り、萌芽更新、粗朶柵工	神明上第6緑地	12
3. 19	第3緑地カタクリ園路づくり他	神明上第3,5緑地	10

③ 緑地管理ボランティアの会

○ 活動目的・活動内容

日野東光寺緑地保全地域の植生と風景を豊かにするため、手入れを行い、崖線の緑を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して行っている。

2010年度からは明星大学の緑地保全活動サークル「クローバー」の学生とも一緒に活動し、同校のグリーン・キャンパス・プログラム事業も実施、指導している。

主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、古損木処理、剪定、枝打
- ・竹林の管理
- ・特殊植物保護、植生調査、清掃活動
- ・学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市と保全計画の協働策定

○ 人数：18名

○ 活動場所：日野東光寺緑地保全地域、東光寺第1,2緑地

○ 連絡先：小太刀 智明 E-mail:tweety-satopi@u01.gate01.com

○ 情報提供・参加募集方法等：直接連絡、東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・チラシ、大学内情報誌・など

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 17	竹の植生管理	筍と竹の調整・伐採、間引き	8
6. 12	笹・下草刈り	笹・草刈り、筍の調整・伐採、間引き	6
6. 26	竹の植生管理	筍の調整・伐採、間引き	6
7. 10	除伐・間伐	竹伐採・古損木伐採・特定外来種除去	5
8. 7	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	5
9. 11、9. 25	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	延 12
10. 2	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	6
10. 16	自立と協働 (一年生必修授業)	グリーン・キャンパス・プログラム (竹伐採・草刈り)	63
11. 6	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	6
12. 4	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	7
2017. 1. 15	除伐・剪定	常緑樹伐採・障害木剪定	5
2. 12	竹林整備	竹の間伐	4
3. 11	竹林整備	竹の間伐	4

4. 環境への取組状況

(2) 行政による環境への取組状況

ここでは、行政が主体となって行っている環境への取り組みについて記載しています。

郷土資料館（日野市程久保 550 TEL:042-592-0981）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 23～ 7. 10	企画展「どつき土器展—初公開 万願寺・石田・上田の出土遺物」	万願寺・石田・上田地域から発掘された土器や石器などを展示し、自然とともに生きた大昔の暮らしを紹介。	472
7. 16～10. 23	企画展「七生丘陵ハイキングコース 今・昔 / ミニ土器展」	日野市の丘陵地域のハイキングコースの歴史や今見られる植物などを紹介した。あわせて土器の展示コーナーも設置した。	516
10. 29～ 2017. 4. 16	企画展「日野の産業革命—レンガ・ビール・養蚕」	中央線鉄橋に用いられた日野レンガ、豊田のビール、養蚕、電気など日野の近代化の資料を展示し、時代の変化に対応した日野の産業を紹介した。	788
5. 7～8. 27	農業体験講座「親子でスイカを作ろう」(公民館と共催)(全5回)	親子を対象とした農業体験。農作業をとおして、地球環境や自然に触れ、緑化の一步に貢献。食べ物のできる仕組み、食べ物の大切さを学んだ。	169
7. 30、8. 27	体験学習会「石田散薬を作ろう」	用水沿いに生えるミゾソバを採取し、ほうろくで黒焼きして薬研で粉薬にした。野草を用いた土方歳三家に伝わる家伝薬を再現した。	37
9. 3～ 2017. 1. 21	農業体験講座「親子で大豆を育てて豆腐を作ろう」(公民館と共催)(全5回)	上記と同様の親子を対象とした農業体験。さらに、収穫物で豆腐作りを行った。	78
11. 13	村絵図講座「日野用水開削 450 年記念 日野市内の用水を見に行こう」	2017 年の日野用水開削 450 年を前に、江戸時代の村絵図を見ながら市内の用水の歴史を学び、日野用水取水堰ほかを見学した。	24
12. 10	体験学習会「お正月飾りを作ろう」	正月飾りのしめ縄を作りを通して、主食である稲の藁を活用することが、当たり前だった頃の生活を考える機会となった。	24
2017. 1. 11	どんど焼き	人々の健康を願う小正月の火祭り行事。茅で作った小屋とともに正月飾りなどを燃やす。伝統行事を伝えるとともに、焼却物の分別により自然素材の大切さを伝えた。	1,007
1. 20 ～2. 13	パネル展「ピンヘット山と外来生物」	かつての七生散策コース上のピンヘット山について、外来生物について、高幡不動駅の通路にて展示を行った。	316
1. 22～3. 5	日野用水開削 450 年記念古文書で学ぶ日野の用水(全6回)	市内に残る古文書を教材にして、日野用水をはじめとする市内の用水の歴史を学ぶ連続講座。	154
3. 11	体験学習会「化石でたどる大昔の日野」	多摩川の河川敷で見られる化石を含む地層の観察会を行った。過去の世界変化を学び、自然の不思議さを伝えた。	23
3. 18	体験講座「日野市・八王子市 市境を歩こう」	平山城址公園駅から豊田駅まで、日野市と八王子市の境界を歩いて周囲の環境や歴史について学んだ	34

(2) 行政による環境への取組状況

4. 1～ 2017. 3. 31	七生丘陵の自然と歴史調査	人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行った。市民との協働調査。	349
9. 17～11. 20 (特別展期間) 調査事業は年間を通して	・特別展『今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～』 ・幻の真慈悲寺調査研究事業	中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査、研究と共に、緑地の紹介や保全に貢献。また、百草里山ミュージアム構想の地域内にあり、環境保護にも意識して取り組んだ。市民との協働調査。今年度は特別展示を開催した。	3233(特別展観覧者)、 271(関連行事参加者) 1,034(調査事業参加者)

ごみゼロ推進課 (クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 TEL:042-581-0444)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 7. 14～15	職場体験	七生中	2
10. 5～7	職場体験	立川国際	2
通年	クリーンセンター施設見学	日野第一小、日野第三小、日野第四小、六小、日野第七小、東光寺小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、潤徳小、一中、自治会・ごみゼロ推進員、日野法人会、一般市民ほか	1,251
通年	講師派遣出前講座	日野第一小、日野第四小、日野第七小、東光寺小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、潤徳小、たまだいら保育園、ひらやま保育園、みなみだいら保育園、もぐさ台保育園、おおくぼ保育園、とよだ保育園、つくしんぼ保育園、芝原保育園、みさわ保育園、至誠いしだ保育園、しんさかした保育園、たかはた台保育園、あらい保育園、むこうじま保育園、日野第二保育園、ひよこハウス多摩平、あさひがおか保育園、日野駅前かわせみ保育園、栄光平山台保育園、しせい太陽の子保育園、第五幼稚園、第七幼稚園、百草台幼稚園、光塩女子学院日野幼稚園、日野しらゆり幼稚園、ほか	3,137
通年	清掃活動	三沢中、日野高、平山中、大坂上中地区青少年育成会	1,348

環境保全課 (市役所 3 階 TEL:042-585-1111 内線 3511～3512、3521～3522)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 5. 29	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,500 (278 団体)
6. 14	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	10
11. 15	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	10
11. 27	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16,520 (279 団体)
2017. 1. 14	環境フェア (イオンホール)	生活スタイルの見直しと省エネ行動の実践による CO ₂ 削減を啓発するイベント。省エネの模範的な取組実践者の表彰、市及び大学による CO ₂ 削減の取り組み紹介、マスコットキャラクターによる啓発ショー、環境かるた大会等を開催。	25,000
2. 14	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	10

4. 環境への取組状況

緑と清流課（市役所 3 階 TEL:042-585-1111 内線 3621）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 1 ～5. 31	緑の募金	事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼	—
4. 1～11. 5	第 6 回 あさかわ写真コンクール	八王子市との浅川流域連携事業の取組みの一つ(募集期間 4/1～8/31、表彰式 11/5)	応募総数 342
4. 17	多摩川・浅川クリーン作戦	多摩川・浅川の同時清掃。	約 1900
6. 5	身近な水辺の一斉調査	浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査(全国水環境マップ実行委員会主催)	95 (浅川流域)
6. 19～11. 30	コスモスアベニュー事業	花のまちづくり事業の一環として、浅川スポーツ公園外周で、緑化の推進・普及・啓発のため、市民によるコスモスの種まき及び育成管理を実施 (公財) 日野市環境緑化協会共催	348
6. 27	ホタルの観察会	真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。 ホタルの生態についての座学の後、ホタルの観察を行った。真堂が谷戸の会との共催。	28
8. 3	子どもの交流事業	八王子市との浅川流域連携事業。多摩川の干潟での活動を通して、将来の浅川の水辺づくりの担い手となる両市内の小学校 5, 6 年生を対象とした交流事業	32
9. 24	シンポジウム 「黒川清流公園」	水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会	40
9. 30 ～10. 31	緑と清流ポスター展	市役所 1 階フロアにて実施。展示 233 点 (応募総数 1, 526 点)	
9. 30～10. 31	ミニ水族館開設	市役所 1 階フロアにて実施。	
10. 16	日野用水クリーンデー	栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水(約 2km)の清掃	100
10. 29	用水守懇談会	用水守連絡会、活動内容の報告および意見交換	17
年間	程久保川クリーンデー	5/22 10/30 (年間 2 回実施)	100
年間	自然観察会	日野みどりの推進委員会と共催 年間 11 回実施	253
年間	浅川・潤徳水辺の楽校行事	浅川・向島親水路を中心に年間 15 回の行事を開催。	900
年間	滝合水辺の楽校行事	4. 8. 11. 2 月実施。	約 200

(2) 行政による環境への取組状況

都市農業振興課（市役所 3 階 TEL:042-585-1111 内線 3411）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016 年度	小学校における日野産大豆栽培体験	食育推進の観点から、市内小学校における日野産大豆栽培を支援する。年度当初に栽培希望校を募集し、種子の配布を行う。収穫した大豆は、授業での体験学習（豆腐作り等）及び次年度の種子として活用する。	一小、三小、五小、夢が丘小

文化スポーツ課（市役所 3 階 TEL：042-585-1111 内線 3821、3822）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016.5.8 ～2017.2.5	ちょこっとウォーキング、さわやかウォーキング及びバスハイキング	ちょこっとウォーキング、さわやかウォーキング及びバスハイキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に実施するウォーキングです。また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して自然の魅力を発信しています。	369

子育て課（市役所 2 階 TEL:042-585-1111 内線 2517）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016.7.28	自然の中で遊ぶ	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	39
8.17	自然の中で遊ぶ	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	雨天中止
8.26	自然の中で遊ぶ	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	39
6.5～12.18	自然の中で遊ぶ	緑の大切さを感じる 小学校 5 年生～中学校 3 年生 野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー	延べ 657
7.21～8.31	自然の中で遊ぶ	緑の大切さを感じる 市内の子ども 子どもたちが自発的に活動やルールを創出した中での遊びや体験、キャンプ活動ほか 野外炊飯・キャンプファイヤー	延べ 1263
11.26	自然の中で遊ぶ	緑の大切さを感じる 市内の子ども たき火、焼き芋、工作、ネイチャーゲーム	約 1000

4. 環境への取組状況

中央公民館（日野市日野本町 7-5-23 TEL:042-581-7580）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 23 ～12. 3	田んぼの学校	水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。	621
2016. 5. 7 ～ 8. 27 (全 5 回)	楽しい農業体験 親子でスイカを作ろう	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。スイカを育て、収穫する。	169
2016. 9. 3 ～2017. 1. 21 (全 5 回)	親子で大豆を育てて豆腐を作ろう	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。大豆を育て、収穫し、豆腐をつくる。	78
2017. 2. 18 ～ 3. 4 (全 3 回)	(ひの市民大学) 地球温暖化の諸問題とその防止対策	多発する異常気象等差し迫った問題について、今後世界はどう進むべきか。地球温暖化問題解決の鍵となる最先端技術等を学ぶ。	77
3. 11 ～ 3. 25 (全 3 回)	日野の生き物～最近のトピックス ・昆虫編 ・植物編 ・野鳥編	一般市民を対象に、植物・昆虫・野鳥からみた日野の自然を学ぶ。	86

地域協働課（日野市生活・保健センター 日野市日野本町 1-6-2 TEL:042-581-4112）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 1. 18	くらしの輪連絡会研修会 『どうして出るの？ どうやって減らす？ 私達の食品廃棄～食の循環や環境を意識しよう～』	くらしの輪連絡会参加団体である回轉市場とまちの生ごみ活かし隊が食品ロスに関するイベントを計画していたことから、日本の食生活をめぐる環境、食品廃棄の実態、課題、今後の方向等の基礎的な内容の研修を開催。 くらしの輪連絡会（消費者団体の連絡会）参加団体対象	35

生涯学習課（市役所 5 階 TEL:042-585-1111 内線 5311、5312）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2017. 1. 9	成人式	新成人対象。配布プログラムに市の環境保全イメージキャラクターを紹介。	1, 096

(2) 行政による環境への取組状況

(公財)日野市環境緑化協会 (日野市神明 2-13-1 TEL:042-585-4740)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 4. 23	緑のリサイクル	市民から提供された植物を配布 提供者 34 名、合計 1,125 点を配布	受領者 425 名
2016. 5 月	ガーデニングコンテスト	市民からガーデニング作品を募集 一次審査 (写真) : 5 月 13 日 二次審査 (現地) : 5 月 17 日 を行い、入選者 4 件を選出	応募件 数 8 件
2016. 5. 24 ～6. 7	ガーデニングコンテスト 写真展	市役所、市民ホールにてガーデニングコン テスト応募者全員の写真を展示	-
2016. 7. 16	子ども昆虫教室	市内の小学生を対象に昆虫の話や標本観 察、屋外での昆虫採集を実施	参加者 8 名
2016. 9. 23	カサギク貴重品種の配 布	日野市だけが継承しているカサギクの貴 重品種「白多摩・黄多摩」をプランターに植 付け、観賞用として小中学校等の公共施設に 配布	34 箇所
2016. 11. 1 ～11. 10	配布苗：菊花コンテス ト	市役所庁舎前、市民プラザにて実施。表彰式 はひの煉瓦ホールにてポットマム、スプレー 菊、大菊の種類別に合計 23 点を表彰 (応募数)・市民一般の部 合計 34 鉢 ・老人クラブの部 合計 110 鉢 ・小学校の部 合計 110 鉢 ・大菊の部 合計 14 鉢	(苗配 布) 7,635 株 (個人・ 団体含 む)
2016. 12. 16 ～12. 26	緑の写真展	市役所、市民ホールにて実施。 テーマ 1 「日野の四季」 16 点 テーマ 2 「わが家の緑」 9 点を展示	応募者 9 名
2016. 12 月	作文集「緑のまち」発行	市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作 文を募集して審査を行い、入選作 115 編及び カット入選 58 作品を掲載した作文集を発行	応募総 数 2,646 編
2017. 3. 25 ～3. 26	第 15 回スプリングフェス タビの	実行委員会と共催で開催 26 日は雨天のため中止	来場者 1,500 名
年間	緑化講習会	○大菊の育て方講習会 7 月 21 日 ○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 4 日 ○庭木の手入れ講習会 10 月 6 日 ○稲わら竹細工講習会 12 月 15 日 ○春の草花・家庭果樹の管理講習会 2 月 2 日 ○ガーデニング講習会 3 月 9 日	参加者合 計174 名

4. 環境への取組状況

(3) 学校等による環境への取組状況

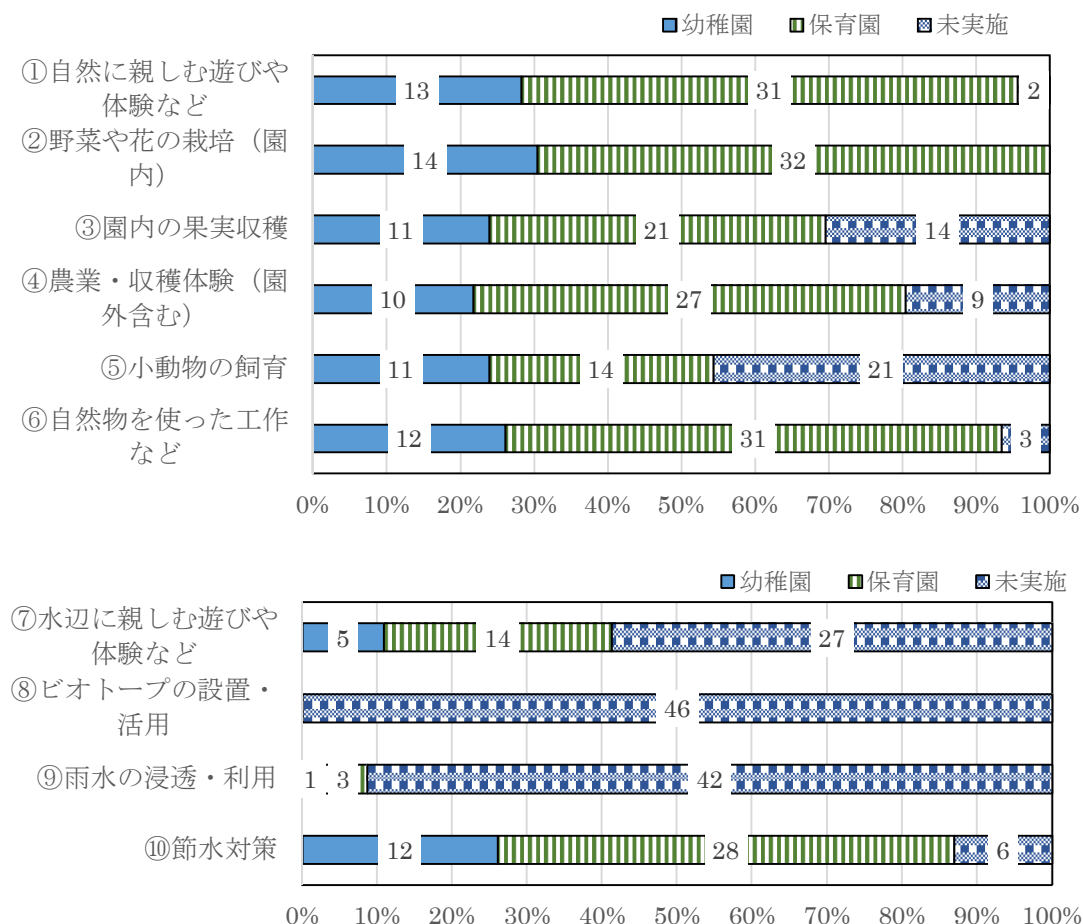
日野市内には、幼稚園 14 園（市立 4 園、私立 10 園）、保育園 36 園（公立 11 園、私立 25 園）、小学校 17 校、中学校 8 校、高等学校 3 校があります。これらの学校等による環境への取り組みについて、①幼稚園・保育園、②小学校、③中学校・高校、に分け、とりまとめました。

① 幼稚園・保育園における環境への取り組み

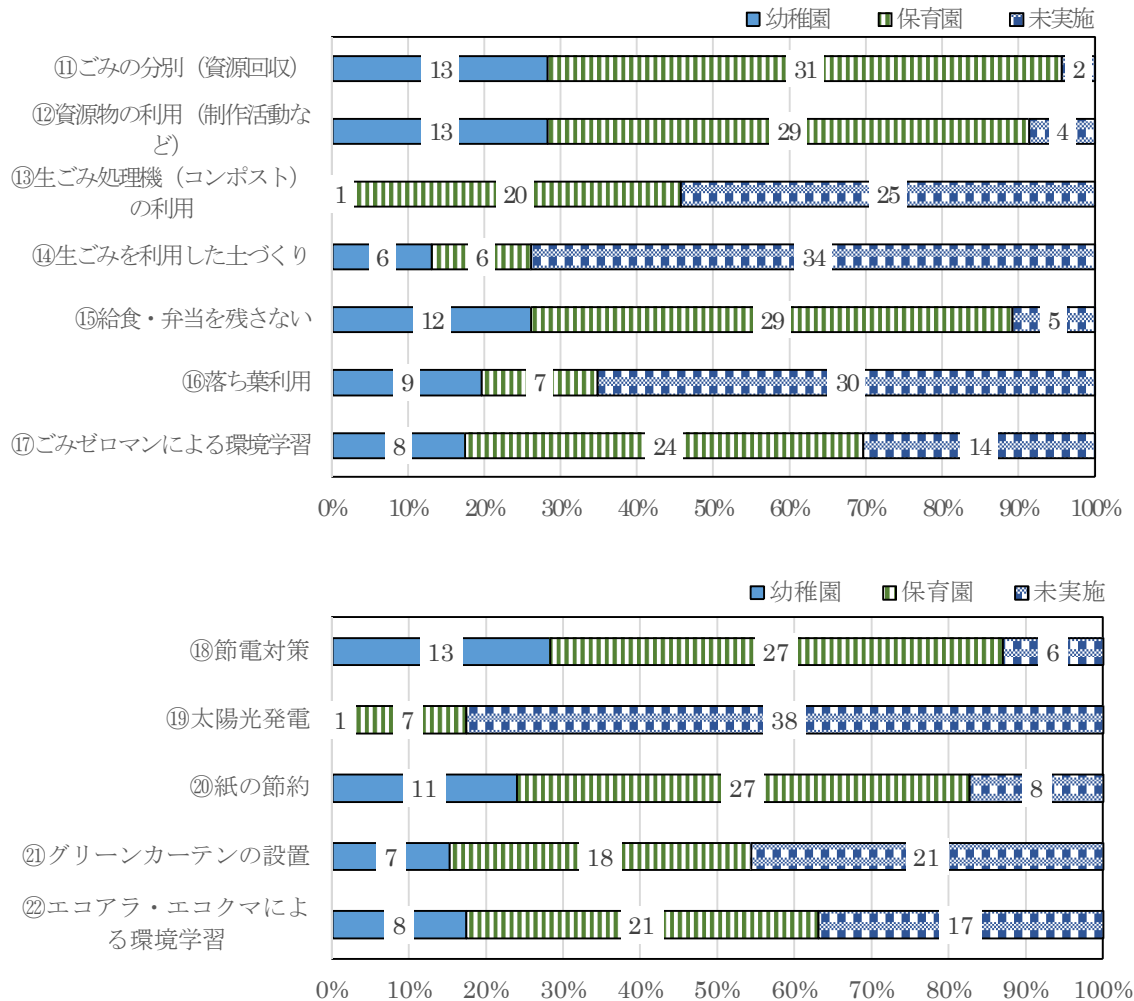
主な取り組み項目を 22 項目としてアンケートを実施し、幼稚園 14 園、保育園 32 園の 46 園から回答が得られました。

幼稚園及び保育園で多く取り組まれている項目としては、全ての園で園内において野菜や花の栽培が行われていた他、自然に親しむ遊びや自然物を使った工作、農業・収穫体験など園児が直接自然に触れるような取り組みが多く園で行われています。また、日常生活の習慣として、ごみの分別、節水、節電、紙の節約、食べ残しを出さないことが多くの園で取り組まれています。エコアラ・エコクマやごみゼロマンといった子供向けのキャラクターを活用した環境学習が行われているのも幼稚園・保育園の特色です。

一方、雨水の浸透・利用やビオトープの設置、太陽光発電といった、設備や整備などに費用がかかる項目については、実施している園は少ないという結果でした。



(3) 学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとしては以下の回答がありました。

- ・ 笹の葉、いぐさを利用した笹だんご作り（欣浄寺みのり幼稚園）
- ・ 地域一斉清掃参加、ペットボトルキャップ、使用済切手回収（至誠第二保育園）
- ・ 井戸水の使用（日野第二保育園）
- ・ 蓄熱冷房、収穫野菜の調理体験（日野わかば保育園）
- ・ 生ごみリサイクル土づくりによる元気野菜作りは、継続して行っている。園児だけでなく、保護者も一緒に土作りから行い、食育について考えることにつながっている。（第二幼稚園）
- ・ 身近な素材を使ったおもちゃ作り（未就園保護者等にも提案）
- ・ 園外に出かけ、四季を通じ地域の自然に触れる遊び体験
- ・ 水の使い方についての定期的な指導
- ・ 保護者が一緒に行事においては、各自がごみの持ち帰り及びマイバック、マイ箸持参
- ・ 園外保育に出かけた時、帰り際に自分の出したごみ以外のゴミ拾い（第四幼稚園）
- ・ 園庭の一部を芝生化し、子ども達が裸足で遊べるエリアにしている。（日野・多摩平幼稚園）
- ・ 物にもいのちがあることに気付かせる（欣浄寺みのり幼稚園）
- ・ 自然に囲まれた環境を保育に活かせる計画を心がけている。（光塩女子学院 日野幼稚園）
- ・ 年2回、野鳥の会の方の指導により、近隣公園にて野鳥を観察（たまだいら保育園）
- ・ 園発表会にて、保護者向けに環境への取り組みを示した。（たかはた台保育園）
- ・ 用務職員による園児への環境学習（ごみの分別、食べ残しをなくす）（たかはた台保育園）
- ・ せせらぎ農園で4・5歳児が毎月1回農業体験（みさわ保育園）

4. 環境への取組状況

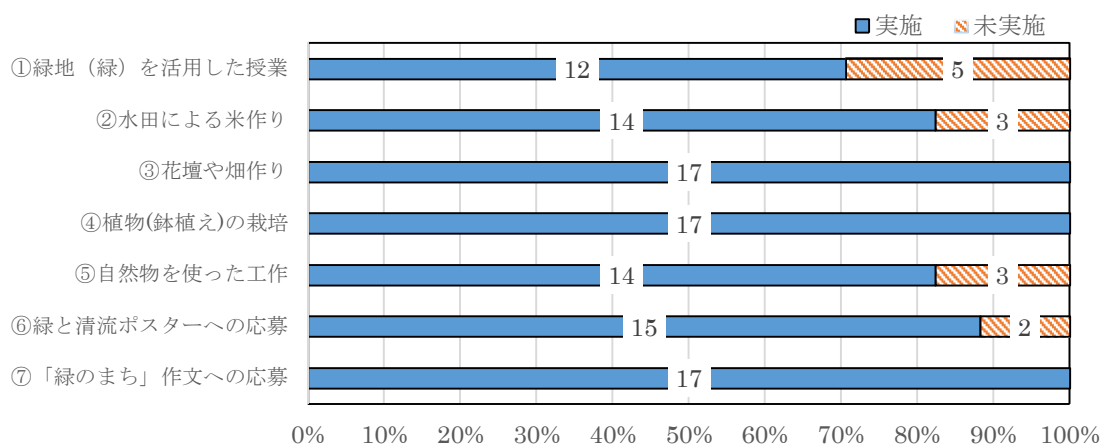
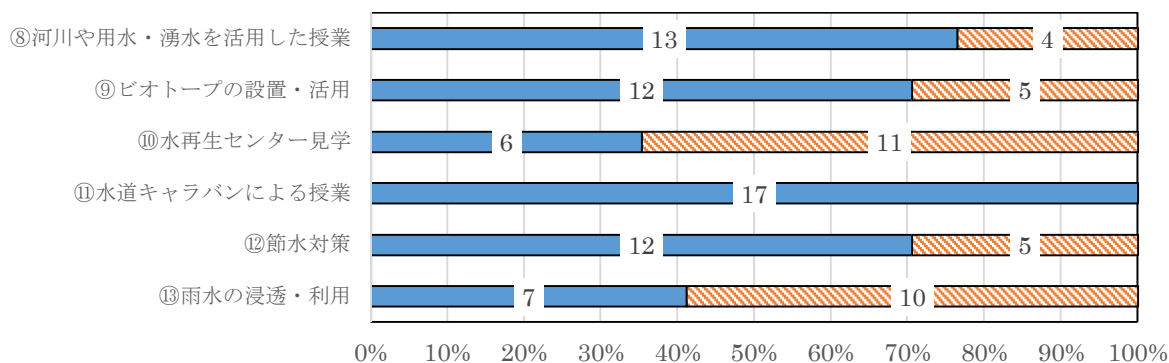
- ・給食の生ゴミを利用して自園の畑などの土づくり(みさわ保育園)
- ・大型絵本などの手作り教材を使った環境学習の実施(みなみだいら保育園)
- ・運動会閉会式のフォークダンスで親子で「エコでいこう!」のダンスを踊り、環境への取り組みを保護者へ発信(あさひがおか保育園)
- ・緑の募金を届けに行く(つくしんぼ保育園)
- ・食育にて旬の食材を知ることによって野菜や植物への興味関心を持たせる(たかはた北保育園)
- ・食育活動の実施(至誠あずま保育園)
- ・豊かな自然環境の中で保育をすすめる(芝原保育園)

② 小学校における環境への取り組み

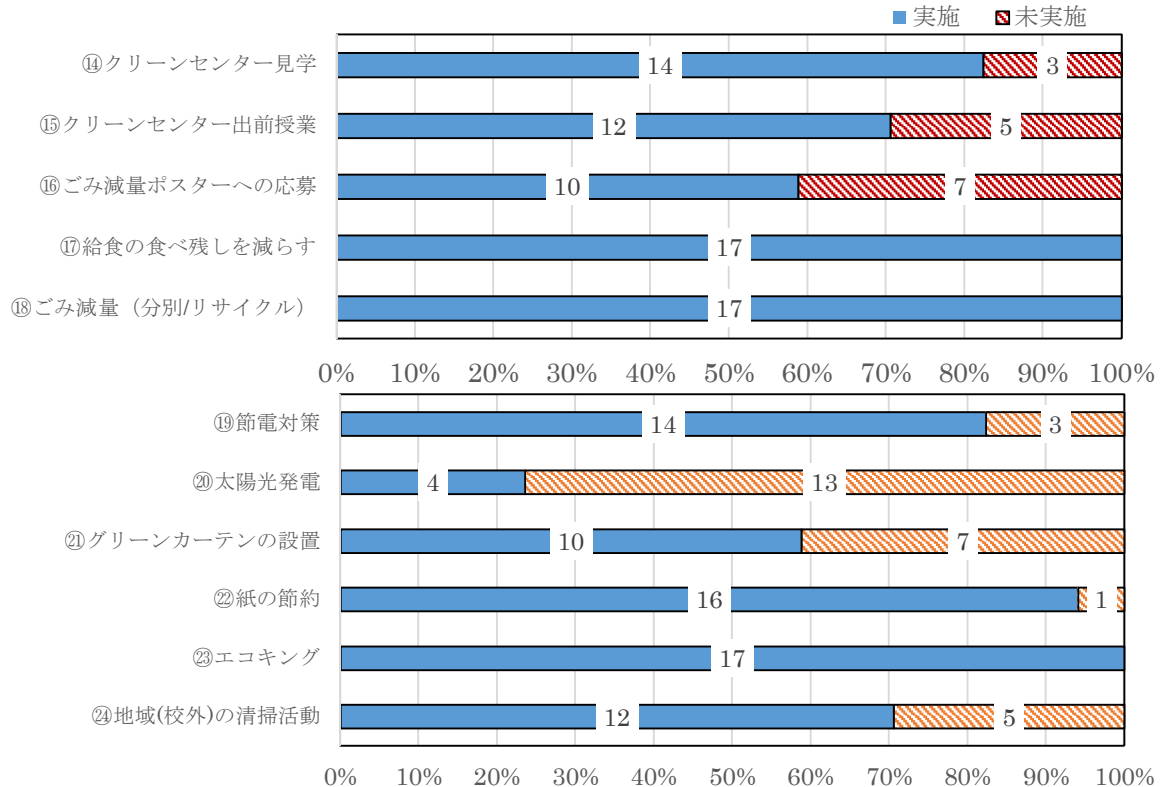
主な取り組み項目を23項目としてアンケートを実施し17校より回答が得られました。なお、「エコキング」についてはすべての小学校で実施していることからアンケート項目には含めませんでした。全校実施項目として集計グラフには加えており、取り組み項目は全部で24項目です。

小学校の特色として、植物の栽培、花壇や畑作り、緑に関する作文やポスターへの応募、自然物を使った工作など、みどり分野の取り組みが環境学習として多くの学校で実施されています。また、水道キャラバンによる授業、水辺を活用した授業、水田による米作りなど、水分野の取り組みも比較的多くの学校で実施されており、水環境豊かな日野市の特色が表れています。他にも、給食の食べ残しを減らす、ごみ減量、紙の節約、エコキングなど、様々な分野の取り組みが多くの学校で実施されています。

一方、太陽光発電や雨水の浸透・利用については、実施率が50%以下となっており、グリーンカーテンも60%を下回っています。費用の面だけでなく、施設や設備面での課題があるものと考えられます。



(3) 学校等による環境への取組状況



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。

- ・陸稲の栽培(平山小学校)
- ・“種の箱”の設置及び有効活用(日野第八小学校)
- ・ペーパーレス
- ・毎年、かかしコンクールに出展(平山小学校)
- ・代表委員会によるエコ推進活動(日野第八小学校)
- ・校庭、地域の清掃活動(日野第六小学校)
- ・菊の栽培(日野第六小学校・平山小学校・東光寺小学校)
- ・資源を活用した案山子作り(日野第六小学校)
- ・校内にある「おたまが池」の自然観察(日野第六小学校)
- ・花の栽培活動(日野第六小学校・平山小学校)
- ・学校での避難所宿泊体験学習を通して、防災教育の実践とともに、自然環境と身近な生活とのかかわりについて学ぶ(平山小学校)
- ・代表委員会によるエコ推進活動として、児童が積極的にポスター作りや給食中の啓発の放送を行っている。(日野第八小学校)
- ・芝生の管理(滝合小学校・東光寺小学校)
- ・畑・田んぼ作り(滝合小学校)
- ・もみからの米作り(東光寺小学校)
- ・東光寺大根作りとたくあん作り(東光寺小学校)
- ・たまねぎ作りと給食への活用(東光寺小学校)
- ・和食器を使った給食体験(東光寺小学校)
- ・廃材を活用した図工の学習(東光寺小学校)

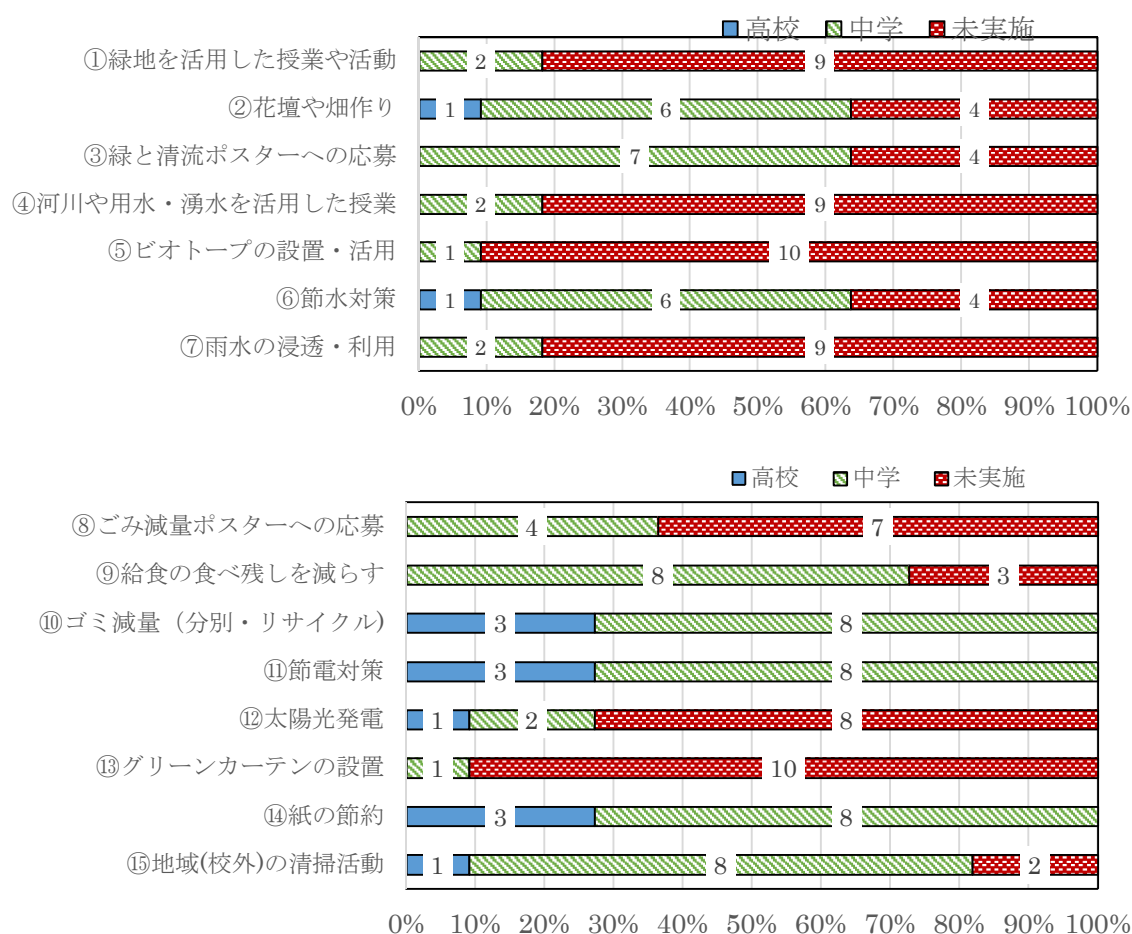
4. 環境への取組状況

③ 中学校・高校における環境への取り組み

主な取り組み項目は15項目としてアンケートを実施し、中学校8校、高校3校から回答が得られました。

ごみ減量、節電、紙の節約については、ほぼすべての中学校・高校で行われていました。一方で、小学校では回答の多かったみどりや水に関する環境教育については、中学校で花壇や畑づくり、緑と清流ポスターへの応募が比較的多くの学校で取り組まれています。他の項目についてはあまり実施されていませんでした。給食の食べ残しを減らす、清掃活動については、中学校ではほとんどの学校で取り組まれています。

実施率の低かった、ビオトープの設置・活用、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンの設置については、費用面・設備面での課題があるものと思われます。



アンケート項目以外のその他の取り組み・独自の取り組みとして以下の回答がありました。
 ＜中学校＞

- ・緑のカーテンは10年以上継続しており、環境意識を高めることに成果を上げている。
- ・食育を通して環境について学習する(日野第二中学校)
- ・ペットボトルキャップの回収(日野第三中学校・三沢中学校・平山中学校・他2校)
- ・ボランティア活動
- ・リサイクル運動(分別・収集の呼びかけと徹底)
- ・理科・社会・技術家庭など教科を通した環境教育
- ・環境についての調べ学習、理科の授業で環境について考える(平山中学校)
- ・エネルギーについての学習を通して、持続可能な社会を作るために必要なことを考えた。(平山中学校)

(3)学校等による環境への取組状況

④ まとめ

多くの学校等において、種々の取り組みが行われています。

傾向としては、低年齢ほど、自然や動植物に触れ合うなど、情操教育的な効果が期待できる環境教育が多く実施されているといえます。年齢が進むにつれて、自然と触れ合う機会は少なくなり、環境教育のテーマがごみ問題や地球温暖化問題へ移行していくことがうかがえます。施設としての取り組みでは、ごみの分別、節電、節水については多くの学校等で取り組まれていますが、太陽光発電、雨水の浸透・利用、グリーンカーテンなどについては実施率が低く、費用面・設備面での課題があるものと考えられます。

(アンケートに回答いただいた学校等)

市立幼稚園

第二幼稚園, 第四幼稚園, 第五幼稚園, 第七幼稚園

私立幼稚園

日野・多摩平幼稚園, 日野台幼稚園, 欣浄寺みのり幼稚園, 日野ふたば幼稚園, 光塩女子学院日野幼稚園, 日野わかさ幼稚園, 百草台幼稚園, 日野ひかり幼稚園, 杉野幼稚園

市立保育園

とよだ保育園, たまだいら保育園, ひらやま保育園, あらい保育園, みさわ保育園, たかはた台保育園, みなみだいら保育園, あさひがおか保育園, もぐさ台保育園, おおくぼ保育園, しんさかした保育園

私立保育園

栄光保育園, 至誠第二保育園, つくしんぼ保育園, 日野保育園, 日野第二保育園, 日野わかば保育園, 日野わかば保育園高幡分園, 万願寺保育園, ひよこハウス多摩平, ひよこハウス豊田, たかはた北保育園, 栄光保育園南平分園, しせい太陽の子保育園, 至誠あずま保育園, 栄光平山台保育園, 芝原保育園, 栄光豊田駅前保育園, 日野駅前かわせみ保育園, 至誠いしだ保育園, むこうじま保育園, 吹上多摩平保育園

小学校

日野第一小学校, 豊田小学校, 日野第三小学校, 日野第四小学校, 日野第五小学校, 日野第六小学校, 潤徳小学校, 平山小学校, 日野第八小学校, 滝合小学校, 日野第七小学校, 南平小学校, 旭が丘小学校, 東光寺小学校, 仲田小学校, 夢が丘小学校, 七生緑小学校

中学校

日野第一中学校, 日野第二中学校, 七生中学校, 日野第三中学校, 日野第四中学校, 三沢中学校, 大坂上中学校, 平山中学校

高等学校

都立日野高校, 都立日野台高校, 都立南平高校

4. 環境への取組状況

(4) 大学による環境への取組状況

実践女子大学の環境への取組

〒191-8510 日野市大坂上 4-1-1 (042-585-8817) URL <http://www.jissen.ac.jp/>

実践女子大学では、平成 26 年 4 月に文学部、人間社会学部及び短期大学部が渋谷校地に移転しましたので、現在日野大坂上校地では、生活科学部のみが教育を行なっています。学生数が 3 分の 1 になりましたので、本来、消費電力は大幅に削減されるのですが、移転に引き続き既存校舎の改修、除却工事を実施するとともに、新講義棟建設工事を行いました。その関係で消費電力の削減はまだ十分ではありませんが、平成 27 年度の電気使用量は 2,226kW で前年度比 1.3%の消費削減となりました。

新築した講義棟は、サーマルチューブにより地中熱を採熱して安定した地中の温度を活かすシステムの導入、温まった空気が自然に上昇することを利用した重力換気システムのソーラーチムニーの採用、全体空調によるエネルギーロスを防ぐため人の接する床下からじんわり空調を行う床放射空調を取り入れるなど、自然の力を利用した先進的エコシステムにより快適さと環境配慮を両立させた省エネルギー対応の施設となりました。

また、全キャンパスで省エネルギープロジェクトを組織して、省エネポスターの作成などによる全構成員の意識の向上、クールビズ、ウォームビズの実施と使用していない講義室の消灯、PC、AV 機器等の電源 OFF チェック、不在時の空調の停止、省エネ担当者がパトロールするなど、引き続き消費電力・エネルギーの削減に取り組んでいきます。

首都大学東京日野キャンパスの環境への取組

〒191-0065 日野市旭が丘 6-6 (042-585-8610) URL <http://www.sd.tmu.ac.jp/>

公立大学法人首都大学東京日野キャンパスでは、教員、職員、学生だけでなく、生協や清掃事業者、警備事業者なども含むすべての関係者が同じキャンパスに生活する一員として、それぞれの立場を超えて、自然環境と人間環境の両立に配慮したエコキャンパスの整備と未来を志向したエコライフスタイルの実践に取り組んでいます。

例えば、教職員や警備事業者などの関係者は、夏季における節電対策のライフスタイルの実践として暑さをしのぎやすい服装での執務を行う「夏のライフスタイル」を行っています。

また、首都大学東京全体で、環境に配慮又はそれに寄与するための研究活動や高い環境意識を持った学生を社会へ輩出する活動として「エコキャンパス・グリーンキャンパス」を推進しており、日野キャンパスにおいても推進部会を置いて、具体的な取り組みを検討及び実施しています。

この取り組みの一環として、2016 年度も、学生主体の環境保全活動を進めるため、全研究室に学生のエコリーダーを設置しました。

2016 年度の主な省エネルギー施策

- ・ゴミ分別の徹底(ゴミ箱を施錠し、廃棄時間を設定したうえ、事務室で分別確認を実施)
- ・ポスターによる節電等の啓発強化
- ・日野市の環境学習ごみ講師による「ごみの分別講習」開催(学生エコリーダー対象)
- ・不要となった物品の斡旋(リユース)
- ・再資源化を目的にしたパソコンや周辺機器及び古紙類等の売払いを実施
- ・空調機器の効率的運用や適切な温度設定により電気等の使用量を削減

明星大学の環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (042-591-5111) URL <https://www.hino.meisei-u.ac.jp/>

明星大学は、2010 年度に日野市、明星大学、東京都の間で「東京グリーン・キャンパス・プログラム」の協定を結んで以来、日野市東光寺緑地保全地域を活動フィールドとした授業及び学生

のサークル活動を行ってきました。2010 年 12 月に発足した明星大学緑地環境ボランティアサークルクローバーの部員は、月に 1 回の緑地管理ボランティアの会の活動に、学生ボランティアとして参加しています。定例活動では、竹や樹木の伐採を行う他、季節の行事として筍掘り等も実施しています。

10 月 16 日に環境科学系 1 年生の 50 名が、授業の一環として緑地保全活動を行いました。活動は 6 名で 8 班に分かれ、各班にはクローバーの 2～3 年生がアシスタントとして 1 名配属され、緑地管理ボランティアの会の方に指導していただき、モウソウチクの伐採や下草刈りを行いました。林床部がアズマネザサやススキなどに覆われ生物の多様性が失われていましたが、本活動により、毎年少しずつ、絶滅が危惧されている希少種などの生育環境が整備されています。

東光寺緑地保全地域において伐採したモウソウチクは、1 年生全員で 11 月 8 日に八王子市の夕焼け小焼けふれあいの里において、炭焼きを行いました。伐採した樹木は林床に捨て置くのではなく、リサイクル利用の一環として活動しています。日野市内では現在、残念ながら動いている炭焼き窯はありません。今後どうにかして、市内で炭焼き窯を立ち上げたいものです。

(5)事業者による環境への取組状況

日野市環境基本計画ではその主体を市民、民間団体、事業者、市の四者としています。2002 年度に国内でも先進的な取り組みとして、事業者自らがその事業内容を地域に積極的に公開する「リスクコミュニケーション」を始めたことをきっかけに、白書でも市内の事業者の環境への取り組みを掲載しています。

(株)いなげや 環境への取組

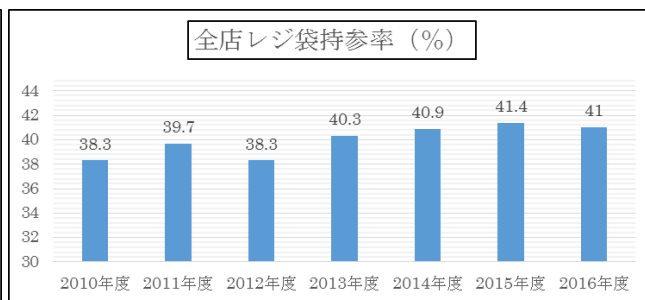
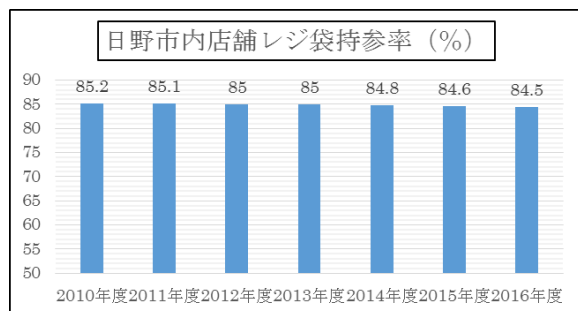
〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1(本社) (042-537-5111) URL <http://www.inageya.co.jp/>

いなげやの環境問題への取組

レジ袋有料化の取組

日野市・杉並区の店舗におきまして各行政と地域のお客様のご協力のもと“レジ袋無料配布中止”を実施しております。

マイバックをお持ちでないお客様には繰り返し使えるレジ袋を 1 枚 5 円で販売しており、販売でえられました益金金額で、近隣の小学校に環境教材を寄贈致しております。



店別削減実績データ(累計)

(17'3月時点)

	レジ袋削減枚数(枚)	CO2削減量(kg)	石油換算量(ℓ)	杉1本換算(本)
日野駅前	2,836,640	175,872	51,911	12,562
日野栄町	3,143,730	194,911	57,530	13,922
日野万願寺	5,982,103	370,890	109,472	26,492

4. 環境への取組状況

アイバスケットの推進

アイバスケットは精算後詰め替える手間もなく、そのままお持ち帰りできる便利なものです。



アイバスケットをもっていなげやに



アイバスケットを店内のかごと重ねてお買い物



レジ精算でアイバスケットに商品を移します。
支払い済みのしをつけてそのまま持ち帰り

食品リサイクルへの取組

2016年4月現在、96店舗で食品残渣のリサイクルを実施しています。
店舗より野菜屑やパンなどを分別回収し、飼料（豚の餌）、たい肥、屋上緑化用の人工土壌に再利用しています。
もちろん日野市にある3店舗も実施しております。

作業場での分別回収を実施



野菜屑やパン等から豚の餌に



従業員への啓蒙活動



マイバッグ持参活動

マイはし運動

今日は歩こう

ノーカーデー

ペットボトル回収で循環型社会の推進と地域貢献への取組



日野駅前店と日野万願寺駅前店では、ペットボトル自動回収機を設置し、再びペットボトルに再生させるという循環型社会の実現に取り組んでおります。

お客様から集まったペットボトルは1本につき0.2円に換算して、店舗周辺の小学校へ、環境備品の寄贈をしております。



すこやけくの森・・・花粉の少ない杉の植樹と森林整備活動でCO₂の削減を推進中



東京都青梅市にある「花粉の少ない杉」は創業 110 周年を記念して、2010 年に植樹しました。10 年間にわたり、整備費を負担し森林の整備活動を新入社員を中心に毎年実施しております。

「すこやけくの森」は順調に成長を続けております。

コニカミノルタ東京サイト 環境への取組

〒191-8511 日野市さくら町 1 (042-660-9426)

URL <http://konicaminolta.jp/>

コニカミノルタグループの取り組み

コニカミノルタグループは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050 年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン 2050」を策定しました。エコビジョン 2050 を実現するためのマイルストーンとして、製品ライフサイクルにおける CO₂ 排出量を 2016 年度までに 2005 年度比で 40%削減することを中期目標としています。

エコビジョン 2050

1. 製品ライフサイクルにおける CO₂ 排出量を、2050 年までに 2005 年度比で 80%削減する。
2. 限りある地球資源の有効活用の最大化と資源循環を図る。
3. 生物多様性の修復と保全に取り組む。

グリーンプロダクツ(製品)への環境の取り組み

コニカミノルタは、優れた環境性能を持つ製品を評価・認定する独自の「グリーンプロダクツ認定制度」を導入し、2011 年度から運用しています。この制度は、事業や製品特性に合わせた環境価値を創出し、お客様や社会での環境負荷低減に貢献することを目的とするものです。

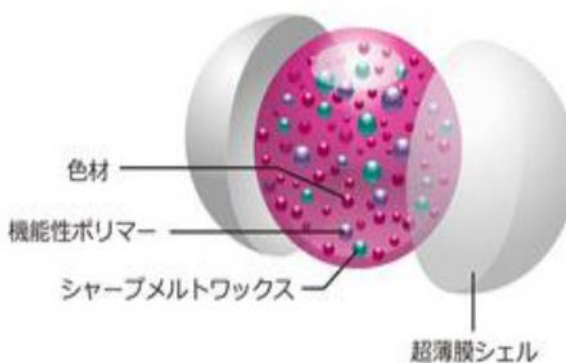
【製品紹介】

①低温で定着できる「デジタルトナーHD」
複合機では、用紙にトナーを定着させる際に加熱する必要があり、そのための消費電力が全体の 6 割以上を占めています。コニカミノルタでは、より低温で定着できるトナーの研究開発を進め、独自開発による重合法トナー「デジタルトナーHD」を開発。定着温度を従来機種より約 25℃下げることに成功し、消費電力の削減に貢献しています。

②使用済みペットボトル・PC ガロンボトルを複合機の外装材に再生

使用済みペットボトルおよびガロンボトルを複合機の外装材にリサイクルするため、強度や難燃性、成型容易性を向上させる技術開発に取り組んできました。ケミカルプロセッシング技術をさらに進化させ、再生素材中で使用される市中回収材料の割合を約 70%まで高めた再生 PC/PET の開発に成功しました。外装材部分の使用を拡大しています。

デジタルトナーHD^E



再生 PC/PET を採用した「bizhub C368 シリーズ」

東京サイト日野「救いの泉」から水供給など、地域の災害対応を支援

東京サイト日野は、2014 年度に、保有する深井戸及び浄化設備(ろ過設備、殺菌・給水、設備、排水設備)に自家発電装置を配備し、停電時においても清涼な地下水を継続供給できる防災水資源「救いの泉」を完成させました。(飲料水:700 m³/日、生活用水:6000 m³/日供給可能)。

4. 環境への取組状況

日野市及び日野市立病院と災害時協力協定を締結し、地震などの災害時に、日野市立病院と近隣住民に飲料水および生活用水を提供します。平成 28 年度には日野市および日野市立病院と合同給水訓練を実施し、実際に東京サイト日野構内の深井戸から日野市立病院の人工透析室までの給水が円滑に行えることを確認しました。

この豊富で清浄な水資源を有効に活用し、今後も地域のために役立て、地域を守ることに貢献します。



防災水資源「救いの泉」

GE ヘルスケア・ジャパン(株) 日野本社・工場 環境への取組

〒191-8503 日野市旭が丘 4-7-127 (042-585-5111) URL <http://www.gehealthcare.co.jp/>

1. GE エコアワード Winner

2016 年、日野工場 ISS 製造部が、GE エコアワードで Winner を受賞しました。GE エコアワードとは、全世界の GE の工場やサイトから、優れた環境プロジェクトを選び抜くコンペティションです。

2016 年は全世界から 150 プロジェクトのエントリーがあり、日野工場からは、5 つのプロジェクトをエントリーしました。その中から ISS 製造部のプロジェクト (CT スキャナーに使用する部品の品質改善を行い、歩留まりが 88%⇒96%へ向上したプロジェクト) が評価され、Winner となりました。

環境的には不良品廃棄の大幅削減及び、作り直しによる材料の削減が評価されました。



2. ISO14001 Ver. 2015 認証

2016 年 8 月、日野工場は ISO14001 Ver. 2015 を認証取得しました。

製品ライフサイクル全体を通した取り組みとして、省エネ型の新製品開発から始まり、Lean 展開による高効率な生産ラインで高品質な物作り。お客さま先の病院で稼働しているシステムをインターネットでつなぎ、リモート診断やリモート点検によるサービスの提供。お客さま先にて古くなり入替えとなったシステムを中古製品として再生するまで、製品ライフサイクルの上流から下流までを網羅した環境活動を推進しております。



3. 100% LED 照明 (Office エリア)

2016 年、ついに全ての Office エリアが LED 照明になりました。年間約 100 トンの CO₂ 削減となり、さらに LED は蛍光灯より発熱が少ないため、夏場の空調の負荷低減も期待できます。何と言っても Office が明るくなり、快適に執務することができるようになりました。



GE ヘルスケア・ジャパンは、今後も、環境に対する取り組みを推進してまいります。

(株) スーパーアルプス 環境への取組〒192-0011 八王子市滝山町 2-351 (本社) (042-692-2739) URL <http://www.superalps.co.jp/>

当社では、環境への取り組みとして、大きく分けておもに、次に挙げる2つの面で推進しております。

1. 省エネルギー、省資源の取り組み
2. 廃棄物の削減、リサイクルの推進

まず、ひとつめの省エネルギー、省資源についての中心となるのが、節電対策です。2017年は、南平店を一時閉店し、建物を解体、そして新店舗を建設いたします。そのことにより、①冷蔵冷凍設備が一新されて最新の省エネルギー型のものに入れ替わります。また、②照明についても、すべてLED化します。さらに、③空調設備についても最新の省エネルギー型のものに入れ替わります。この3点を実施することにより、店舗の電力使用量は30～40%削減されると推測しています。南平店以外の店舗におきましても、冷蔵冷凍設備・空調設備の入れ替え、照明のLED化を進めてまいります。他、店内のエアコンについては、夏の高稼働時期を前に、専門業者による内部洗浄を行い、効率化に努めています。また、節電以外の取組として、全店に節水コマの設置を完了いたしました。店舗内の全蛇口に設置することで、水道使用量が約13%削減出来ました。節水コマは純チタン製を採用しましたので、摩耗・劣化することなく節水効果の継続が期待できます。

次に、ふたつめの、廃棄物の削減、リサイクルの推進についてです。現在、分別・再生を行っているものとして、食品残渣、プラスチック、ペットボトル、キャップ、トレイ、たまご容器、牛乳パック、空き缶、段ボール、紙、発泡スチロールがあります。従業員やお客様への啓蒙活動を進めてさらに回収率を上げていきたいと考えております。また、店舗への納品形態について、定期的に繰り返し取引のある業者様につきましては、可能な範囲で、コンテナによる納品を推進していただいております。他、エコバック・マイバック持参に対して、2ポイント、2円相当のポイント付与を継続して実施し、レジ袋の削減に努めています。

セイコーエプソン(株) 日野事業所 環境への取組〒191-8501 日野市日野 421-8 (042-586-6226) URL <http://www.epson.jp/SR/environment/>

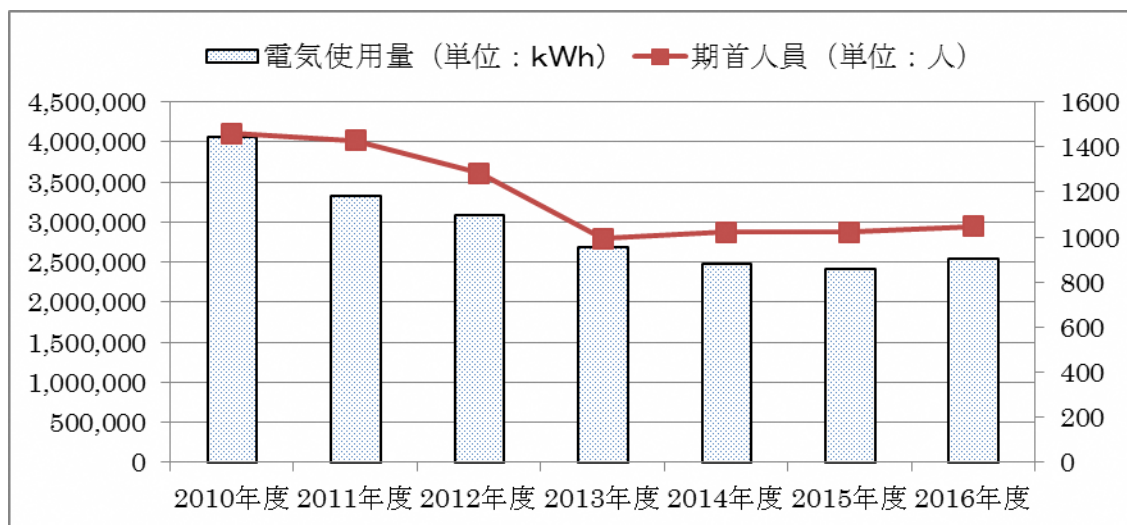
セイコーエプソングループでは、経営理念に掲げた『地球を友に』のもと、ものづくり企業としての強みである革新的な『省・小・精の技術』で商品・サービスのライフサイクルにわたる環境負荷低減をお客様価値として提供し、持続的な発展をもたらすという方針を掲げて環境活動への取り組みを推進しています。

当事業所はセイコーエプソンとグループ会社で構成されており、各社の専門分野における環境活動は各社それぞれの業務の中で推進し、当事業所全体での環境活動は各社共通課題の「省エネ」、「省資源・再資源化」、「地域社会貢献」を3本柱として、連携・協力して推進しています。

1. 省エネ活動

省エネに関する社内ガイドラインを設けて、グループ全体で省エネ活動を推進しています。当事業所においては事業所内の各社の連携・協力のもと、業務体制の見直しによるスペース集約、基礎設備の稼働制限・一部更新、空調管理の徹底（夏期28℃、冬期20℃設定）、定時退社日の徹底等による節電対策およびこまめな照明消灯等による職場における全従業員参加の節電活動を展開し、2016年度は電気使用量を2010年度比で37%削減することができました。

4. 環境への取組状況



2. 省資源・再資源化

事業所から排出される廃棄物の 27%が紙類、34%が金属くず、15%がプラスチック類で、そのほとんどを再資源化しています。また、紙類については印刷環境の見直しと最適化の推進により、排出量の減量化にも努めています。

一方、再資源化できない可燃ごみ（不衛生なごみ）については、1 人 1 日あたりの排出量を指標として排出量抑制活動を推進しており、2016 年度は年間平均値で 14.7 g という成果をあげることができました。

3. 社会貢献活動

春・秋 2 回の日野市内一斉清掃への参加、地域公共団体での役員活動、エコキャップ活動、特別支援学校の職場体験実習受入、フットサル大会への協賛および地域自治会との交流等、地域との共存に重点を置いた社会貢献活動への取り組みを推進しています。

また 2012 年度からは、ベルマーク運動への支援拡大を図るため、使用済みとなった当社製インクカートリッジとトナーカートリッジの回収を当事業所内でもはじめました。当事業所に勤務する従業員のみならず近隣住民の方やお客様のご協力もあり、2016 年度は 13,705 ポイントをベルマーク財団経由で寄贈し、資源の有効活用と廃棄物の減少による地球環境保全を図りながら、教育支援という社会貢献活動への参画を実現しております。



日野自動車㈱ 環境への取組

〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 (042-586-5563)

URL <http://www.hino.co.jp/>



写真：左から、大型観光バス「日野セレガ」、大型トラック「日野プロフィア」、
中型トラック「日野レンジャー」、小型トラック「日野デュトロ」

日野自動車は「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」の企業理念のもと、環境保全を経営における重要課題と位置づけ、積極的な活動を推進してきました。地球規模で進む地球温暖化や環境汚染を低減していくことは人類共通の課題であり、グローバル化を進める日野自動車の果たすべき社会的責任も大きくなっています。「社会・地球の持続的な発展」のためにも、今後も日野グループ全員参加で積極的に社会貢献や環境保全に取り組んでいきます。

1. 製品開発における環境への取組み

日野自動車は1991年に世界で初めてハイブリッドバスを商品化・販売して以来、常に業界をリードしてきました。近年ではCO₂を発生しない水素をエネルギーとする燃料電池バスの開発にトヨタ自動車殿と共同で取り組みました。これからも日野自動車が持つ技術力を活かし、次世代の物流を担う商品を世界に提供することにより、環境保全に貢献していきたいと考えます。

2. 生産活動における環境への取組み

生産活動においても、日野自動車は環境負荷低減活動（CO₂削減活動、省資源活動、節水活動など）に積極的に取り組んでいます。

設備更新時等には、企画・設計段階から「順法」「環境リスクの未然防止」「環境パフォーマンス向上」を追求する『エコファクトリー活動』を通じて、環境に配慮した工場設計を行っています。また中期計画となる「環境取り組みプラン」を5年ごとに策定し、具体的な目標を掲げて「環境にやさしい製品を環境にやさしく作る」活動を推進しています。

3. 地域社会との交流による環境への取組み

日野自動車は周辺地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしています。情報交換会や地域行事、定期的な懇親会などを通じて得られた皆様の声を企業市民としてしっかりと受け止め、日野自動車の環境活動につなげていきたいと考えています。

4. 環境への取組状況

富士電機（株） 東京工場 環境への取組

〒 191-8502 東京都日野市富士町 1 (042-583-6115) URL <http://www.fujielectric.co.jp/>

富士電機環境保護基本方針として

- 1) 地球環境保護に貢献する製品・技術の提供
- 2) 製品ライフサイクルにおける環境負荷の低減
- 3) コミュニケーションの推進

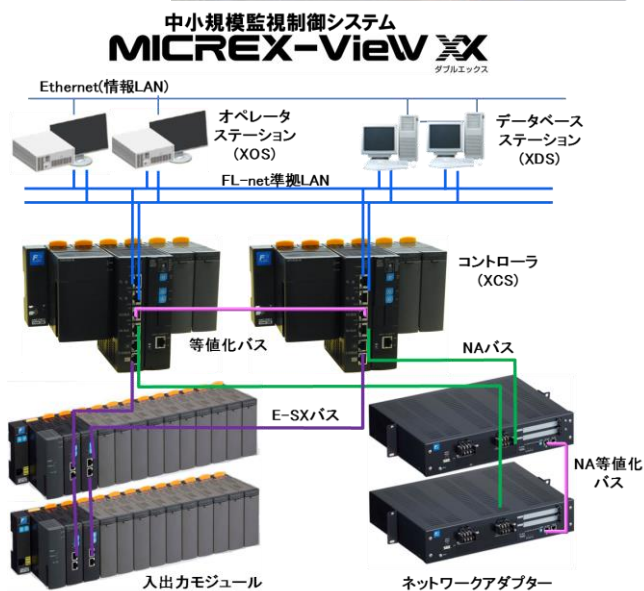
があります。この項目に対応する最近の事例をご紹介します。

1. 新棟の建設(地球環境保護に貢献する製品・技術の提供)

2015 年 11 月に当地区内に技術開発を中心とした新棟を建設しました。建物の規模は鉄骨造 6 階建て、延べ床面積は約 18,000 m²(免震構造)となり、建物仕様はスマート BEMS(ビルエネルギーマネジメントシステム)を中心とした省エネ、安全・安心に配慮した設計となっております。スマート BEMS では燃料電池、太陽電池、蓄電池を導入したエネルギー計測・予測最適制御システムで他の空調設備と合わせて工場のエネルギーの約 7.7%(原油換算)の削減が予想されます。

2. 新監視制御システムの開発・製造・販売 (製品ライフサイクルにおける環境負荷の低減)

富士電機東京工場では監視制御システム製品 MICREX-View XX を開発・製造・販売しています。本製品の中核であるコントロールステーション XCS-3000 は、従来機種にくらべ容積が 70%減少、消費電力が 53%減少、ネットワーク通信速度が 10 倍となり、製品ライフサイクル全体で環境負荷の低減に貢献しています。この製品は日本電機工業会(JEMA)2106 年度表彰で奨励賞を受賞しています。



全体システム構成

3. 日野市遊休農地活用協力開始(コミュニケーション)

富士電機東京工場地区の CSR 活動として今年から日野市遊休農地の活用を始めました。日野市の遊休農地は高額課税されるため売却が進み住宅化で緑地が減少しています。それを防止するため週末農作業として労働力を提供し、対価として農産物を受け取る活動を本年 1 月から開始しました。活動団体名を「富士しんせんぐみ」とし富士電機及び関係会社の社員とその家族・OB がボランティア参加で活動しています。



日野市遊休農地活用協力の畑

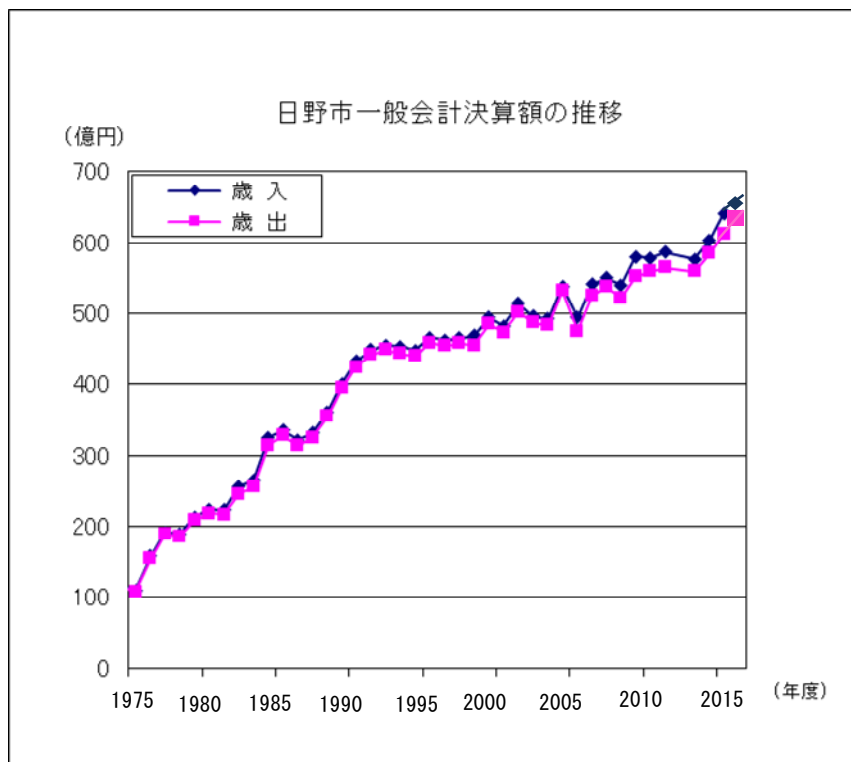
5. 環境関連決算額（2016 年度）

(単位 千円)

関連分野／項目		2016 年度
緑	環境緑化基金繰入金	222,700
	農業体験等推進事業	65
	農業改善経費	127
	振興対策経費	7,040
	市民農園育成経費	200,280
	援農制度育成経費	553
	都市農地保全自治体フォーラム・都市農業シンポジウム経費	869
	認定農業者支援経費	988
	援農ボランティアコーディネート事業経費	70
	日野産ブランド支援事業経費	207
	学校給食用地元野菜等供給支援	7,737
	七ツ塚ファーマーズセンター管理運営費	8,114
	都市農業活性化支援事業経費	75,000
	公園管理経費	111,496
	公園整備経費	519,575
	緑化推進事業経費	25,885
	緑の保全事業経費	13,253
	七生丘陵の自然と歴史調査事業	181
	田んぼの学校運営業務経費	224
水	みんなで川へ繰り出そう！事業経費（衛生費）	6,016
	し尿処理施設経費	8,992
	し尿収集経費	30,511
	し尿処理施設整備経費	19,657
	河川総務費一般管理事務経費	1,121
	清流啓発事業経費	2,556
	雨水浸透施設設置事業経費	921
	河川維持管理経費	166,135
	河川新設改良経費	7,614
	「水都・日野」事業経費	10,142
	下水道事業繰出金	1,923,268
	生ごみ処理機保守	358
	生ごみ処理機借上料	46
	クリーンセンター維持経費	67,095
	清掃総務費一般管理事務経費（人件費を除く）	19,706
	ごみゼロ施策推進事業経費	140,301
	資源回収奨励事業経費	14,546
	資源物回収事業経費	397,095
ごみ	容器包装リサイクル法関係事業経費	37,287
	資源有効利用促進法関連事業経費	73
	生ごみリサイクル事業経費	2,472
	広域循環組合経費	440,254
	浅川清流環境組合経費	98,182

関連分野／項目		2016 年度
ごみ	第3次ごみゼロプラン策定事業経費	2,596
	ごみ処理施設経費	133,272
	ごみ処理施設延命化対策経費	261,714
	可燃ごみ収集経費	387,090
	粗大ごみ収集経費	58,709
	不燃ごみ収集経費	185,291
	動物死体収集運搬経費	1,996
	ごみ焼却施設運転管理・警備経費	123,660
	ごみ処理施設排出物調査経費	1,911
	クリーンセンター施設更新準備経費	28,987
	P C B廃棄物処理経費	2,241
	新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費	138,112
地球温暖化防止	ふだん着で行うCO ₂ 削減事業経費	2,066
	歩きたくなるまちづくり経費	5,911
	L E D街灯対策経費	21,578
	自転車対策経費	39,531
生活環境	交通網整備支援経費	100,815
	消費者啓発事業経費	2,300
	消費生活相談事業経費	8,069
	消費生活運動育成事業経費	705
	地域の食育推進事業	26
	第3期食育推進計画策定経費食育推進会議を含む	3,163
	生きものの共生事業	1,634
	空き地環境保全経費	15
	市内一斉清掃事業経費	1,329
	喫煙マナーアップ経費	517
	公害環境対策経費（人件費を除く）	4,857
	空き家対策経費	976
総合	市民参画での居場所づくり推進経費	385
	環境審議会事務経費金	261
	環境保全推進経費	64
	再生可能エネルギー活用推進事業経費	6,044
	環境情報センター経費（人件費を除く）	8,323
	生物多様性地域戦略推進事業経費	5,940
	（仮称）東豊田複合施設建設準備経費	168,400
	まちづくり条例経費	1,036
	まちづくり計画経費	26,262
	開発指導・地区計画届出受理経費	214
	ユニバーサルデザイン事業経費	677
	みんなで川へ繰り出そう！事業経費（土木費）	19,764
		6,345,721

5. 環境関連決算額



日野市一般会計決算額の推移

2016 年度一般会計決算額

歳入 65,978,549,853 円

歳出 63,685,222,189 円

日野市一般会計決算額は（歳出）4.0%増。環境関係決算額は 14.8%増。

<主な増加予算>

- 増加
- ・環境緑化基金繰入金
 - ・市民農園育成経費
 - ・し尿処理施設整備経費
 - ・河川新設改良経費
 - ・クリーンセンター施設更新準備経費
 - ・新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費
 - ・歩きたくなる街づくり経費
 - ・喫煙マナーアップ経費
 - ・まちづくり条例経費

- 新規
- ・みんなで川へ繰り出そう！事業経費（衛生費、土木費）
 - ・「水都・日野」事業経費
 - ・浅川清流環境組合経費
 - ・P C B 廃棄物処理経費
 - ・L E D 街路灯導入促進事業経費
 - ・第3期食育推進計画策定経費
 - ・市民参加での居場所づくり推進経費
 - ・新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費
 - ・（仮称）東豊田複合施設建設準備経費

6. 市役所の環境配慮の状況

(1) 日野市環境マネジメントシステム

日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし導入しています。

<これまでの経過>

2000 年度	日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録
2003 年度～ 2007 年度	生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館（全館）を適用範囲に加えた。
2011 年度	クリーンセンター事務所を加えた。
2012 年度	認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行（12/6）※
2013 年度	2014 年度導入予定の独自 EMS の構築に向けて準備
2014 年度	日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行
2016 年度	環境方針に「市は市民・事業者・市民団体と連携・協力」を追記

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

<環境マネジメントシステムでの取り組み>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します（2016 年度は 67 プログラムを実施）。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行い、目標の達成に向けて行動しています。

<取り組みのチェック及び評価制度>

1 年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取り組み（プログラム）状況や、決められた手順に従い実施しているかをチェックするものです（2016 年度は 7 月 19 日、20 日実施）。2014 年 4 月に日野市独自の「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行なっていくもので、外部機関の検査が無いことから、自己チェックが大変重要となります。



2016 年度環境監査風景

そこで、環境監査の充実を目的に調布市、府中市、昭島市と 2014 年 9 月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4 市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても 4 市でお互いにチェックしています。

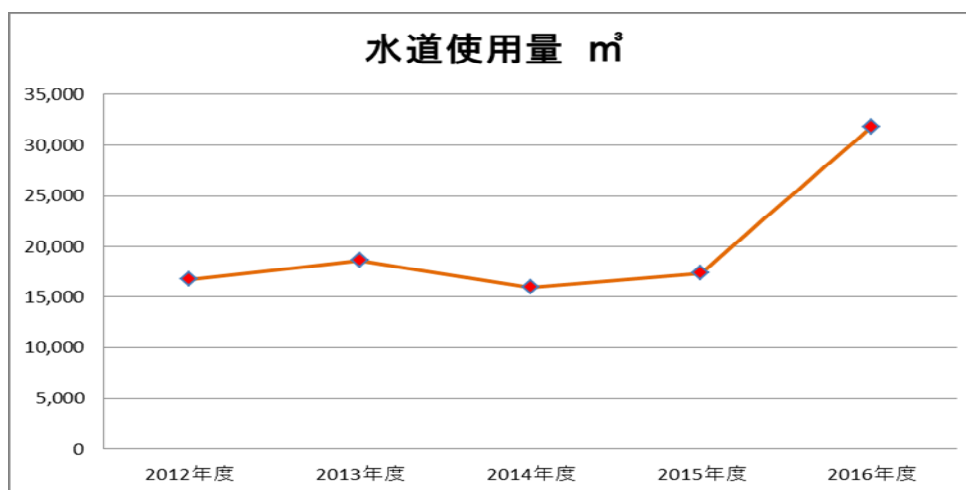
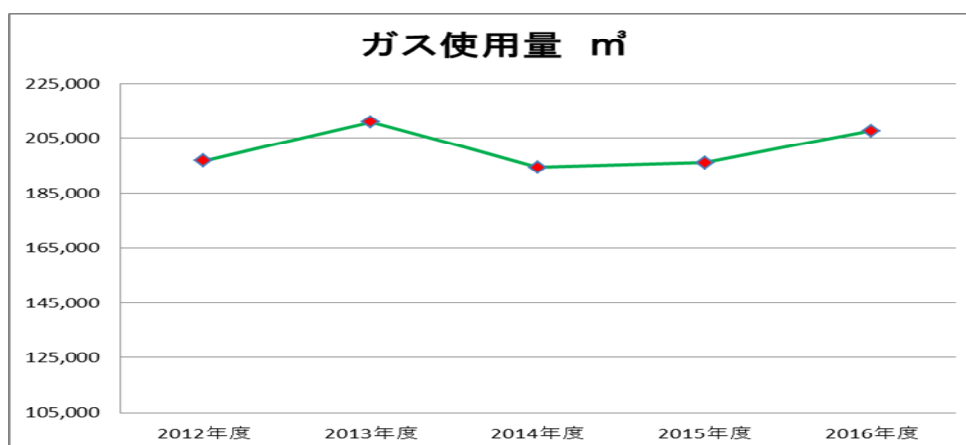
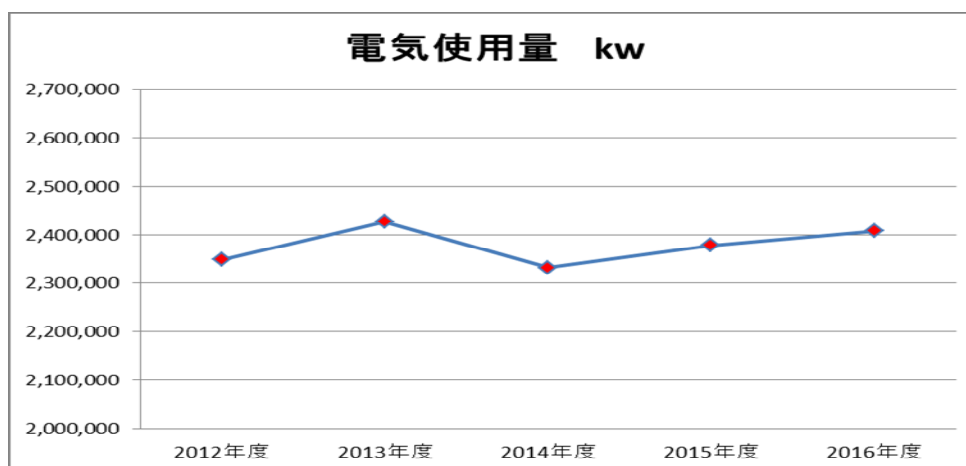
〔クローズアップ優秀部署表彰の取組事例〕

年度	該当部署	取組事例
2016	たかはた台保育園	ごみの分別について、職員と共に園児達も遊びを通して取り入れることで学び、エコの意識がよく浸透している。オリジナル紙芝居等を使い、ひのエコを園児達に楽しく伝えている。 また、「ごみ情報誌エコー」において園の取り組みが紹介されるなど、市民への啓発もできている。
	地域協働課	市民が生ごみリサイクルにより作成した肥料を利用し、生活・保健センターの花壇に花を植えている。地域協働課の特性を生かし、市民と連携・協力して環境美化へ取り組んでいる。本活動のPR看板やダンボールコンポストを施設入口付近に設置し、市民に環境啓発を行っている。

6. 市役所の環境配慮の状況

〔環境負荷低減の実績～本庁舎～〕

職員 1 人ひとりの省エネ・省資源の意識と取り組みを確実に実践してきた結果が下記のグラフに表れています。(グラフ参照) IS014001 導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポット、コーヒーマーカーなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や 1 人 1 台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。東日本大震災の影響による電力の安定供給が危ぶまれた 2011 年の大規模な節電対策に対しても、混乱することなく粛々と取り組めたのはこの 12 年間の経験があったからだと思われます。今後も引き続き、環境負荷低減に取り組んでまいります。



※ひのエコ適用全施設分合計

7. 環境基本計画の推進体制

（１）環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から5年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO₂分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

【みどりグループ】

上半期は、環境基本計画に沿ってみどりの重点施策をどうとらえ、どう進めるかについて、グループ内でディスカッションしました。後半は11月にみんなの環境セミナーを環境情報センターと協働で実施しました。前年度の雑木林を学ぶセミナーの最後に行ったディスカッションから、子どものころからの雑木林とのふれあいや学びが重要であるとの認識を持つに至りました。そこで、今回は子ども向けに雑木林のことをよく知り、親しんでもらう親子向けセミナーにしました。黒川清流公園において、昔の雑木林を核とした暮らしの紙芝居、散策、そして雑木林の管理のための作業体験、最後に雑木林に育まれるカブトムシ幼虫の採集を体験してもらいました。今後も市民向けにこのようなみどりの課題を知ってもらう機会を、みどりグループで積極的に作っていかうということを話し合いました。

【水グループ】

重点施策9「用水路改修補修計画の策定」のまとめの未確認、および環境基本計画中間検証報告書に提示された方針での水グループ会議の再開への調整にほぼ1年を要しましたが、推進会議水グループ会議を再開、月1回の定例会議で重点施策目標設定シート、進行管理シートの作成から取組めるようになりました。

環境基本計画中間報告書で決まった推進方針実行、そして環境基本計画推進会議の目的、運営で事務局環境保全課と詰める必要を感じました。

【ごみグループ】

ごみグループとしては、レジ袋削減を中心に、ごみ全般の減量・資源化に取り組んでいる「ごみ減量推進市民会議」と、生ごみリサイクルに取り組んでいる「ひの・まちの生ごみを考える会」が

7. 環境基本計画の推進体制

あります。それぞれごみゼロ推進課と毎月1回定例会議をもっています。

前者は、現在、スーパー、市民団体、行政の3者で「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催し、5月と10月のマイバッグ持参強化月間には各スーパーの店頭でマイバッグ持参率の出口調査を実施しています。

後者は、その下部組織の「生ごみリサイクルサポーター連絡会」がダンボールコンポストの普及に取り組み、一方、新井の「せせらぎ農園」では生ごみ堆肥で野菜作りをしています。

【CO₂グループ】

CO₂グループは市民、事業所に環境保全課と環境情報センターのメンバーを加えて、月1回の定例会を開催しています。

日野市環境基本計画の「低炭素社会を築くまち」を目標に、施策を具体的に進めることで、成果を出そうと努力しています。

施策の中心は、市内の全小学生を対象として夏、冬、年2回行うエコキングで、昨年冬からは保護者に対しても、アンケート調査を実施し、啓発活動をしております。

これからは、中学生への拡大を検討しております。また、企業、大学等と連携して活動の輪を広げようとしております。

来年以降は、パリ協定に謳われている「省エネ啓発、化石燃料の減少、省エネ車(EV, PHV等)の促進、森林破壊の防止」等世界的な共通課題に対する市内の取り組みを検討課題としております。

また、脱石炭と炭素税の啓発を行う計画をしております。

(2) 日野市環境情報センターの活動状況

2016年度における環境情報センターの活動状況は次の通りでした。

① 環境に関する文献や情報等の収集・発信

センターが2016年度末までに収集した報告書や年報などの文献、動植物の生態に関するビデオ・DVD・画像データなどは3,769点で、その内訳は右の表に示すとおりです。

このほかに、官公庁や環境関連の団体が発行するニュースレターやイベントのパンフレットなども収集・配布しています。

なお、年度末にはカワセミハウスへの移転準備として古い図書や文献を大幅に整理しました。

＜文献の種類＞	累積数
日野市関係	391
国関係	329
東京都関係	551
都区内・都市町村関係	459
他道府県関係	133
民間企業・大学関係	567
自治体会議・協会・諸団体出版物関係	464
単行本	754
ビデオテープ・CD-ROM・DVD	121
合 計	3,769

② 日野市環境白書の刊行

日野市環境基本計画で規定されている各種の環境目標や施策の達成状況、および行政、事業者、市民団体、市内の学校(幼、小、中、高、大学)の環境保全に対する取り組みなどの情報をとりまとめ、12月に「2015年度(平成27年度)日野市環境白書」として刊行しました。

③ 環境情報センター年報の刊行

2016年度に環境情報センターで実施した「みんなの環境セミナー」や“水と緑の日野・市民ネットワーク”主催のシンポジウムなどの内容をとりまとめ、12月に年報として刊行しました。

7. 環境基本計画の推進体制

④ かわせみ館ニュースの発行

「かわせみ館ニュース」は、環境情報センターの活動を中心に環境行政に関するトピックスや環境保全に取り組む市民団体の活動などを紹介しており、2016年度は第19号から22号まで4回（4月、7月、10月、1月）発行しました。

⑤ 日野市産業祭りへの出展

11月12日（土）、13日（日）に日野市民の森ふれあいホールで開催された産業まつりで「かわせみ館ブース」を開設しました。中央大学経済学部田中ゼミとの連携事業として実施した「黒川清流公園に関するアンケート調査」の結果発表や「水に関するクイズ」などを実施しました。

⑥ 環境学習会等の開催

a. 学校への出張授業

環境情報センターは、環境学習をサポートする市民団体「ひのどんぐりクラブ」と協力して、市内の小・中学校の総合学習（低学年は生活科）等への出張授業を実施しています。2016年度の実施回数は82回で、生徒と大人を合わせた参加者数は7,379人（前年比85%）でした。活動の詳細は68～69ページに記載する「ひのどんぐりクラブ」の項をご覧ください。

b. 成人対象（市民環境大学、みんなの環境セミナーなど）

第8期市民環境大学（20回開催）や「みんなの環境セミナー」（10回開催）など、成人対象に44回開催し、参加者は計516名（前年比97%）でした。

実施日	テーマ	講師、会場、参加団体など	参加者
2016年5月～12月	第8期市民環境大学 全20回	講師：小倉紀雄氏 地球環境問題の連続講座	326
2016年5月～11月	中央大学との連携事業14回	黒川清流公園に関する調査、産業まつりなど	42
2016.4.3	(み) カブトムシを育てよう	講師：森川正昭氏、環境情報センター会議室	30
6.18	(み) 集まれ！昆虫キッズ	講師：森川正昭氏、市役所504会議室	16
7.7	(み) 谷仲山の水と緑を見る・知る・探る<大>	講師：小倉紀雄氏、谷仲山	21
9.17	(み) 虫や風を利用する花たち<ボ>	講師：田中肇氏、鳥と緑の国際センター・南平丘陵公園	41
10.8	(み) 向島用水と水車を見る・知る・学ぶ	講師：日野の水車活用プロジェクト、向島用水水車小屋	8
10.22	(み) 里山づくり<ボ>	講師：倉本宣氏、市役所504会議室・神明上緑地	29
11.20	(み) 雑木林へGO！	講師：みどりグループ、黒川清流公園	26
12.8	(み) 向島用水を見る・知る・探る<大>	講師：小倉紀雄氏、向島用水親水路	20
2017.1.28	(み) 風力発電機を作って地球温暖化を防ごう！	講師：CO ₂ グループ、環境情報センター会議室	8
1.29	(み) 親子で楽しむ野鳥観察	講師：金子凱彦氏、小久保雅之氏、黒川清流公園	15
合 計	実施 44回	延べ人数	516

注) 1) (み)は「みんなの環境セミナー」であることを示します。また、<大>は市民環境大学の、<ボ>は雑木林ボランティア講座の公開講座であることを示します。

2) 合計延べ人数は、市民環境大学、雑木林ボランティア講座の受講生のうち、公開講座として開催された環境セミナーに参加した人数66名を除いた数です。

c. 写真展

市役所1階市民ホールでの展示企画として、日野市内で見られる昆虫や小動物などの生き物の写真展を4回開催しました。

実施日	テーマ	写真・解説提供
2016.6.16～6.27	日野の昆虫たち	森川正昭氏
8.3～8.10	日野の魚たち	鶴田大三郎氏
12.7～12.15	日野の小動物たち	井上録朗氏
2017.1.6～1.12	日野の野鳥たち	日野の自然を守る会
合 計	実施 4回	

d. 市内小学校の教員向け観察研修会

「日野市学校教員向け自然観察研修」や「学校周辺の自然観察研修」など、小学校の教員向けの環境学習や自然観察についての研修要請や「エコ・アクション」にも協力しています。

7. 環境基本計画の推進体制

⑦ 環境関連市民団体・大学等との連携・支援

行政との連携では、環境や生物多様性の計画策定、実施促進に必要な助言を、市民団体への活動支援では、活動拠点として事務局的な役割を担うとともに、専門的見地からの助言や技術指導を行なっています。

また大学との連携では、以前から中央大学経済学部田中ゼミと日野市の環境保全に向けた事業に取り組んでおり、2016年度は黒川清流公園の経済価値に関する市民意識調査を実施しました。

対 象	支援・連携団体	支援活動の内容
行 政	日野市環境基本計画推進会議	水、CO2、みどりの3 グループのメンバーとして定例会議を開催（毎月）、エコキングの調査実施（2016年度は夏・冬合わせて14,399人の小学生が参加～集計した調査結果は「Ⅲ解説・報告・資料」に収録～）、環境セミナーを環境情報センターと共同開催、など市民啓発活動の支援など
	生物多様性地域戦略策定委員会	委員会メンバーとして調査や計画立案へのアドバイスなど（2016年度委員会3回、市民参画部会3回参加）
	TRM（多摩川ミュージアム）事業	国土交通省京浜河川事務所が行うTRMのサテライトの一つとして、多摩川の魅力や保全に関する情報の発信など
市民団体	市民環境大学OB会	事務局、空間放射線量の測定実施、月例会の開催など
	全国一斉水質調査	全国調査に参加し日野市での水質調査を実施（1回/年）
	ひの緑のトラスト	事務局（数回/年）
	浅川流域市民フォーラム	会議やイベントの企画・運営（2回/月程度）
	みみネット	事務局、自然環境に関するシンポジウムの開催（3回/年）を支援
	南丘雑木林を愛する会	事務局
	真堂が谷戸ホテルの会	事務局（毎月）、ホテルのタベ実施（6月）など
	浅川潤徳水辺の楽校	協議会メンバーとして月1～2回行うイベントの企画・実施を支援（2016年度の参加者数延べ3,160人）
	雑木林ボランティア講座	事務局、年間10回の講座開催で修了生26人（延べ参加者243人）
大 学	八王子・日野子どもの水辺事業	事務局として子どもの交流イベントの企画・実施を支援（3回/年）
	中央大学経済学部	『黒川清流公園の経済価値に関する市民意識調査』の実施及び“日野市環境フェア”での調査結果の発表、“かわせみ館フェア”への支援メンバー派遣

⑧ 環境相談

市民からのヘビやハチの巣、巣から落ちた野鳥の処理、小学生からのカブトムシやバッタの飼育、夏休みの自由研究など、さまざまな相談を受け、環境情報センターで応じられるものの対応、応じられないものは専門の研究者や処理業者の紹介を行っています。

⑨ 施設の利用状況

a. 展示室・会議室

館内には展示室や図書コーナー、会議室などの施設があります。収集した調査報告書や年報、文献、動植物に関する図鑑などは図書コーナーで開架し、市民の閲覧に供しています。展示室では、市内の川や用水に生息する淡水魚の水槽、昆虫の標本や珍しい「モズのハヤニエ」の標本、オオスズメバチなど4種類のスズメバチの個体やスズメバチの巣の実物、樹齢131年のサワラの年輪標本（日野市関連年表を表示）、手作りの小水力発電機なども展示しています。

また、1階には談話コーナー（約8名）、2階には会議室（約20名）があり、環境活動を行う市民団体の会合や会議などに提供されています。2016年度における会議室の延べ利用者数は1,583名（前年比103%）でした。

b. 来館者数

2016年度に展示物の見学や学習、会議などの目的で当センターに来館された市民の数は2,656名（前年比112%）でした。その内訳は小学生179名、市民成人（中学生以上）2,073名、行政関係者404名です。来館者の月毎の推移は次の表に示すとおりです。

2016年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小学生	56	2	3	19	31	1	0	13	8	32	14	0	179
市民成人	227	188	231	226	165	138	201	165	153	141	106	132	2073
行政関係者	67	28	26	29	34	24	36	19	26	36	29	50	404
合計	350	218	260	274	230	163	237	197	187	209	149	182	2656

8. 環境審議会の意見等

(1) 審議会の意見

前回発行の白書(2015年度版)では下記のと通りの意見を日野市環境審議会からいただきました。

平成28年10月28日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、本環境白書案について、平成28年10月28日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。

今後市行政においてこれらの事項に十分に対応するとともに、次年度における白書作成時にその成果を検討するようお願いします。

記

1 各種基礎調査の継続性及び整合性の確保について

平成26年度と比較し、各種基礎調査において調査の実施方法や実施回数に変化している事例が見受けられた。「緑と清流」を標榜する日野市にとって、身近で大切な自然環境のカルテともいえる各種基礎調査に万全を期していただきたい。

以上

8. 環境審議会の意見等

前回の白書についてご審議いただいたのは平成 28 年度の日野市環境審議会の委員です。

平成 28 年度 日野市環境審議会 委員(※敬称略)

公募市民 : 大竹 貫一、岡村 和夫、彦谷 勇三、野田 実

学識経験者: 尾崎 義昭、瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、田中 優、宮沢 清子

事業者: 榎田 光仁(日野市商工会)、大塚 政雄(日野市商工会)、

松本 保志(日野自動車(株) 安全環境推進部長)、

環境保全関係行政機関、関係団体: 金子 凱彦(日野の自然を守る会)、

岸野 國男(日野市用水組合連合会長)、吉田 茂幸(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)

(2) 日野市環境審議会(平成 28 年 10 月 28 日)意見への対応について

1 各種基礎調査の継続性及び整合性の確保について

基礎調査として継続的に行ってきた、1.-2 湧水確認地点数・湧水量調査は平成 27 年度では、30 地点と平成 26 年度の 127 地点と比べ減少していたため、湧水量を算出することができませんでした。

平成 28 年度では、「緑と清流」日野市の基礎調査に万全を期し、整合性の確保ために、1.-2 湧水確認地点数・湧水量調査の測定箇所を 127 地点に戻してさらに湧水量ごとの地点数と割合も記載いたします。

(緑と清流課)

9. 省エネ法に関する措置

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、平成20年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行っています。2016年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

	エネルギー使用量(原油換算)	対前年度比
市長部局	4,271k1	92.5%
教育委員会	2,519k1	104.5%

付表1 指標・参考データ出典一覧

指標・参考データ		ページ	出典
指標 1	土地利用現況調査「森林」の割合	9	東京都土地利用現況調査(都市計画課)
指標 2	緑被率		
指標 3	農地面積	10	農林水産省作物統計(産業振興課) 都市計画課
(参考)	生産緑地面積		
指標 4	一人当たり都市公園面積	11	日野市公園調書(緑と清流課) 東京都建設局公園調書
(参考)	多摩地区の一人当たり都市公園面積		
指標 5	市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	13	緑と清流課 緑のトラスト受付簿(環境保全課)
指標 6	緑地信託面積		
指標 7	緑のトラストへの寄付件数	14	緑と清流課
指標 8	雑木林ボランティア講座修了者数		
指標 9	市民農園の面積		
指標 10	援農人数	15	産業振興課
指標 11	2016 年度に実施した「市」の開催日数		
指標 12	学校給食における地元野菜等利用率		
指標 13	給食野菜納品農業者数	16	緑と清流課
指標 14	生垣の助成件数		
指標 15	浅川の平均河川水量・水位	17	国土交通省京浜河川事務所
指標 16	月別雨量と調査地点の総湧水量	18	湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)
(参考)	湧水地点の状況		
指標 17	各用水路の水質分析結果	20	河川及び水路の水質等分析調査報告書(緑と清流課)
指標 18	河川・用水・湧水の水生生物の確認状況	21	環境保全課
(参考)	水生生物による水質の生物学的判定	22	
指標 19	水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合	24	日野市市民意識調査結果報告書
指標 20	地下水揚水量	26	地下水揚水量一覧(環境保全課) 緑と清流課
指標 21	雨水浸透ます設置個数		
(参考)	第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	27	道路課
指標 22	下水道普及率	28	下水道課
指標 23	水辺イベントの開催数		
(参考)	「ピオトープづくり」の取組件数	29	緑と清流課
指標 24	「用水守」の登録団体数		
指標 25	ごみ・資源排出原単位	31	多摩地域ごみ実態調査 (公益財団法人 東京市町村自治調査会) 日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
(参考)	ごみの行方	32	
指標 26	資源化率	33	
(参考)	ごみ量内訳	35	大手スーパーでの出口調査(ごみ減量推進市民会議) 日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 27	マイバック持参率・レジ袋辞退率		
指標 28	ペットボトル、発泡トレイの行政回収量	36	ごみゼロ推進課
指標 29	焼却ごみの組成		
(参考)	焼却ごみの組成	37	
指標 30	生ごみ処理器補助の件数	38	
指標 31	生ごみリサイクルステッカー 掲示世帯数	39	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 32	環境学習出前講座の実施回数		
指標 33	ごみ相談窓口への相談件数	41	オール東京 62 市区町村共同事業 「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
指標 34	クリーンセンター見学者数		
指標 35	新聞紙の行政回収量	42	
指標 36	二酸化炭素排出量	43	都市計画課
(参考)	エネルギー消費量		
指標 37	公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	45	環境保全課
指標 38	バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数		
指標 39	「ふだん着で CO ₂ をへらそう宣言」の宣言数及び CO ₂ 削減量	46	環境保全課
指標 40	ワットチェッカー等貸出状況		
指標 41	省エネ診断の参加事業者数	47	都市計画課
指標 42	太陽光発電等の導入補助件数		
指標 43	公共施設の新エネルギー導入状況	48	日野市市民意識調査結果報告書
指標 44	都市計画道路の整備率		
指標 45	心安らぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合	50	環境保全課
(参考)	苦情受付件数		
指標 46	マナーアップのための啓発活動状況	51	東京都環境局
指標 47	浮遊状粒子物質(SPM) 年平均		
指標 48	二酸化窒素の年平均濃度	52	窒素酸化物調査報告書(環境保全課) 酸性雨市民モニターによる計測
指標 49	二酸化窒素 24 時間測定結果		
指標 50	雨の酸性度	53	東京都環境局・成蹊学園気象観測所、日野市
(参考)	富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)		
指標 51	道路交通騒音	54	環境保全課
指標 52	横田飛行場に係わる航空機騒音		
(参考)	市内空間放射線量測定	56	ごみゼロ推進課
(参考)	災害廃棄物、焼却灰及び排ガスの放射線量		

付表 2 指標・参考データの見直しとその理由

2016(平成28)年度白書では、取り上げる指標・参考データの見直しを行いました。見直し前(2015年度)後(2016年度)の比較は下表のとおりで、見直し箇所の説明については次頁に記載しています。

分野	市の取組		指標・参考データ	2015	2016	
	施策の方向	施策		(平成27)	(平成28)	
みどり	環境の現状（望ましい環境像）の指標		土地利用現況調査「森林」の割合*1	指標 1	指標1	
			緑被率*1		指標2	
			農地面積	指標2	指標3	
			生産緑地面積*2	指標3	(参考)	
			市民一人当たり都市公園面積	指標4	指標4	
			多摩地区の一人当たり都市公園面積	(参考)	(参考)	
	自然度の高いみどり	民有緑地の公有地化等の推進	市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	指標5	指標5	
		緑地管理協定等による保全の推進	緑地信託面積	指標6	指標6	
		市民緑地活動の積極的支援	緑のトラストへの寄付件数	指標7	指標7	
		ボランティアによる里山の管理と活用	雑木林ボランティア講座修了者数	指標8	指標8	
	農地の保全と活用	市民農園等の拡充	市民農園の面積	指標9	指標9	
		援農ボランティア制度の拡充	援農人数	指標10	指標10	
		地元野菜にふれる機会の充実	「市」の開催日数	指標11	指標11	
			学校給食における地元野菜等利用率	指標12	指標12	
まちのなかのみどりの創出・保全	生け垣緑化の推進	給食野菜納品農業者数	指標13	指標13		
		生け垣の助成件数	指標14	指標14		
水	環境の現状（望ましい環境像）の指標		浅川の水位	指標15	指標15	
			湧水確認地点数・湧水量	指標16	指標16	
			湧水地点の状況	(参考)	(参考)	
			用水の水質の状況	指標17	指標17	
			河川・用水・湧水の水生物確認状況*3	(参考)	指標18	
			水生物による水質の生物学的判定*3	(参考)	(参考)	
			水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合*4	2章表記載	指標19	
	湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	地下水揚水量	指標18	指標20	
	雨水浸透・貯留利用の推進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	雨水浸透ます設置個数	指標19	指標21	
	水質の保全	生活排水および汚水処理の施設整備	透水性舗装整備状況	(参考)	(参考)	
			下水道普及率	指標20	指標22	
	協働による水辺の保全・活用	水辺に親しむ活動の推進	水辺イベントの開催数	指標21	指標23	
		水辺の保全・管理活動の推進	「ビオトープづくり」の取組件数	(参考)	(参考)	
				「用水守」の登録団体数	指標22	指標24
ごみ	環境の現状（望ましい環境像）の指標		1人1日当たりのごみ排出量	指標23	指標25	
			ごみの行方	(参考)	(参考)	
			資源化率	指標24	指標26	
			ごみ量内訳	(参考)	(参考)	
	ごみ排出量の低減	レジ袋無料配布中止の拡大	マイバック持参率・レジ袋辞退率	指標25	指標27	
		容器包装お返し大作戦の展開	ペットボトル、発砲トレイの行政回収率	指標26	指標28	
	リサイクルの推進	分別ルールの徹底	焼却ごみの組成（乾ベース）	指標27	指標29	
		生ごみの家庭内循環（自家処理）の普及促進	焼却ごみの組成（湿ベース）	(参考)	(参考)	
			生ごみ処理機補助の件数	指標28	指標30	
	市民・事業者への啓発	情報提供ツールの充実	生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	指標29	指標31	
			環境学習出前講座の実施回数	指標30	指標32	
	協働によるごみゼロの実現	新聞紙の民間回収への移行	ごみ相談窓口への相談件数	指標31	指標33	
			クリーンセンター見学者数	指標32	指標34	
	地球温暖化	環境の現状（望ましい環境像）の指標		日野市二酸化炭素排出量	指標34	指標36
エネルギー消費量*5				(参考)	(参考)	
公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率				指標35	指標37	
公共交通機関（ミニバス・バス）の利用人数				指標36	指標38	
「ふだん着でCO2をへらそう宣言」の宣言数及びCO2削減量*6				2章表記載	指標39	
省エネルギーの推進		CO2の見える化の推進	ワットチェッカー等貸出状況	指標37	指標40	
		省エネ診断の支援	省エネ診断の参加事業者数	指標38	指標41	
新エネルギーの導入		太陽光発電等導入補助の実施	太陽光発電等の導入補助件数	指標39	指標42	
		太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	公共施設の新エネルギー導入状況	指標40	指標43	
環境に配慮した交通体系の構築		渋滞の解消	都市計画道路の整備率	指標41	指標44	
生活環境		環境の現状（望ましい環境像）の指標		心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合*7	2章表記載	指標45
				苦情受付件数*7	指標42	(参考)
		日常生活をとりまく環境の充実	PRの実施	マナーアップのための啓発活動状況	指標43	指標46
		公害対策の推進	大気汚染物質の監視	浮遊粒子状物質（SPM）年平均値	指標44	指標47
	二酸化窒素の年平均濃度			指標45	指標48	
	二酸化窒素24時間測定結果			指標46	指標49	
	雨の酸性度			指標47	指標50	
	富士山ウォッチング			(参考)	(参考)	
	道路交通騒音の測定および対策の実施		道路交通騒音	指標48	指標51	
	放射線測定	航空機騒音についての対策	横田飛行場に係る航空機騒音	指標49	指標52	
		市内空間放射線量測定	(参考)	(参考)		
		災害廃棄物、焼却灰及び排ガスの放射線量	(参考)	(参考)		

【見直し箇所とその理由】

*1：指標「緑の構成比」を2つの指標「森林の割合」と「緑被率」に分けました。

（理由）森林の割合は減少しても、新緑地の創出等で緑被率は横ばいあるいは増加の可能性があるため、それぞれ評価するのが良いと考えました。

*2：「生産緑地面積」を指標から（参考）としました。

（理由）目標値が設定されていないこと、農地面積については指標「農地面積」で評価できるため。

*3：「河川・用水・湧水の水生生物確認状況」についてはこれまで（参考）「水生生物による水質の生物学的判定」の一部として記載していましたが、独立して指標として取り上げることにしました。なお、「水生生物による水質の生物学的判定」については従来通り（参考）として記載しています。

（理由）「河川・用水・湧水の水生生物確認状況」については目標値が定められており、毎年データも出ているため。

*4：「水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合」についてはこれまで第2章の表中に記載していましたが、指標として取り上げることにしました。

（理由）目標値が定められており、平成27年度に調査結果が出ているため。

*5 「「ふだん着でCO₂をへらそう宣言」の宣言数及びCO₂削減量」についてはこれまで第2章の表中に記載していましたが、指標として取り上げることにしました。

（理由）目標値が定められており、毎年データも出ているため。

*6：「心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合」についてはこれまで第2章の表中に記載していましたが、指標として取り上げることにしました。これに伴い、同指標の代替指標であった「苦情受付件数」を（参考）としました。

（理由）「心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合」は目標値が定められており、平成27年度に調査結果が出ているため。

エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



2016年度（平成28年度）
日野市環境白書
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

発行：2017年（平成29年）12月 日野市
編集：日野市立 カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田3-26-1

TEL 042-581-1164

URL <http://www.kankyo-hino.com/>

身近な生き物と共棲できる環境を次世代につなごう！